

# 市内遺跡調査概報VI

—平成8年度、石塚遺跡の調査他—



1997年3月

高岡市教育委員会

# 市内遺跡調査概報VI

—平成8年度、石塚遺跡の調査 他—



1997年3月

高岡市教育委員会

章表紙・大扉カット；石塚遺跡宮崎地区出土弥生土器

## 序

高岡市域における遺跡については、丘陵・台地部において、縄文集落跡、古墳群、城郭跡、寺院跡等が多く見られると共に、平野部においても、主に、初期農耕文化以降の集落が多く分布しています。そしてこれらの遺跡が個性ある歴史的風土や環境を形成する一部となっています。

今回、ここに報告しますのは、個人住宅等の開発行為に対して実施した石塚遺跡、須田藤の木遺跡、瑞龍寺遺跡他の発掘調査の内容です。

石塚遺跡は、高岡市街地の南西郊外に立地し、県下において初めて初期農耕文化の様相を明らかにされた遺跡として著名です。本教育委員会におきましても、ここ数年は毎年のようにここの発掘調査を実施しており、その内容の解明が進みつつあります。

須田藤の木遺跡は、高岡市域の北西側の五十里地区の遺跡です。富山湾に注ぐ小矢部川に臨む微高地に立地しております。往古の北陸道が遺跡北側を通りており、古くから交通の要所として栄えた地であります。

瑞龍寺遺跡は、高岡市街地の南側に立地する、曹洞宗高岡山瑞龍寺とその周辺の遺跡です。瑞龍寺は、本市の礎を築いた前田利長の菩提寺として、古城公園である高岡城とともに、近世の高岡の姿を止める寺院として、現在に至っており、瑞龍寺に関するもの、及びこれ以前の聚落跡等が、この遺跡の内容です。

本書が、高岡市域の歴史、文化の解明に少しでも寄与することができれば、幸いに存じます。

最後になりましたが、今回の調査実施にご協力いただきました宮崎与士昭氏、安川憲二氏、畑下弘子氏、林賢省氏、齊山健一氏を始め、関係各位、地元の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成9年3月

高岡市教育委員会  
教育長 細呂木 六良

## 例　　言

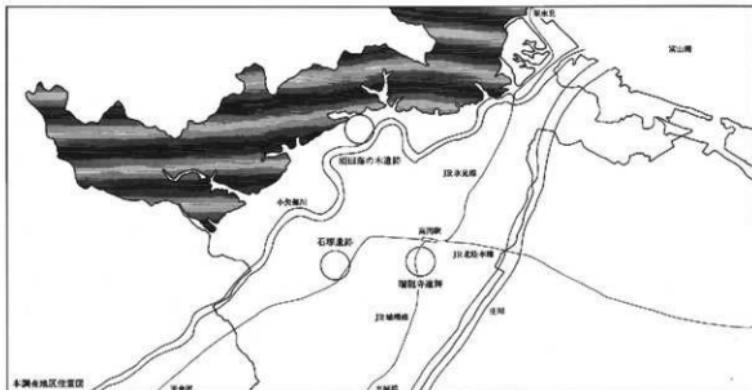
1. 本書は、開発工事に伴い実施した本調査、及び試掘調査の概要報告書である。
2. 当調査は、平成8年度国庫補助金の交付を受けた、高岡市教育委員会文化財課が実施した。
3. 本調査地区は以下の4箇所である。
  - (1) 石塚遺跡、宮崎地区  
高岡市和川1217-2
  - (2) 石塚遺跡、安川2地区  
高岡市石塚93
  - (3) 須山藤の木道跡、林地区  
高岡市五十里2021-1
  - (4) 瑞龍寺遺跡、齊山地区  
高岡市上岡町30-2
4. 試掘調査地区は12箇所である。
5. 調査関係者は次の通りである。

文化財課長；田村晴彦  
〔埋蔵文化財係〕  
主幹兼係長；石浦正雄  
係員；山口辰一、根津明義、荒井　隆
6. 本書における遺構記号は、次の通りである。

S B—建物址、S D—溝、S E—井戸址  
S K—土坑、S X—その他の遺構
7. 本書における遺物番号は次の通りである。

1101～石塚遺跡宮崎地区出土遺物  
2101～石塚遺跡安川2地区出土遺物  
3101～須山藤の木道跡出土遺物  
4101～瑞龍寺遺跡出土遺物  
5101～石塚遺跡窓田地区出土遺物  
6101～越中国府間通造跡出土遺物
8. 現地調査及び報告書において、以下の各氏より御教示・御援助を得た。(順不同、敬称略)

小島俊彦、邑本順亮、斎藤　隆、酒井重洋、  
西井龍義、橋本正春、宮田進一
9. 本書の執筆は、荒井が担当した。



## 目 次

序

例 言

目 次

1. 石塚遺跡、宮崎地区	1
I 序 説	3
II 遺 構	5
III 遺 物	11
IV 結 語	14
2. 石塚遺跡、安川2地区	15
I 序 説	17
II 遺 構	19
III 遺 物	23
IV 結 語	24
3. 須田藤の木遺跡、林地区	25
I 序 説	27
II 遺 物	29
III 結 語	30
4. 瑞龍寺遺跡、齊山地区	31
I 序 説	33
II 遺 構	35
III 遺 物	39
IV 結 語	40
5. 試掘調査地区	41
I はじめに	43
II 石塚遺跡、岸田地区	44
III 越中国府関連遺跡、林地区	46
IV H.S. 02遺跡、各地区	48
V その他の調査	52

## 図面目次

図面1 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類	図面12 遺物実測図 石塚遺跡安川2地区 土器類
図面2 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類	図面13 遺物実測図 石塚遺跡安川2地区 土器類
図面3 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類	図面14 遺物実測図 猿田藤の木遺跡 土器類
図面4 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類	図面15 遺物実測図 猿田藤の木遺跡 上器類
図面5 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 上器類	図面16 遺物実測図 瑞龍寺遺跡 土器類
図面6 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類	図面17 遺物実測図 瑞龍寺遺跡 瓦
図面7 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類	図面18 遺物実測図 瑞龍寺遺跡 瓦
図面8 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類	図面19 遺物実測図 瑞龍寺遺跡 瓦
図面9 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類	図面20 遺物実測図 瑞龍寺遺跡 瓦
図面10 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 石製品	図面21 遺物実測図 瑞龍寺遺跡 瓦
図面11 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 石製品	図面22 遺物実測図 石塚遺跡・越中國府閏連遺跡

## 図版目次

図版1 遺構 石塚遺跡宮崎地区 1. 調査地区全景（南西） 2. 調査地区全景（南）	図版7 遺構 石塚遺跡宮崎地区 1. 上坑S K131断面南側（南西） 2. 土坑S K131断面南側（南西）
図版2 遺構 石塚遺跡宮崎地区 1. 洞査地区全景（北西） 2. 洞査地区全景（上方）	図版8 遺構 石塚遺跡宮崎地区 1. 上坑S K131断面東側（南東） 2. 上坑S K133断面北東部南側（南西）
図版3 遺構 石塚遺跡宮崎地区 1. 洞査地区全景（南東） 2. 洞査地区全景（北東）	図版9 遺構 石塚遺跡宮崎地区 1. 土坑S K133断面南西部南側（南西） 2. 上坑S K135断面中央部西側（北西）
図版4 遺構 石塚遺跡宮崎地区 1. 上坑S K131全景（南西） 2. 土坑S K133全景（南東）	図版10 遺構 石塚遺跡宮崎地区 1. 土坑S K131弥生土器出土状況（南） 2. 土坑S K133弥生土器出土状況（東）
図版5 遺構 石塚遺跡宮崎地区 1. 上坑S K134全景（市西） 2. 上坑S K135全景（南東）	図版11 遺構 石塚遺跡安川2地区 1. 調査地区全景（南） 2. 洞査地区全景（北）
図版6 遺構 石塚遺跡宮崎地区 1. 土坑S K140全景（南東） 2. 土坑S K141全景（北東）	図版12 遺構 石塚遺跡安川2地区 1. 調査地区全景（北西） 2. 調査地区全景（上方）

- 図版13 遺構 石塚遺跡安川2地区  
 1. 四地 S X56南側トレンチ全景（南西）  
 2. 四地 S X56北側トレンチ全景（南）
- 図版14 遺構 石塚遺跡安川2地区  
 1. 四地 S X56南側トレンチ全景（南西）  
 2. 四地 S X56南側トレンチ全景（南東）
- 図版15 遺構 石塚遺跡安川2地区  
 1. 噴砂址 S X59全景（南西）  
 2. 噴砂址 S X61全景（南東）
- 図版16 遺構 石塚遺跡安川2地区  
 1. 繪文土器出土状況（北西）  
 2. 繪文土器出土状況（北東）
- 図版17 遺構 須田藤の木遺跡  
 1. 調査地区全景（東）  
 2. 調査地区全景（西）
- 図版18 遺構 須田藤の木遺跡  
 1. 遺物出土状況（南西）  
 2. 遺物出土状況（南）
- 図版19 遺構 瑞龍寺遺跡  
 1. 調査地区遠景（西）  
 2. 調査地区全景（東）
- 図版20 遺構 瑞龍寺遺跡  
 1. 確石建物址 S B01全景（西）  
 2. 確石建物址 S B01据え方近景（南西）
- 図版21 遺構 瑞龍寺遺跡  
 1. 溝 S D01全景（南）  
 2. 溝 S D01上唇断面（南西）
- 図版22 遺構 瑞龍寺遺跡  
 1. 丸溜 S X01近景（北東）  
 2. 丸溜 S X02全景（東）
- 図版23 遺構 石塚遺跡座山地区  
 1. 調査地区全景（南東）  
 2. 調査地区全景（南西）  
 3. 調査風景
- 図版24 遺構 越中國府関連遺跡  
 1. 調査地区遠景（南西）  
 2. 武堀坑全景（南）  
 3. 調査風景
- 図版25 遺物 石塚遺跡宮崎地区  
 弥生土器
- 図版26 遺物 石塚遺跡宮崎地区  
 弥生土器
- 図版27 遺物 石塚遺跡宮崎地区  
 弥生土器
- 図版28 遺物 石塚遺跡宮崎地区  
 1. 弥生土器  
 2. 弥生土器
- 図版29 遺物 石塚遺跡宮崎地区  
 1. 弥生土器  
 2. 弥生土器
- 図版30 遺物 石塚遺跡宮崎地区  
 石製品
- 図版31 遺物 石塚遺跡宮崎地区  
 石製品
- 図版32 遺物 石塚遺跡安川2地区  
 1. 繪文土器  
 2. 繪文土器
- 図版33 遺物 瑞龍寺遺跡  
 1. 土器類  
 2. 燐し瓦、丸瓦
- 図版34 遺物 瑞龍寺遺跡  
 1. 燐し瓦、丸瓦凸面  
 2. 燐し瓦、丸瓦凹面
- 図版35 遺物 瑞龍寺遺跡  
 1. 燐し瓦、平瓦凸面  
 2. 燐し瓦、平瓦凹面
- 図版36 遺物 瑞龍寺遺跡  
 釉薬瓦、丸瓦凸面
- 図版37 遺物 瑞龍寺遺跡  
 釉薬瓦、丸瓦凹面
- 図版38 遺物 瑞龍寺遺跡  
 1. 釉薬瓦、平瓦凸面  
 2. 釉薬瓦、平瓦凹面
- 図版39 遺物 瑞龍寺遺跡  
 1. 釉薬瓦、半丸凹面  
 2. 釉薬瓦、平瓦凹面

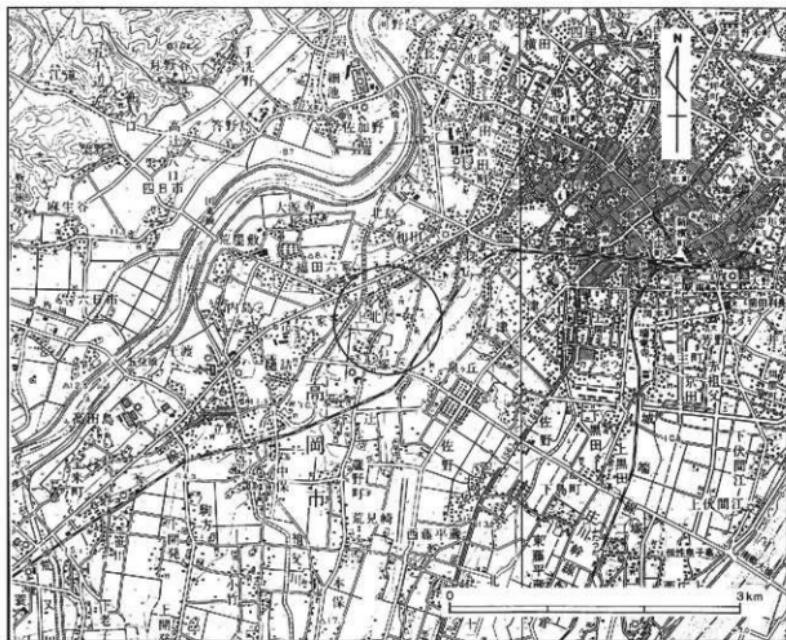
## 挿 図 日 次

第1図 石塚遺跡位置図 (1/5万)	2
第2図 石塚遺跡宮崎地区位置図 (1/5,000)	3
第3図 石塚遺跡宮崎地区遺構図 (1/200)	6
第4図 石塚遺跡宮崎地区土坑S K131・S K133～S K135実測図 (1/80)	7
第5図 石塚遺跡宮崎地区土坑S K131上層断面図 (1/40)	8
第6図 石塚遺跡宮崎地区土坑S K133～S K135土層断面図 (1/40)	9
第7図 石塚遺跡安川2地区位置図 (1/5,000)	16
第8図 石塚遺跡安川2地区全体図 (1/400)	18
第9図 石塚遺跡安川2地区遺構図 (1/200)	20
第10図 石塚遺跡安川2地区凹地S X56北側・南側トレンチ土層断面図 (1/40)	21
第11図 石塚遺跡安川2地区地盤歴史測図 (1/400)	22
第12図 須田藤の木遺跡位置図 (1/5万)	26
第13図 須田藤の木遺跡林地区位置図 (1/5,000)	27
第14図 瑞龍寺遺跡位置図 (1/5万)	32
第15図 瑞龍寺遺跡齊山地区位置図 (1/5,000)	33
第16図 瑞龍寺遺跡齊山地区遺構図 (1/200)	35
第17図 瑞龍寺遺跡礎石建物址S B01土層断面図 (1/40)	36
第18図 瑞龍寺遺跡礎石建物址S B01、溝S D01実測図 (1/80)	37
第19図 瑞龍寺遺跡溝S D01土層断面図 (1/40)	38
第20図 試掘調査関係遺跡位置図 (1/15万)	43
第21図 石塚遺跡窪田地区位置図 (1/5,000)	44
第22図 石塚遺跡窪田地区遺構図 (1/600)	45
第23図 越中国府間連遺跡林地区位置図 (1/5,000)	46
第24図 越中国府間連遺跡林地区遺構図 (1/600)	47
第25図 II S・II S-02遺跡各調査地区位置図 (1/1万)	51

## 1. 石塚遺跡、宮崎地区

## 石塚遺跡宮崎地区、目次

I 序 説	3	III 造 物	11
II 遺 構	5	1. 弥生土器	11
1. 土坑	5	2. 石製品	12
2. 四邊	10	IV 結 論	14



第1図 石塚遺跡位置図 (1/5万)

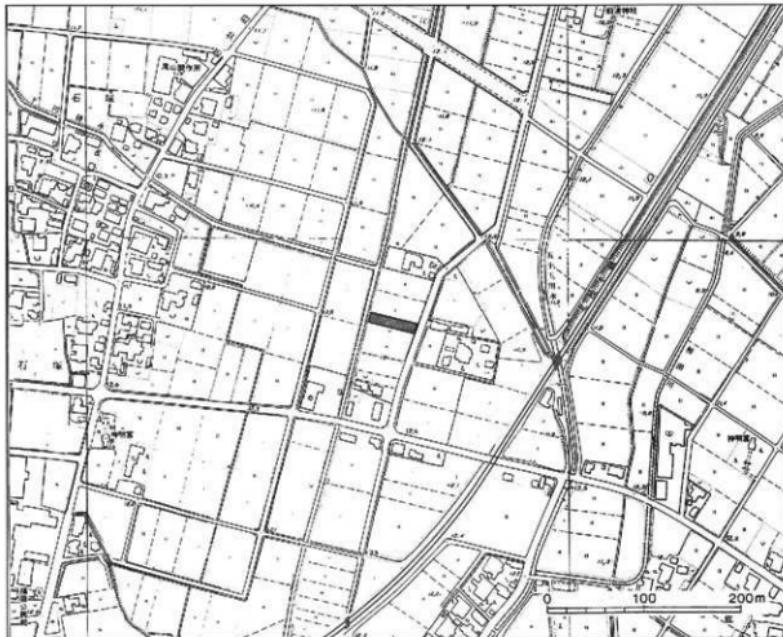
## I 序 説

### 遺跡概観

当「石塚遺跡」は、高岡市街地の南西、JR高岡駅の西南西約3.0kmに位置する。遺跡の東端部をJR北陸本線が走り、東側を和田川が北流し、西側には蛇行する祖父川が流れる。これらに挟まれた標高11~12mの微高地に当遺跡は立地している。この付近は庄川の氾濫原に形成された扇状地の末端部に当たる。

周辺には、石名瀬B遺跡、石塚屋敷田遺跡、石塚靖保遺跡、石塚五俵田遺跡、石塚江之戸遺跡などの縄文後期・晩期から中世を中心とした小規模な集落遺跡群がある。

遺跡の範囲は、南北600m×東西470mを計る。これまで実施された調査の結果、弥生時代～中世にかけての遺構、遺物が確認されている。中でも、弥生時代中期の遺構、遺物が多く確認されており、この時期の県下を代表する遺跡として知られている。また、近年の調査の結果により、遺跡の範囲が北側へ広がることが確認されている。



第2図 石塚遺跡宮崎地区位置図 (1/5,000)

## 調査に至る経緯

平成8年4月、市農業委員会からの照会で、当該地における農地転用と住宅の建設計画を知った。そこで地主の宮崎与士昭氏との協議、承諾を得て、今年度中に本調査を実施することとなった。なお、今回はこれまで行った周辺の調査の状況から試掘調査を除き、直ちに本調査を行うこととした。調査地区は、石塚遺跡の南側中央部にあり、石塚集落の南東側、JR北陸本線石名瀬踏切の北西側に位置している。

## 調査経過

発掘調査は、平成8年5月9日から同年10月8日まで実施した。実働調査日数は36日である。表土の除去はバックフォーで行い、場内の西側に積み上げ、耕土地を残して東側を発掘区とした。途中、他の調査との関係から、やむを得ず一時休止し8月半ばから作業を再開した。調査地区には近年の暗渠排水が東西に走り、まず、これを掘り下げながら遺構を確認し、遺構の掘り下げ、記録と作業を進めた。調査地区的周囲では既に数多くの調査が行われており、ヒスイ等の出土例が多く、遺構検出から石製品の出土状況に注意をはらった。調査対象面積は499m<sup>2</sup>で、419m<sup>2</sup>の発掘を実施した。

## 基本層序

平均15~20cmの耕作土の下に、5~10cmの厚さで黒色粘質土（遺物包含層）が堆積している。この遺物包含層からは、須恵器、陶磁器等が出土した。地山は黄褐色砂質土からなる。戦後行われた区画整理等により、周辺は削平を受けるなどの変更がなされたと思われる。

## 検出遺構

検出遺構は次のとおりである。

### 土坑21基（SK123~143）、凹地1基（SX49）

遺構は全て弥生時代の遺構で、調査地区東側と南西側にまとまって検出された。

## 出土遺物

出土遺物は次のとおりである。

土器・陶磁器類；弥生土器、須恵器、土師器、近世陶磁器。

石製品；勾玉、管玉、砥石、石製紡錘車、石瓢、石包丁、石錐、剥片、ヒスイ未製品、ヒスイ原石、緑色凝灰岩、水晶原石、鉄石炎、めのう、安山岩（サスカイト）原石、玉髓。

その他；炭化米（弥生土器の中に入って出土）。

## グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00"・東経137° 10' 00"）に合わせた。東西をX軸とし、南北をY軸とした。グリッドの南西隅の数値がそのグリッドを表したものとした。X=1、Y=1の地点は、原点より、西へ80.900km、北へ16.195kmへ向かった位置である。一辺5m四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。

## II 遺 構

### 1. 土 坑

#### 土坑SK123

調査地区的北東側（7・8、3）区で検出された。平面形は不正楕円形で、規模は長軸3.96m以上、短軸2.04m、深さ48cmを計る。東側でピットに切られ、調査地区外に延びる可能性もある。出土遺物は弥生土器、剥片である。

#### 土坑SK124

調査地区的南東端部（8、2）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸2.1m、短軸1.02m以上、深さ29cmを計る。東側で調査地区外へ延びる。出土遺物は弥生土器である。

#### 土坑SK125

調査地区的南東部（7・8、2）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸1.8m、短軸1.28m、深さ48cmを計る。出土遺物は弥生土器、ヒスイ原石、水晶、剥片である。図示した弥生土器は、図面7-160、図面9-1180、1182である。

#### 土坑SK126

調査地区的南東隅部（8、2）区で検出された。平面形は不正楕円形で、規模は長軸0.96m、短軸0.92m、深さ26.1cmを計る。東側で調査地区外へ延びる。出土遺物は弥生土器である。

#### 土坑SK127

調査地区的北東隅部（7・8、4）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸1.0m、短軸0.9m以上、深さ44cmを計る。北側は調査地区外へ延びる。出土遺物は弥生土器、剥片、ヒスイ原石、水晶、安山岩である。図示した弥生土器は、図面1-1109の一部である。

#### 土坑SK128

調査地区的北東隅（7、4）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸1.14m、短軸0.9m、深さ14cmを計る。出土遺物は弥生土器である。図示した弥生土器は、図面6-1145、図面8-1166である。

#### 土坑SK129

調査地区的北東側（7、3）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸2.3m、短軸1.1m、深さ52.5cmを計る。西側でSK134を切る。出土遺物は弥生土器、石鏃1点（図面11-1222）、剥片、ヒスイ原石、安山岩（サスカイト）である。図示した弥生土器は、図面6-1153の一部である。

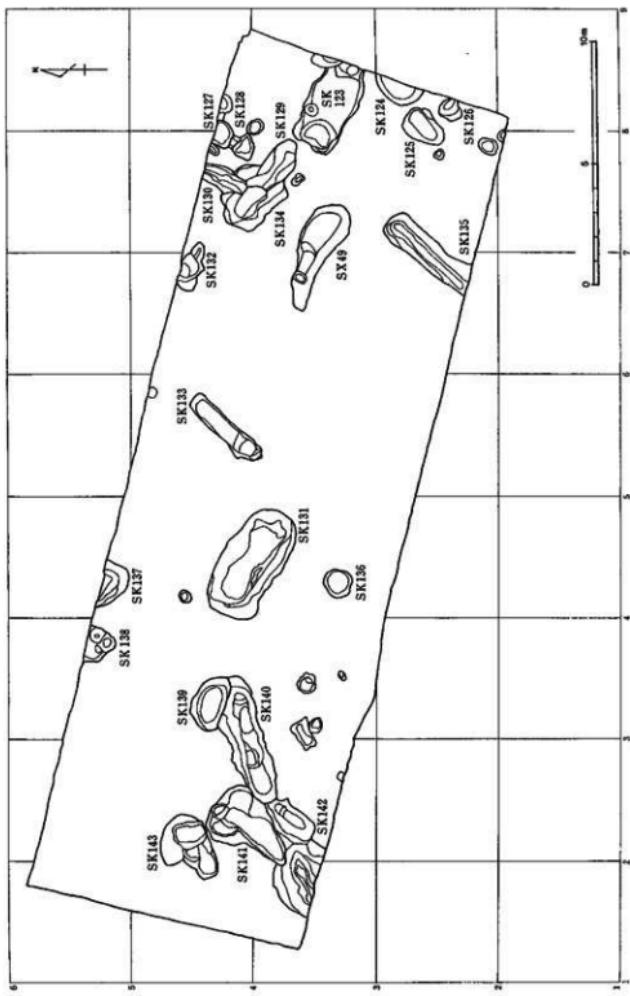
#### 土坑SK130

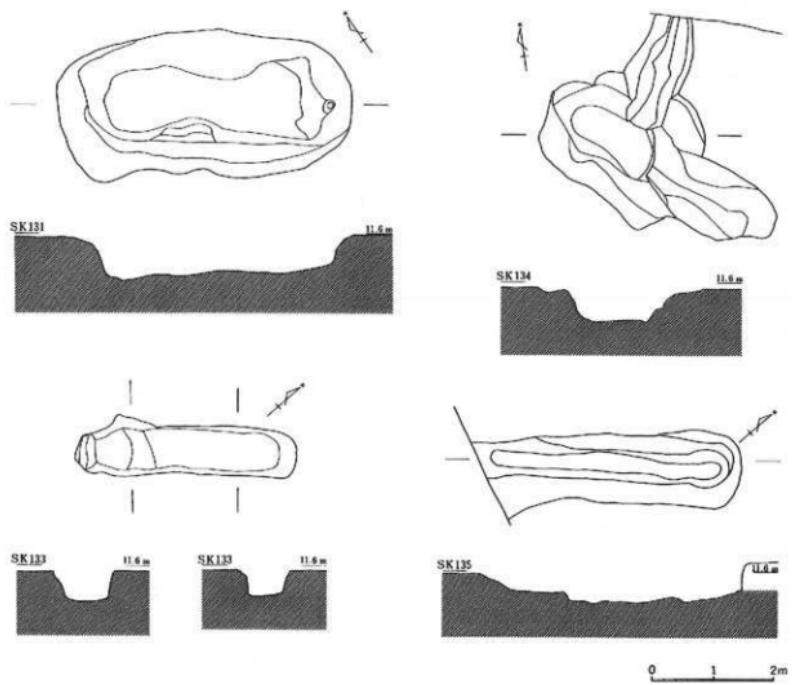
調査地区的北東隅部（7、4）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸1.96m、短軸1.0m、深さ55.3cmを計る。南側でSK134を切っている。出土遺物は弥生土器、管玉1点（図面10-1205）、石鏃1点（図面11-1214）、剥片である。図示した弥生土器は、図面3-1133、図面7-1157、図面8-1164、図面9-1173の一部である。

#### 土坑SK131

調査地区的中央部（4、3・4）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸1.9m、短軸2.45m、深さ78cmを計る。この土層断面図は第5図に示し、断面の位置は平面図の第4図に示した。土層は次のよう

第3圖 石螺造訪宮崎地區遺構圖 (1 / 200)





第4図 石塚遺跡宮崎地区土坑SK131・SK133～SK135実測図 (1/80)

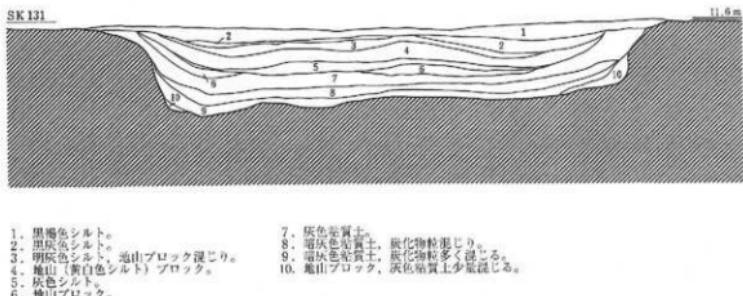
に区分される。第Ⅰ層；第1～2層で、黒褐色シルトが中心の土層である。第Ⅱ層；第3～6層で、黄白色シルトが中心の土層である。第Ⅲ層；第7～9層で、灰色粘質土が中心の土層である。出土遺物は弥生土器、勾玉1点(図面11-1201)、石鎚1点(図面11-1216)である。図示した弥生土器は、図面1-1108、図面2-1113.1120.1121、図面3-1126.1130.1131、図面4-1134.1138.1139、図面5-1140、図面6-1146.1149.1150、図面7-1152の一部、図面8-1165.1167.1168.1172、図面9-1174.1175.1178.1179である。

#### 土坑SK132

調査地区の北東側(6・7、4)区で検出された。平面形は不正楕円形で、規模は長軸2.14m、短軸1.04m以上、深さ52cmを計る。北側は調査地区外へ延びる。出土遺物は弥生土器、玉體、剥片である。図示した弥生土器は、図面1-1109の一部、1110である。

#### 土坑SK133

調査地区の中央部(5、3・4)区で検出された。平面形は楕円形で、規模は長軸3.7m、短軸1.04m、



第5図 石塚遺跡宮崎地区土坑SK 131土層断面図 (1/40)

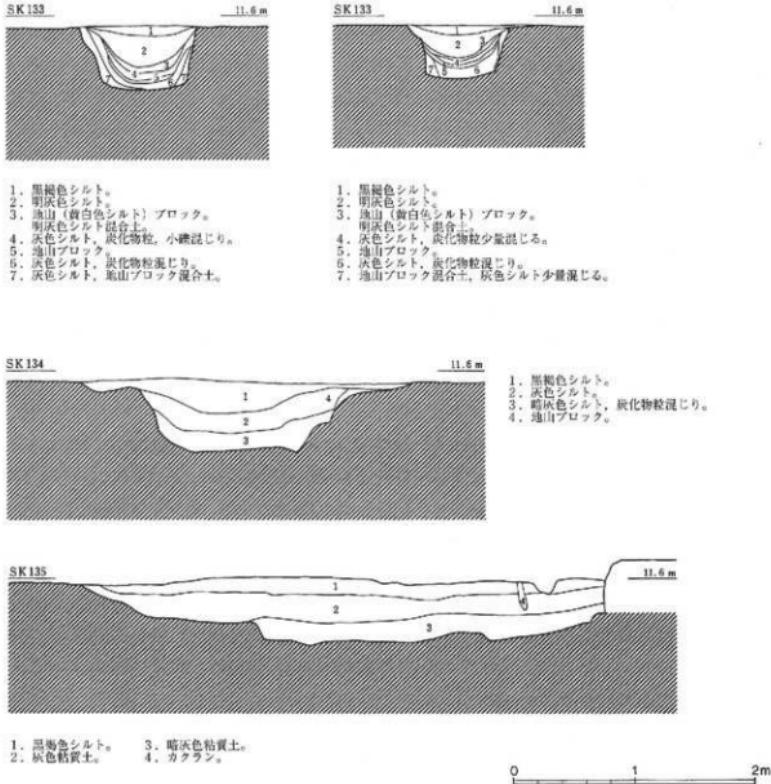
深さ54cmを計る。出土遺物は弥生土器、水晶、緑色凝灰岩、剥片である。この土層断面図は第6図に示し、断面の位置は平面図の第4図に示した。土層は次のように区分される。第1層；第1～2層。明灰色シルトが中心の土層である。上層には黒褐色シルトが見られる。第Ⅱ層；第3～5層。基盤層のブロックである黄白色シルトが中心の土層である。第Ⅲ層；第6～7層。灰色土シルトが中心の土層である。図示した弥生土器は、図面5-1143である。

#### 土坑SK 134

調査地区的北京側(7, 3・4)区で検出された。平面形は不正楕円形で、規模は長軸2.84m、短軸1.8m、深さ86cmを計る。北側でSK 130に、東側でSK 129に切られる。出土遺物は、弥生土器、菅玉1点(図面10-1204)、石顎1点(図面11-1217)、石包丁1点(図面10-1210)、ヒスイ原石、水晶、剥片である。この土層断面図は第6図に示し、断面の位置は平面図の第4図に示した。土層は大きく3層に分かれる。第1層は黒褐色シルトが中心で、第2層は灰色シルトが主体となり、第3層は暗灰色シルトが中心の土層となる。第2～3層は弥生土器を多く含んでおり、遺物包含層である。図示した弥生土器は、図面2-1116の一部、1117.1124、図面6-1151の一部、1153の一部、図面7-1152の一部、1161、図面8-1163、図面9-1173の一部である。

#### 土坑SK 135

調査地区的南東部(6・7, 2)区で検出された。平面形は不正楕円形で、規模は長軸4.3m、短軸1.1m以上、深さ56cmを計る。南西側で調査地区外へ延びる。この土層断面図は第6図に示し、断面の位置は平面図の第4図に示した。土層は3層に区分され、第1層は黒褐色シルトが中心で、第2層は灰色粘質土となり、第3層は暗灰色粘質土の層となる。出土遺物は弥生土器、ヒスイ原石、鉄石英等、図示した弥生土器は、図面1-1103～1105.1107.1109の一部、1112、図面2-1114～1116の一部、1122、図面3-1129.1132、図面4-1135.1136、図面6-1148.1151の一部、1154、図面7-1156、図面8-1170.1171、図面9-1181.1183である。



第6図 石塚遺跡宮崎地区土坑SK133～SK135土層断面図 (1/40)

### 土坑SK136

調査地区の中央部南西側(4, 3)区で検出された。平面形は梢円形で、規模は長軸1.16m、短軸1.12m、深さ32.2cmを計る。出土遺物は弥生土器である。

### 土坑SK137

調査地区の中央部北端部(4, 5)区で検出された。平面形は梢円形で、規模は長軸1.8m以上、短軸1.1m以上、深さ48.7cmを計る。北側で調査地区外へ延びる。出土遺物は弥生土器である。

#### **土坑SK138**

調査地区の北西端部（3、5）区で検出された。平面形は不明で、規模は長軸1.48m、短軸1.2m以上、深さ45.7cmを計る。北側は調査地区外へ延びる。出土遺物は弥生土器で、図示したのは、図面1-1102である。

#### **土坑SK139**

調査地区的西側（3、4）区で検出された。平面形は梢円形で、規模は長軸2.36m、短軸1.24m、深さ69cmを計る。南側でSK140を切っている。出土遺物は弥生土器、石錐1点（図面11-1221）、ヒスイ原石2点である。図示した弥生土器は、図面3-1125の一部である。

#### **土坑SK140**

調査地区的西側（2・3、3・4）区で検出された。平面形は不正梢円形で、規模は長軸5.5m、短軸1.76m、深さ70cmを計る。北側でSK139に切られ、南西側でSK141、SK142を切る。出土遺物は弥生土器、石製鉗鍤車1点（図面10-1211）である。図示した弥生土器は、図面2-1118、図面8-1159の一部である。

#### **土坑SK141**

調査地区的西側（2、3・4）区で検出された。平面形は不正梢円形で、規模は長軸3.8m、短軸2.44m、深さ53cmを計る。北西部はSK143とは接し、南側でSK142、北東側をSK140に切られている。出土遺物は弥生土器、ヒスイ原石である。図示した弥生土器は、図面1-1101、1106、1111の一部、図面3-1125の一部、1127、図面6-1147である。

#### **土坑SK142**

調査地区的南西側南端部（1・2、3）区で検出された。平面形は不正梢円形で、規模は長軸5m以上、短軸2.35m以上、深さ68cmを計る。北側上部をSK140、SK141に切られる。出土遺物は弥生土器、石錐1点（図面11-1208）、砥石1点（図面10-1213）、石錐1点（図面11-1215）、剝片、緑色凝灰岩、水晶、玉髓である。図示した弥生土器は、図面1-1111の一部、図面2-1123、図面4-1137、図面5-1141、図面8-1159の一部である。

#### **土坑SK143**

調査地区的西側（1・2、4）区で検出された。平面形は不正梢円形で、規模は長軸2.86m、短軸2.1m、深さ52cmを計る。南東側はSK141とは接している。出土遺物は、弥生土器、石錐1点（図面11-1220）、ヒスイ原石である。図示した弥生土器は、図面8-1169、図面9-1177である。

## **2. 回 地**

#### **凹地SX49**

調査地区的東側（6・7、3）区で検出された。平面形は梢円形で、規模は長軸4.6m、短軸1.6m、深さ13cmを計る。西側で弥生時代のピットに切られている。出土遺物はなかった。

### III 遺 物

#### 1. 弥生土器

弥生時代中期の土器である。全ての土坑から出土した。図面1～9に1101～1183として83点図示した。

**鉢** 図面1～1101～1106。1101は肥厚する口縁部をもち、外面に櫛描羽状列点文が付く。1102～1105は基本的な調整は刷毛目で、内面にナデが施されるものが多い。口径は15.3～24.0cmを計る。1106は台付き鉢の台部である。

**壺A** 図面1～1107～1112。無頭壺である。1107は口端部外面に2段半の櫛描羽状列点文と、櫛描刻み日文が付く。1108は口縁部外面に、上から2条の櫛描直線文、櫛描簾状文が付く。1109は口端部外面に櫛描羽状列点文が付き、2個の透かし孔が付く。1110は口端部に1個の透かし孔が付く。1111は口端部から胴部にかけて上から櫛描直線文、櫛描波状文、櫛描直線文、櫛描波状文、櫛描直線文、櫛描簾状文が付き、2個の透かし孔が付く。1112は磨滅して調整は不明だが、透かし孔が2個付く。口径は7.8～13.6cmを計る。

**壺B** 図面2～1113～1120。口縁部が受口状に直立するものである。1113は口縁部外面に櫛描羽状列点文が付き、その上に2条1組の縦の浮文が4箇所付いている。垂下部は波状になる。口径は25.0cmを計る。1114、1115は口縁部外面に刻みを持つ2条1組の縦の浮文が4箇所付く。口縁部内面はナデ、他は刷毛目である。1116、1117は口縁部外面の調整はナデで、口縁部外面に刻みを持つ2条1組の縦の浮文が4箇所付く。1118～1120は1条～2条の櫛描羽状列点文が付く。1118、1119は口縁部外面の垂下部に櫛描刻み目文が付く。1120は口端部内面に交差列点文が付く。

**壺C** 図面2～1121、1122。直線的に延びる口縁部が、口端部で肥厚するもの。1121は口端部内面と口縁部外面に櫛描羽状列点文が付く。

**壺D** 図面2～1123、1124。口縁部が僅かに外上方に拡がるものである。1123は口端部外面にヘラ状工具による刻み日文が付く。1124は肥厚する口端部外面に櫛描羽状列点文が付く。調整技法は基本的に刷毛目である。

**壺E** 図面3～1125～1132。口縁部が外反し、外上方に拡がるものである。1125は口端部外面には山形の刻み日文が付く。口縁部内面には櫛描波状文、頸部内面には垂下する櫛描文直線文が付き、外面に櫛描直線文が付く。胴上部外面には上から、櫛描直線文、櫛描簾状文、櫛描直線文、櫛描波状文、櫛描直線文、櫛描簾状文、櫛描弧状文がつく。内外面の調整は刷毛目である。口径は19.6cmを計る。1126は口端部外面に刻み日文が付く。調整は磨滅しており不明である。1127は口端部外面に櫛描文直線文が付く。頸部内面が剥離しているが、全体の調整は刷毛目である。1128は口端部外面に櫛描刻み日文が付く。頸部外面には櫛描直線文、その下に櫛描簾状文に刻み日文が付く。1129は口端部が波状になるもの。1130は口端部外面に櫛描羽状列点文が付く。1131は口端部外面に櫛描文直線文が付く、更にその上に1本の沈線が付く。口端部内面には1条半の櫛描羽状列点文が付く。1132は口端部が欠損しているが、頸部内面には垂下する櫛描文直線文が付く、頸部外面には上から2条の櫛描直線文、櫛描波状文、2条の櫛描直線文、櫛描波状文が付く。

**壺胴底部** 図面3～1133。図面4～1134。口縁部が欠損している1133と口縁部と底部を欠損している1134である。

**壺底部** 図面4～1135～1139。壺の胴底部・底部である。1135は胴部最大径が22.6cmの大型品である。11

36～1139はナデや磨きによって平滑に整えられている。調整は刷毛目、ナデが主体で、一部ヘラ磨きされている。

**甕A** 図面5～1140～1144。胴部最大径が口縁部径よりも小さくなるものである。口縁部がく字状に緩く外反する。1140、1141・1143～1148は口端部が波状になる。1142は口端部外面に刻み目文が付く。1144は口端部内面に柳描刻み目文が付く。調整技法は内外面とも刷毛目で、一部ナデである。1145は口端部内面に刻み目文が付く。調整は内面が口端部がナデ、他は刷毛目、外面は口縁部が刷毛目、頸部が横ナデとなる。1146は頸部外面に2条の大きく蛇行する柳描波状文と柳描條状文が付く。1148は口端部外面に刻み目文が付く。

**甕B** 図面6～1149～1151。1153、1154。図面7～1152。胴部最大径と口縁部径がほぼ等しく、口縁部がく字状に外反する。1149は胴部外面に2個1組の列点文が2条付く。底部中央に穿孔されている。調整は口縁部、胴部内面、底部はナデ、胴部外面は刷毛目である。口径は23.8cmを計る。1150は口縁部・胴上部外面に煤が付着する。1151は口端部が波状になる。1152～1153は緩やかに外反する口縁部を持ち、1153の外面には煤が付着している。1154は口端部外面に柳描刻み目文が付く。

**甕C** 図面7～1155～1157。胴部最大径が口縁部径より大きく、緩やかに外反する口縁部をもつものである。1155は口端部外面に刻み目文が付く。底部に穿孔がされている。1157は口端部内面に指圧され波状となる。調整技法は、基本的に刷毛目によるものである。

**甕D** 図面8～1158。く字状に外反する口縁部で、口端部が肥厚する。胴部は大きく膨らみ、卵倒形となると思われる。

**甕E** 図面8～1159。口縁部がくびれ、器形は倒鐘形となるものである。外面の調整は刷毛目である。

**甕口縁部** 図面7～1160～1162。甕の口縁部である。1160は口端部内面に柳描刻目文が付く。口縁部内面に垂下する柳描直線文が4箇所付く。頸部外面には柳描直線文が付く。1161は口端部内面に刻み目文が付く。1162は口端部が波状になり、底部外面に柳描直線文が付く。

**甕胴底部** 図面8～1163～1172。図面9～1173～1183。甕の胴下部・底部片である。1163は外面に刷毛目状工具による羽状圧痕文が付く。1164は内外面とも刷毛目である。1165～1170、1172は外面の調整は、刷毛目、内面はナデを基調とし、一部刷毛目が見られるものもある。1171は磨滅して調整は不明である。1173～1177は刷毛目で、内面は刷毛目を基調とし一部ナデである。1178は外面が刷毛目で、内面はナデを基調とするものである。

## 2. 石製品

**勾玉** 図面11～1201。ヒスイの勾玉で、抉りがある。未貫通だが、片面に穿孔されている。長さ1.7cm、幅1.05cm、厚さ0.7cmである。

**管玉** 図面10～1202～1207。緑色凝灰岩の管玉で2倍に拡大して図示した。

1202；径2.5mm、長さ1.4cm、孔径0.75mm。完存品、淡緑色。

1203；径2.25mm、長さ8.5mm、孔径1.0mm。約2分の1残存、淡緑色。

1204；径2.5mm、長さ7.5mm、孔径1.25mm。完存品、淡緑色。

1205；径1.75mm、長さ5.75mm、孔径1.0mm。完存品、淡緑色。

1206；径2.0mm、長さ5.0mm、孔径0.75mm。完存品、濃緑色。

1207；径2.0mm、長さ3.5mm、孔径0.75mm。一部欠損、濃緑色。

**石鎌** 図面10-1208。安山岩の石鎌である。研磨され、多角柱状となる。径3.0mm、長さ2.1cmで、刃部が山形をしている。

**石包丁** 図面10-1209.1210。1209は頁岩の石包丁で、未製品である。穿孔が2ヶ所付いている。表裏の面共に擦痕が見られる。刃部は両刃である。1210は偏平で小破片であるが、一部に穿孔の振跡が見られるため、石包丁とした。石質は不明である。

**石製紡錘車** 図面10-1211.1212。1211は凝灰質泥岩製の紡錘車である。全体が平滑に磨かれ、端部外側に沈線が1条つく。約4分の1程度の破片で、径は約9.2cmと推定した。1212は凝灰質泥岩製で、全体が平滑に磨かれ、片面中央部が高く突出している。孔はほぼ中央に両側から穿たれている。径8.4cm、厚さ1.9cm、口径5.5cmを計る。

**砥石** 図面10-1213。砂岩製で筋砥石（玉砥石）と思われるものである。長側面は3面が使用され、他の1面は面取りされているものの、研磨に伴う溝は見られない。端部は片方が残存し、一部使用されている。現存長さ5.5cm、幅3.8cm、厚さ2.5cmである。

**磨製石鎌** 図面11-1223。無茎式の磨製石鎌である。長さ1.8cm、幅1.4cm、厚さ4.5mmを計る。

**打製石鎌** 図面11-1214~1222。無茎式と有茎式の石鎌である。1214~1220は安山岩製で、1221がチャート製、1221は砂岩製である。

1214；無茎式石鎌。長さ3.5cm、幅1.7cm、厚さ8.0mm。

1215；無茎式石鎌。長さ2.4cm、幅1.3cm、厚さ5.0mm。

1216；無茎式石鎌。長さ2.9cm、幅1.4cm、厚さ4.5mm。

1217；無茎式石鎌。長さ1.8cm、幅1.2cm、厚さ3.0mm。

1218；無茎式石鎌。長さ3.6cm、幅1.1cm、厚さ4.0mm。

1219；無茎式石鎌。長さ3.0cm、幅1.2cm、厚さ3.5mm。

1220；有茎式石鎌。長さ2.4cm、幅1.5cm、厚さ5.0mm。

1221；有茎式石鎌。長さ2.7cm、幅1.5cm、厚さ5.0mm。

1222；有茎式石鎌。長さ1.6cm、幅1.7cm、厚さ2.0mm。

## IV 結 語

### 弥生時代中期の遺構と遺物

弥生時代中期の遺構は、土坑21基（SK123～143）である。すべて遺構や包含層中から弥生時代中期の土器が出土しており、1個体に復元できるものが多い。調査地区内では、この時代の土器が最も多く出土している。このうち、切り合う上坑を何箇所か検出したが、この土坑からも同時期の土器が出土しており、全体としては同じ時期の遺構と思われる。異なる時期の遺物が混在する土坑は認められなかった。土坑は調査地区的東側と南西側にまとまって検出され、調査地区外へ拡がっている。SK131、SK133、SK135については、調査地区内でも規模が一段と大きく、方形周溝墓とも考えたが、周間に四方を巡る溝は確認できなかった。從来から当遺跡では、方形周溝墓、土壙墓と思われる遺構が検出されており、これらの上坑も土壙墓と推定している。

また、遺物包含層掘削中から調査地区西側を中心にヒスイ、石鏃が多く出土している。石製品製作に関する遺構は、当遺跡では、調査地区北東側50m先で実施した平成5年の調査で、ヒスイの加工を行った工房址が検出されている。

今回の調査地区では、遺物包含層から土坑の分布と重なるように、ヒスイや安山岩の剥片が多数検出された。東側と南西側に集中する土坑内からは、石鏃、勾玉、管玉等の石製品が多く出土した。これらには、ヒスイ、サヌカイト等の原石も伴って出土している。しかし、石製品を実際に加工していたと思われる遺構は認められなかった。

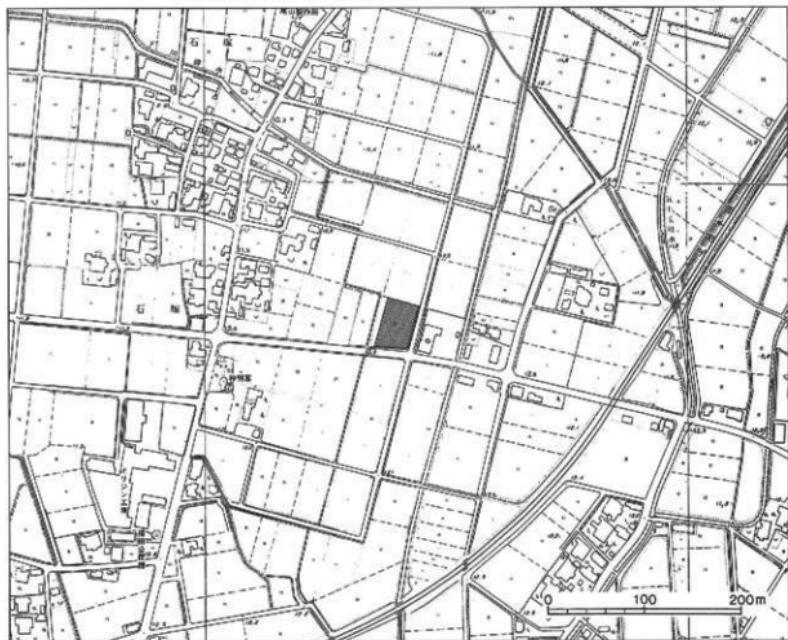
### 奈良・平安時代の遺構と遺物

この時期に相当する遺構は検出できなかった。遺物は包含層より散発的に出土しただけで、量も極めて少ない。今回の調査の主体となる時期ではない。

## 2. 石塚遺跡、安川2地区

## 石塚遺跡安川2地区、目次

I 序 説	17	III 遺 物	23
II 遺 様	19	1. 縄文土器	23
1. 凹地	19	2. 弥生土器	23
2. 地震柱	22	IV 結 論	24



第7図 石塚遺跡安川2地区位置図 (1/5,000)

# I 序 説

## 遺跡概観

当「石塚遺跡」は、高岡市街地の南西郊、約3.0kmに位置する。遺跡の東端部にはJR北陸本線が走っている。遺跡の東側に和田川、西側に祖父川が流れしており、これら的小河川に挟まれた標高11~12mの微高地に立地している。また、高岡市の東側を北流する庄川が形成した扇状地の末端に当たる。

周辺には、南西側に縄文時代後期から晩期を主体とした石塚屋敷田遺跡、石塚崎保遺跡があり、西側には、縄文時代後期から晩期と、古墳時代から中世にかけて作られた石塚五俵田遺跡、石塚江之戸遺跡が立地している。これらの小規模な集落遺跡と当遺跡との関連が注目される。

当遺跡は、弥生時代中期を中心とした遺構、遺物が確認され、この時期における県内の著名な遺跡として知られている。遺跡の範囲は、南北600m×東西470mを計る。近年の調査により遺跡北半部にも弥生時代中期以降の遺構、遺物が確認されている。

## 調査に至る経緯

平成8年9月、市農業委員会からの照会で、当該地における農地転用と資材置場建設計画を知った。地主の宮崎与上昭氏、施主の安川憲二氏と協議を行い、承諾を得て、平成8年度に本調査を実施することになった。なお、これまで周辺で行われた調査を踏まえ、試掘調査は省略した。調査地区は、JR北陸本線石名瀬踏切の西、石塚集落の東側、市立福井公民館の北側、遺跡の南端部に位置する。

## 調査経過

発掘調査は、平成8年10月18日から同年12月27日まで実施した。実働調査日数は24日である。表土の除去はバックフォーで行い、場内の南側に積み上げた。途中、他の調査との調整からやむを得ず一時休止し、11月末から作業を再開した。表土掘削後、遺構の検出を行ったが、調査期間に余裕がなく、表土の掘り残し部分を再度、バックフォーで掘削した。その後、遺構の掘り下げ、記録の作成を行った。本格的な調査が12月に入ったため天候が悪く、テントを使用して遺構の実測を行うなど、作業の進展を図った。

調査対象面積は2,094m<sup>2</sup>で、1,165m<sup>2</sup>の調査を実施した。

## 基本層序

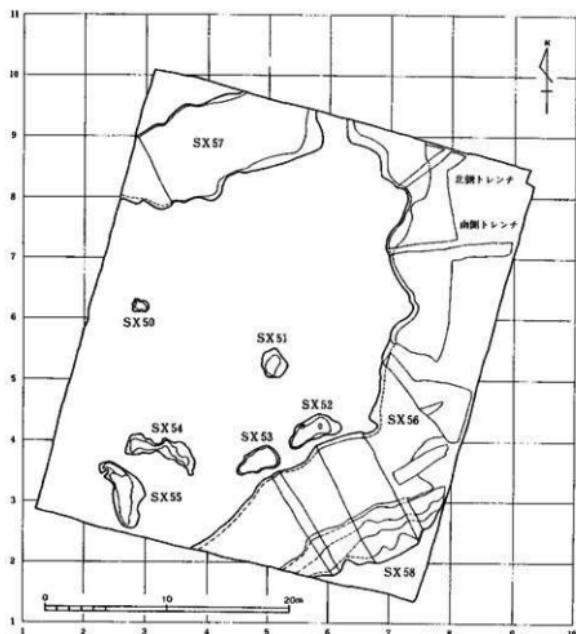
基本層序は、厚さ20cm前後の耕作土（表土）の下に、厚さ10cm前後の黒色土と地山上の礫土層が現れる。この層は、区画整理の際の整地層と思われ、遺物は僅かにみられるだけで遺物包含層とは認められない。その下に、黄褐色砂質土層、部分的に青灰色砂質土層が見られる。これまでこの土層を地山として認識していたが、今回の調査では、調査地区的東側で黄褐色砂質土層の下より黒色粘質土層が検出された。このため、部分的にサブトレーンチを設け、土層の確認を行った。その結果、黒色粘質土層中より縄文土器が散発的に出土し、再び下から黄褐色砂質土層が現れた。この土層を、日本順光氏、小島俊彰氏に実見していただいたところ、これらの層は自然堆積によるもので、縄文土器は縄文時代後期～晩期に属すことなどの御教示を得た。土層は基本的に以下の通りに分類される。

第1層；耕作土

第2層；黄褐色砂質土（縄文時代晩期以降の地山、第3層形成後に自然堆積）

第3層；黒色粘質土（縄文時代後期～晩期の自然堆積、遺物包含層）

第4層；黄褐色砂質土（縄文時代後期以前の地山）



第8図 石塚遺跡  
安川2地区全体図  
(1/400)

今回の調査地区では、第2層まで区画整理の際に削半を受けている。

#### 検出遺構

検出遺構は以下のとおりである。遺構番号は昭和61年度の調査地区的ものから連番となっている。

門地9基（SX50～58）、地表址（SX59～61）

これらに明確な掘り込みは認められず、浅い落ち込み乃至自然堆積の中から遺物が出土している。

#### 出土遺物

出土遺物は以下のとおりである。

土器・陶磁器類；縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、近世陶磁器

石製品；ヒスイ原石

出土遺物のほとんどが土器・陶磁器類である。中でも縄文土器が最も多い。

#### グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯 $36^{\circ} 00' 00''$ ・東経 $137^{\circ} 10' 00''$ ）に合わせた。X = 1、Y = 1の地点は、原点より、西へ16.275km、北へ81.120km向かった位置である。第8図、第9図のメッシュは5m四方となっている。

## II 遺 構

### 1. 四 地

#### 凹地 S X50

調査地区の西側（2・3・6）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は、長軸1.3m、短軸0.98m、深さ9.2cmを計る。上部を南北方向に擾乱が切っている。出土遺物は縄文土器である。

#### 凹地 S X51

調査地区の中央部（4・5・5）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は、長軸2.35m、短軸2.2m、深さは15.4cmである。出土遺物は縄文土器である。

#### 凹地 S X52

調査地区の南側（5・6・3・4）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は、長軸4.5m、短軸1.95m、深さ22cmである。出土遺物は縄文土器である。

#### 凹地 S X53

調査地区の南側（4・5・3）区で検出された。平面形は楕円形で、規模は、長軸3.56m、短軸2.14m、深さ18cmを計る。出土遺物は縄文土器である。図示したものは、図面13-2104である。

#### 凹地 S X54

調査地区の南西部（2・3・3・4）区で検出された。平面形は不定楕円形で、規模は、長軸5.73m、短軸1.88m、深さ18cmである。出土遺物は縄文土器である。

#### 凹地 S X55

調査地区の南西部（2・2・3）区で検出された。平面形は不正楕円形で、規模は、長軸5.9m、短軸2.75m、深さ28cmである。出土遺物は縄文土器である。

#### 凹地 S X56

調査地区的南側から北東側で検出された。縄文土器を含む黒色土層が検出され、調査地区中央部から東側へ向かって、黄褐色シルト層の下に緩やかに傾斜しながら潜り込む。この土層の変化を見るために、サブトレレンチを設定した。北側トレレンチとしたものは、S X56の北側で南西～北東方向に5mの長さで設定したものである。同じく、調査地区北東側で東西方向に南側トレレンチを10mに渡って設定した。ここで確認した範囲では徐々に厚さを増しながら調査地区外へ広がっている。南側でS X58に切られている。

この土層断面は第10図に、断面の位置は平面図の第9図に示し、次のように区分した。

第I層；第1層。黄褐色シルトが中心の土層。

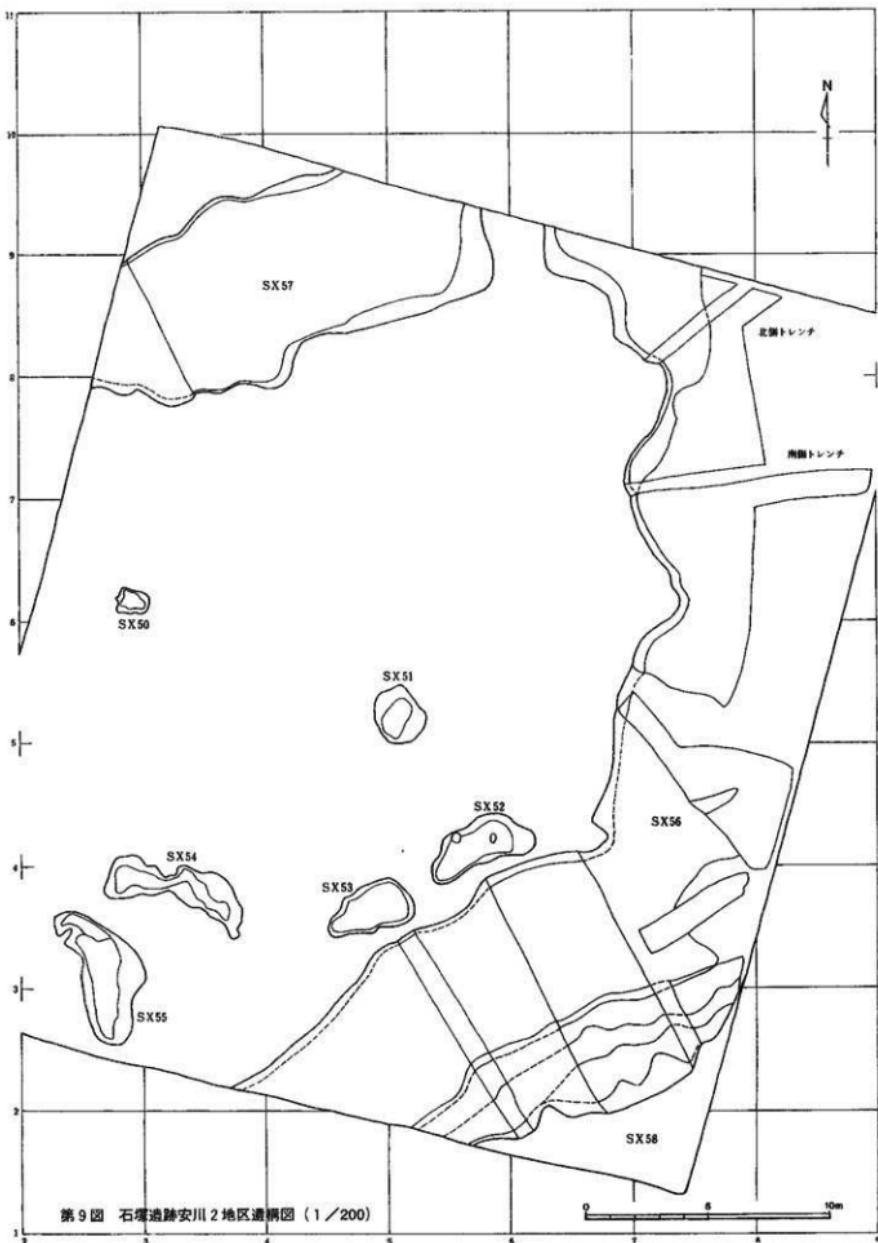
第II層；第2層。黒褐色粘質土が中心の上層。

第III層；第3層。黄褐色砂質土が中心の土層。

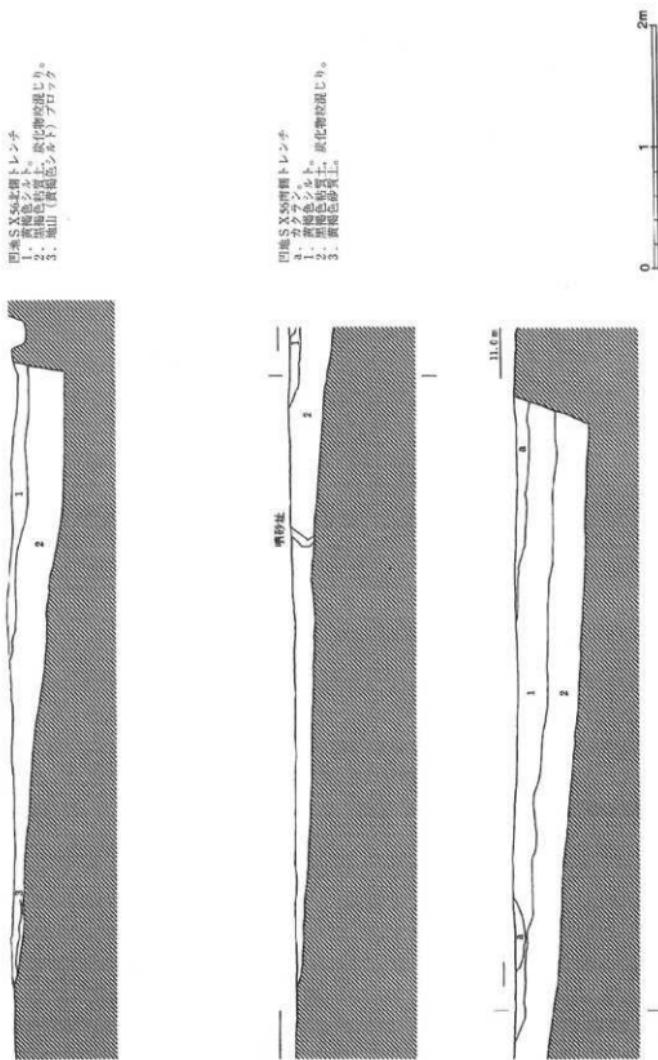
出土遺物は縄文土器、弥生土器である。図示したものは、図12-2101～2103、図13-2105～2109、2115である。

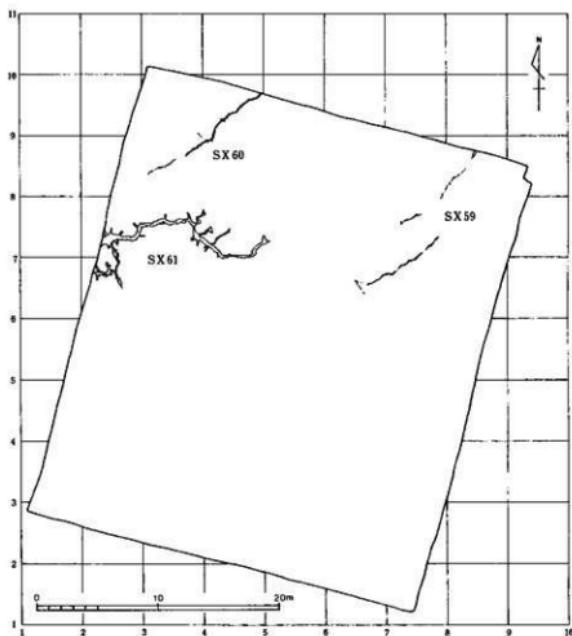
#### 凹地 S X57

調査地区の北西部で検出された。調査地区北側、西側で調査地区外に延び、調査地区外の北側でS X56とつながると思われる。規模は深さ20cm前後で極浅い。出土遺物は縄文土器である。



第10図 石塚造営川2地区凹地S X 56北壁・南側トレンチ土層断面図 (1 / 40)





第11図 石塚遺跡  
安川2地区地震址  
実測図 (1/400)

#### 凹地 S X 58

調査地区的南東隅で検出された。調査地区的東側～南側で調査地区外に延びる。上部が削平されていると思われ、明確な掘り方はなく、東に向かって緩やかに落ち込む。凹地 S X 56を北側で切っている。出土遺物は縄文土器、弥生土器である。図示した遺物は、図面13-2111～2113である。

## 2. 地震址

#### 地震址 S X 59

調査地区的北東側で検出された噴砂址である。南西～北東方向に走り、北東隅部で調査地区外へ延びる。

#### 地震址 S X 60

調査地区的北西側で検出された噴砂址である。南西～北東方向に走り、北西隅部で調査地区外へ延びる。

#### 地震址 S X 61

調査地区的西側で検出された地割址である。東西方向に走り、西側中央部で調査地区外へ延びる。

### III 遺 物

#### 1. 縄文土器

縄文土器は全ての凹地から出土している。図面12・13に、2101～2110として10点図示した。

##### 縄文後期の土器

縄文時代後期の土器として、図面12・13に、2101～2105、2108～2110として8点図示した。

**浅鉢** 図面12-2101。外面に煤が付着し、底部が欠損して全体の形は不明であるが、浅鉢とした。やや外反する4波頂の波状口縁を持つ。文様は口縁部に平行沈線文と弧線文が巡り、1本の短い綫で区切られている。内外面ともに、平滑に仕上げられている。口縁部の一部には補修孔と思われる穴が2箇所あり、貫通していないが焼成後に施されている。孔内面には回転痕が認められる。

**粗製深鉢** 図面12-2102.2103。図面13-2104.2105。口縁口縁を持つ粗製の深鉢である。2102の口縁部はわずかに肥厚しやや内傾する。口縁部外面に斜繩文を施し、それを擦り消すように4条の並行沈線が巡る。2105は口縁部に斜繩文が施された上に、押線文が2条巡っている。

**深鉢底部** 図面13-2108～2110。深鉢の底部である。2108は、底部外面に櫛代圧痕が認められる。この底部内面には煤が付着するが、内面の下部に限り炭化物は付いていない。

##### 縄文晚期の土器

縄文時代晚期の土器として、図面13に、2点図示した。

**深鉢** 図面13-2106.2107。短く「く」の字に外反する口縁部を持つ深鉢である。口縁部に横方向の条痕調整が見られ、口唇部に列点文を施している。

#### 2. 弥生土器

弥生時代中期の土器として、図面13に、5点図示した。

**壺** 図面13-2111。口縁部が外上方に向くものである。口縁部外面に櫛描刻目文が付き、頭部には櫛描直線文と櫛描波状文が付く。内外面の調整は刷毛目によるものである。

**甕** 図面13-2112.2113。口縁部が外反し外上方に拡がる。内外面の調整は刷毛目である。2112.2113は口端部が波状になっている。2113は胴上部から櫛描直線文と波状文が交互に付く。

**甕底部** 図面13-2114.2115。甕の底部片である。

## IV 結語

今回の調査は、区画整理の際、大規模な削平を受けたためか、遺構と見られる痕跡がなく、遺物も削除面積に比べて少量であった。また、本格的な作業が12月の天候不順な時期に入ったため、止むを得ず、遺構部分の検出、掘り下げは部分的な範囲に止まった。このため、遺物の収集、遺構の面的把握を徹底できず、可能な限り確認できた部分で、全体の性格を想定している。

今回の調査で検出したのは、凹地状の落ち込み、自然堆積と思われる遺物包含層である。これらを、遺構と見なすには問題があるが、出土遺物もあり、あえて遺構に類するものとして記載した。また、調査地区北側を中心に地震に伴う噴砂址が2箇所検出された。いずれも縄文時代の凹地を切っているが、他の遺構との切り合いがなく、下限は不明である。長さは約10m前後を計り、幅は5cmに満たないものが多い。また、噴砂に伴う砂脈でなく、炭なる土が入り込んでいる地割れ状のものを地震に伴う地割址とした。調査地区西側で調査地区外へ延びている。

### 縄文時代後期～晩期の遺構と遺物

縄文時代後期～晩期の遺構は、凹地8箇所（S X50～57）である。調査地区内は区画整理時に削平を受けたためS X50～55は僅かに残った遺構乃至自然堆積の痕跡と考える。いずれも、縄文土器が出土している。また、従来の地山層（黄褐色シルト）のドヘもぐり込むS X56が検出された。確認できた範囲では、S X57を含めて、調査地区北側から東側へ向かって更に深く下がり、調査地区外で広範囲に広がると思われる。この凹地やその土層の黄褐色土層が形成された背景には、往古の庄川などによる河川の堆積作用があり、当遺跡もその影響を強く受けていることが考えられる。

出土遺物は、確認できた範囲で、八日市新保1式～中崩式の時期に含まれる土器群である。これらの土器は、全般的に磨滅したものは少なく、接合できたものは凹地内か周辺にまとまって出土している。

全体として、遺構と判断できる土坑等は検出できなかったが、遺物の出土状況から、周辺にこの時期の遺構、遺物が存在する可能性が高いと思われる。

### 弥生時代中期の遺構と遺物

弥生時代中期の遺構は、凹地1箇所（S X58）である。掘り上げた部分は全体の半分程度で、確認できた範囲が少なく、全体の形態は不明である。浅い凹地であるが、S X56を切っており、何らかの遺構であった可能性もある。この弥生時代中期の遺物は、調査地区内に細片が散在している以外は、S X58から出土したためこの時期としている。

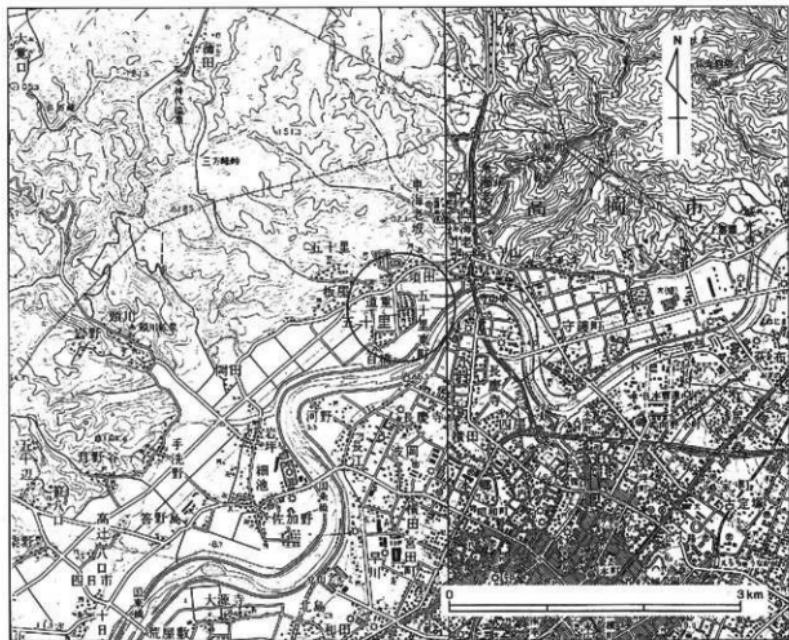
### 奈良・平安時代の遺構と遺物

出土遺物は、区画整理の際の整地層より、少量が散発的に出土している。いずれも、細片であり、全体を復元できるものはない。この時期に特定できる遺構は検出できなかった。

### 3. 須田藤の木遺跡、林地区

## 須田藤の木遺跡林地区、目次

I 序 説	27	III 結 語	30
II 遺 物	29		



第12図 須田藤の木遺跡位置図 (1 / 5万)

## I 序 説

### 遺跡概観

当「須田藤の木遺跡」は、高岡市街地の北西郊、約3.4kmに位置する。遺跡の南側を北西方に小矢部川が流れ、蛇行しながら富山湾に注ぐ。北西側約6.5kmには二上山があり、その山麓の西山丘陵下に位置する自然堤防上に当たる。小矢部川の氾濫原に囲まれる、標高約8mの微高地上に立地している。

周辺には、西側の丘陵上に板屋谷地A～C古墳群がある。昭和56年に試掘調査が行われた板屋谷地A 1号墳は鉄劍が出上し、4世紀初頭に位置づけられている。北側には五十里古墳群、北西には五十里道神社古墳群、北西側に須田不動谷地古墳群があり、当遺跡との関係が注目される。古代には、東大寺難田地の一つの「須加村」に当地周辺を当てる説もある。また、北陸道が、西山丘陵から二上山にかけての山麓を通って、国府に達していた。近世に至っても巡檢使道、水見往来として交通の要地として立地し続けたことが窺える。遺跡の範囲は、南北340m×東西310mを計り、微高地上の北半部に広がっている。



第13図 須田藤の木遺跡林地区位置図 (1/5,000)

### **調査に至る経過**

平成8年7月、市農業委員会より、農地転用と道路建設に伴う移転先としての住宅建設を知った。また、市能越自動車道対策課より、当該地の調査について問い合わせがあり、協議に入った。その後、市能越自動車道対策課と地主の畠下弘子、移転する朴賢省氏の承諾を得て、平成8年4月に試掘調査を行った。その結果、遺構を検出することはできなかったが、土師器、須恵器などの遺物が大量に出土した。これを受け、その後の協議により、同年8月に本調査を実施することになった。

調査地区は、五十里東町閉地の北側、五十里西町や道重集落の南側、道路の北東側に位置する。

### **調査経過**

発掘調査は、平成8年7月15日から同年8月14日まで実施した。実働調査日数は15日である。表土の除去はバックフォーで行い、場内西側に積み上げた。7月には表土掘削、資材搬入などの調査準備を済ませたが、諸般の事情から止むを得ず一旦休止し、8月に再開した。重機で調査地区北側の括幅を行った後、遺物包含層の掘り下げ、記録の作成を行った。調査地区の土層はいずれも粘性が強く、乾燥すると地割れが生じるため、散水を行うことで作業の進展を図った。

調査対象面積は826m<sup>2</sup>で、282m<sup>2</sup>の発掘を実施した。

### **基本層序**

基本層序は、厚さ10~20cmの耕作土の下に、厚さ5~10cmの黄褐色粘質土と厚さ20~40cmの黒褐色粘質土からなる区画整理時の整地層が現れる。その下から、厚さ5~20cmの黒色粘質土（遺物包含層）があり、黄褐色粘質上の地山に至る。出土遺物はほとんどが遺物包含層からの出土上で、上層からは極稀に細片が出土した。地山はほぼ平均に検出でき、若干北東隅側に落ち込んでいる。調査地区周辺は、戦後の区画整理で地形の改変を受けている。

### **検出遺構**

今回の調査地区では、検出できた遺構はなかった。調査当初から重機の掘削は遺物包含層の上で止め、人力で掘削する際も慎重に進めたが、明らかな遺構は確認できなかった。

### **出土遺物**

出土遺物は以下のとおりである。

土器・陶磁器類；土器、須恵器、近世陶磁器。

出土遺物は、包含層から出土したものがほとんどで、調査地区東側に集中して検出された。

### **グリッド**

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00"・東経137° 10' 00"）に合わせた。東西をX軸とし、南北をY軸とした。グリッドの表示は、南西隅の数値がそのグリッドを表すものとした。X=1、Y=1の地点は、原点より、西へ15.385km、北へ85.635kmへ向かった位置である。一辺5m四方を一区画とし、グリッドを割り付け、メッシュを表示した。

## II 遺 物

### 1. 古墳時代の土器類

#### 土師器

**高杯** 図面14-3101。高杯の脚部である。全体が崩滅し、調製技法は外面の指圧痕の他は不明である。

#### 須恵器

**杯** 図面15-3113。杯の受身である。内傾する短い立ち上がりを持つ。受部はやや上向きに外方へ延びる。

### 2. 奈良時代の土器類

#### 土師器

**杯** 図面14-3102。杯の口縁部である。

**蓋** 図面14-3103。杯蓋の口縁部片である。

**甕** 図面14-3106~3112。甕の口縁部である。

#### 須恵器

**杯A** 図面15-3114.3115.3118~3120.3123~3125。高台の付かない杯身の底部である。

**杯B** 図面15-3116.3117.3121.3122。高台の付く杯身の底部である。

**杯蓋** 図面15-3127.3128。杯蓋の口縁部片である。

**椀** 図面15-3130。椀の口縁部片である。

**短頸甕** 図面15-3131。短頸甕の口縁部~肩部である。

**広口甕** 図面15-3132。広口甕の口縁部である。

**壺** 壺図面15-3133。壺の肩部~胴部である。

### 3. 中世の土器類

#### 土師器

**皿** 図面14-3104.3105。3104はロクロ剥離の皿の底部で、3105は非ロクロ調整である。

#### 珠洲

**甕** 図面14-3134.3135。甕の胴部片である。

### 4. 近世の土器類

#### 越中瀬戸

**椀** 図面14-3136。越中瀬戸の椀の底部である。

### III 結 語

当遺跡は昭和45年に五十里東町団地造成の際に多量の土器が出上し、緊急調査が実施され、初めてその存在が確認された。

その際に、柱穴や土坑、円曲する溝を検出し、土師器、須恵器、土鉢、土製紡錘車が出土している。この遺物は古墳時代から奈良時代にかけての土器群である。遺跡の東側縁辺部では古墳時代初期の造構、遺物が多く検出され、奈良時代のものは比較的遺跡中央部～北側で確認されたとのことである。この調査の結果、当遺跡は古墳時代から奈良時代を中心とした集落遺跡であることが確認された。

昭和62年度には、当市教育委員会により当遺跡を含む五十里地区の遺跡分布調査が実施され、遺跡範囲の確認、内容の把握、総括がなされた。

今回の調査地区は遺跡の北東側で、住宅団地の北側に隣接し、造構、遺物の広がりが予想されたが、造構は検出できなかった。出土遺物は全てが遺物包含層からのもので、調査地区東側でまとまって出土した。多くの土師器は磨滅をしており、須恵器は破片の状態で、完形品は認められなかった。

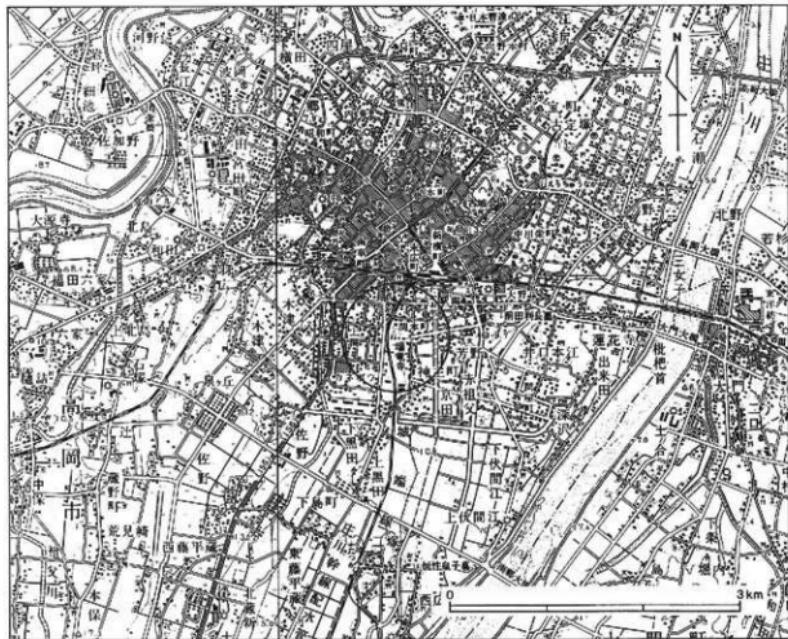
古墳時代の遺物は、6世紀末頃の須恵器の杯身などがあるが、出土量は極めて少なかった。奈良時代では土師器、須恵器があり、8世紀代の土器群が主体である。中世の遺物は、土師器、珠洲で、土師器の皿は14世紀後半～15世紀前半のものである。近世では、越中瀬戸がある。これらの中で、大半を占めるのは、奈良時代の土器類で、調査地区全域で検出された。

のことから、調査地区周辺には奈良時代を中心とした造構や遺物が存在し、その広がりは今回の調査地区の南端乃至東側にある可能性がある。

#### 4. 瑞龍寺遺跡、齊山地区

## 瑞龍寺遺跡斎山地区、目次

I 序 説	33	III 遺 物	39
II 遺 構	35	1. 土器類	39
1. 碓石建物址	35	2. 瓦	39
2. 井戸址	36	IV 結 語	40
3. 土坑	36		
4. 溝	37		
5. 瓦窯	38		



第14図 瑞龍寺遺跡位置図（1／5万）

## I 序 説

### 遺跡概観

当「瑞龍寺遺跡」は、高岡市街地の南西約0.9kmに位置する。遺跡西端を南北にJR城端線が走る。遺跡の西方には千保川が、東方を庄川が北流している。北側約1.8kmには古城公園（高岡城）が立地する、標高15mを計る高岡台地がある。当遺跡は高岡市関本町にある瑞龍寺とその周辺である。

周辺には、当遺跡の南東側約1kmに弥生時代から近世にいたる散布地としてHS-02遺跡がある。西側約1kmには古墳時代から中世にかけての赤祖父羽座間遺跡がある。東北東側約1kmには加賀前田藩2代藩主の前田利長の墓所である前田墓所遺跡がある。二重の堀に囲まれ、かつては約1万坪の規模であったという。この両遺跡を結ぶ八丁道遺跡も、前田墓所遺跡と同時期に造られたとされ、全長8丁（約872m）を計る。

遺跡の範囲は東西約400m×南北約350mである。現在も遺跡の周辺に当時の外堀が用水や道路として、かつての姿を止めている。



第15図 瑞龍寺遺跡寄山地区位置図 (1/5,000)

### 調査に至る経緯

平成8年9月、市農業委員会の照会で、当該地の農地転用と住宅建築計画を知った。そこで、地主の青山健一氏と協議、承諾を得て、平成8年9月に試掘調査を実施した。その結果、掘え方、土坑、溝が検出され、瓦等の遺物が多量に出土した。これを受けて、その後の協議により、引き続き同年同月に本調査を行なうこととなった。調査地区は、JR高岡駅の南西側約1km、JR城端線の南西側、瑞龍寺法堂の北西側に位置している。

### 調査経過

発掘調査は、平成8年9月25日から同年10月11日まで実施した。実働調査日数は12日である。表土の除去はバックフォーで行い、場内に積み上げた。遺構部分の掘り下げ後、記録の作成を行った。周囲に広い耕土地が確保できず、調査地区的設定は東側の遺構範囲の確認に重点をおいた。当初、予想していた以上に大規模な溝等が検出され、予定より期間を要した。

調査対象面積は201m<sup>2</sup>で、68m<sup>2</sup>の発掘を実施した。

### 基本層序

厚さ10~20cmの耕作土の下に、厚さ20cm前後で黒褐色砂質土、暗褐色砂質土の旧耕作土が現れる。この下層から、厚さ20~50cmに渡って黒褐色シルトの層が見られる。この層の中には、瓦が部分的にまとまって廃棄されており、瓦溜を形成している。この下層からは、茶褐色シルト、赤褐色シルトの層が現れる。この層の上に近世の礎石建物が築造されていることから、その際の整地層と思われる。地山は灰白色粘質土・青灰色粘質土である。この地山を掘り込んで、黒褐色粘質土からなる中世の溝、土坑が検出できた。

### 検出遺構

検出遺構は次の通りである。

礎石建物址（SB01）、井戸址（SE01.02）、土坑（SK01）、溝（SD01）、瓦溜（SX01.02）

この他に、近年の擾乱が2箇所検出された。

### 出土遺物

出土遺物は以下の通りである。

土器・陶磁器類；土師器、須恵器、珠洲、瀬戸美濃、越前、唐津。

瓦；焼瓦、釉薬瓦。

### グリッド

調査地区的グリッドは平面直角座標系の第7座標系（原点は北緯36° 00' 00"・東経137° 10' 00"）に合わせた。メッシュの表示は一辺5m四方を一つの区画とし、東西をX軸、南北をY軸とした。左斜め下の数値がそのグリッドを表すものである。X=1、Y=1の地点は、原点より、西へ13.775km、北へ81.315kmの位置である。

## II 遺構

### 1. 硏石柱建物址

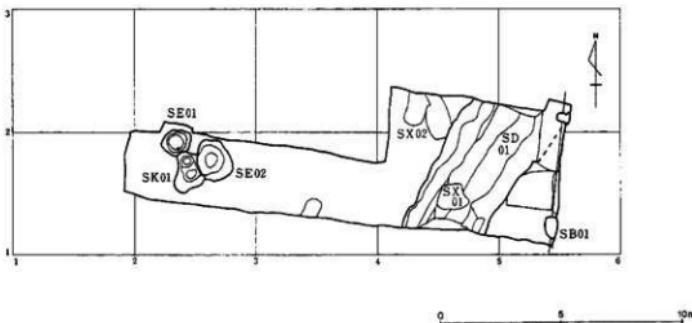
#### 礎石柱建物址 SB01

今回の調査で確認された掘え方は2基で、南北に延びる柱列の存在が考えられることや、本來の瑞龍寺境内で、瑞龍寺法堂に隣接する場所で検出されたため、礎石建物址と想定した。ただし、検出範囲が狭く、全体を把握していないため、今後の調査次第では再検討を必要とすると思われる。

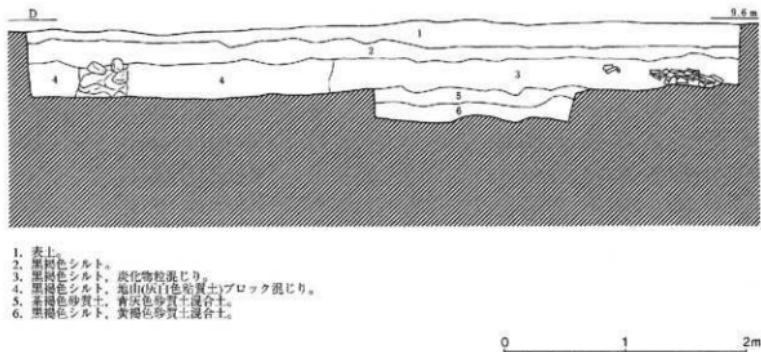
瑞龍寺法堂からJR城端線を挟んで20m北西に位置する。方位は真北に対し約5度東に偏っている。柱間は約4.5mを計る。掘え方2基は、調査地区的南東隅部(5, 1)区と、北東隅部(5, 2)区で、それぞれ検出された。

北東部の掘え方の平面形は隅丸方形を呈し、規模は、長軸0.58m、短軸0.4mを計る。地山上に10~20cmほど埋め立てて整地し、灰白色粘質土で基礎を固めた上に砂岩質の岩を据えている。南東隅部の掘え方の平面形は隅丸方形を呈し、規模は、長軸0.93m、短軸0.5mを計る。板石と思われる岩は確認できなかつたが、石を据えるための礎が敷いてあり、北東側と同じように掘え方として作られていたと思われる。

この土層断面図は第17図に示したとおりである。断面の位置は平面図の第18図に示した。観察・実測した断面は、調査地区東側の壁面を行つた。土層は基本的に耕作土・旧耕作土の下に、第2~4層の黒褐色シルトを中心とした上層がある。ここからは、燃し瓦が出土しているため、近世の整地層と思われる。出土遺物は南東部の掘え方からは釘1点が出土し、上層には近世の燃し瓦が多く堆積している。北東部の掘え方からは出土遺物は特に確認されなかつた。



第16図 瑞龍寺遺跡斎山地区遺構図 (1/200)



第17図 瑞龍寺遺跡礎石柱建物址 S E 01土層断面図 (1/40)

## 2. 井戸址

### 井戸址 S E 01

調査地区の西側(2, 2)区で検出された素掘りの井戸である。地山が砂質土のため、底部まで完掘することはできなかった。平面形は不定輪円形を呈し、規模は、長軸1.26m、短軸1.0m、深さ119cmまで確認している。南東部をS K 01に切られている。出土遺物は、須恵器、中世土師器である。また、丸木が遺構中心部より南側にずれて出土し、上部は欠損している。この丸木は意図的に立てられたものかは不明である。図示した遺物は、図面16-4101.4109である。

### 井戸址 S E 02

調査地区の西側(2, 2)区で検出された。平面形は梢円形を呈し、規模は、長軸1.78m、短軸1.38m、深さ96.5cmを計る。西側をS K 01に切られている。出土遺物は、須恵器、中世土師器である。S E 01に比べて浅く、断面図はV字状を呈しており、井戸址とすれば溜め井と思われる。

## 3. 土 坑

### 土坑 S K 01

調査地区の西側(2, 1)区で検出された。平面形は梢円形を呈し、規模は、長軸1.78m、短軸1.24m、深さ68.6cmを計る。北側をピットとS E 01に切られ、東側をS E 02に切られている。出土遺物は確認されなかった。

#### 4. 溝

##### 溝 S D01

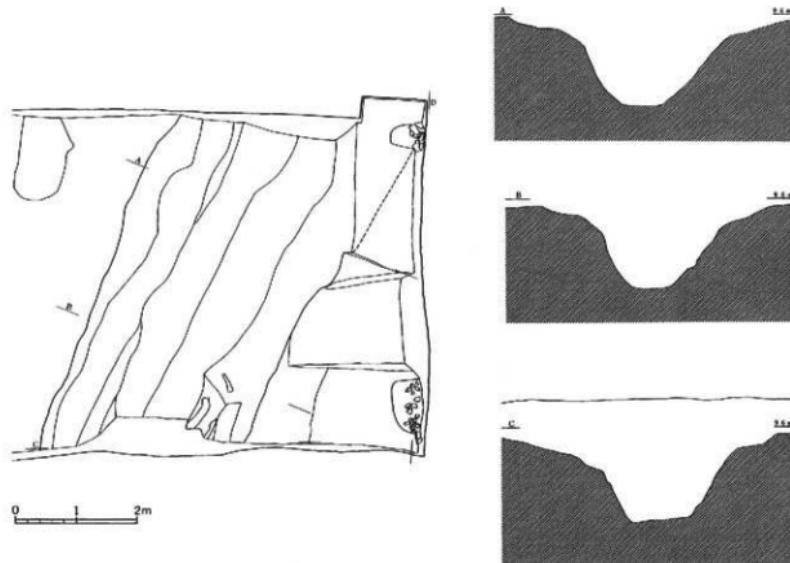
調査地区東側で検出された北東から南西方向に走る溝である。規模は長さ6.39m、上面幅3.2~3.6m、底面幅0.6~0.9m、深さは140~156cmを計る。北東側、南西側は共に調査地区外へ延びる。方位は真北に対し45度東に振っている。現在の瑞龍寺とは東西方向に直交しないことや、この溝を埋め立て、整地した上に礎石建物址S B01が作られていることなどから瑞龍寺創建以前にあった溝と思われる。この溝の土層断面図は第19図に、断面の位置は平面図の第18図に示した。土層は基本的に次のように分類される。

第Ⅰ層；第1層。茶褐色シルトの層。

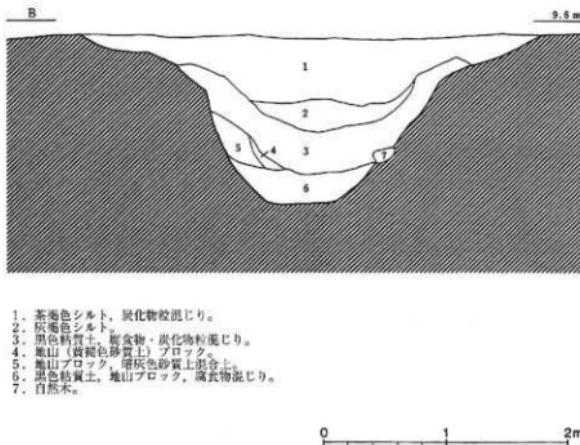
第Ⅱ層；第2層。灰褐色シルトの層。

第Ⅲ層；第3~6層。黒色粘質土層を中心の土層。

第Ⅰ層は、出土した唐津から、近世の土層と考えている。第Ⅱ層以下は、腐食物を多量に含む黒色土層で、平安時代の須恵器や中世土師器が出土し、中世の土層と考える。上層の近世の遺構との関係上、溝の年代は第Ⅱ層以下の中世と思われる。出土遺物は須恵器、土師器、唐津が出土した。図示した遺物は、図面16-4102~4108、4110である。



第18図 瑞龍寺遺跡礎石建物址 S B01・溝 S D01実測図 (1/80)



第19図 瑞龍寺遺跡溝S D01土層断面図（1／40）

## 5. 瓦 潟

これらは、表土の下50cm前後でまとまって近世の瓦が出土したため、小規模であるが瓦澗とした。遺物は相互にまたがって接合するため、一時期に一括して廃棄されたと思われる。出土したのは、焼し瓦、釉薬瓦で、完形品に復元できるものは少ない。

### 瓦澗 S X01

調査地区的南西部（4，1）区で検出された。平面形は梢円形を呈し、規模は、長軸1.3m、短軸1.1m、深さは表土より50cmで検出された。出土遺物は土師器、越前、焼し瓦（押印のある平瓦2点）、釉薬瓦である。また、押印のある瓦は昭和63年の前田墓所遺跡の調査でも出土しており、焼し瓦の丸瓦、平瓦それぞれの端面に押印が押されていた。図示した遺物は、図面16-4118である。瓦は、図面17-4202、図面18-420、図面19-4209~4211、4213~4216、図面20-4217、4218、4220、4221、4223、図面21-4224、4227、4229、4232である。

### 瓦澗 S X02

調査地区的北側（4，1・2）区で検出された。平面形は梢円形、規模は、長軸は2.0m、短軸は1.0m、深さは52cmを計る。出土遺物は土師器、須恵器、越前、陶磁器、焼し瓦、釉薬瓦がある。図示した遺物は、図面16-4113、4114、4118である。瓦は、図面18-4204、図面19-4212、図面20-4219、4222、図面21-4225、4226、4228、4230である。

### III 遺 物

#### 1. 土器類

##### 1. 平安時代の土器類

平安時代中頃の土師器、須恵器として、図面16-4101, 4110, 4111の3点図示した。

###### 土師器

■ 図面16-4101。非口クロ調整の土師器の小皿である。

###### 須恵器

鉢 図面16-4111。鉢の底部である。

双耳瓶 図面16-4110。双耳瓶の胴下部である。

##### 2. 中世の土器類

中世の上師器、珠洲、陶器類として、図面16-4102~4109, 4112~4116の13点図示した。

###### 土師器

■ 図面16-4102~4109。非口クロ調整の上師器の小皿である。

###### 珠洲

甕 図面16-4112~4115。甕の胴部である。いづれも、細片で全体の器形は不明である。

###### 瀬戸美濃

おろし皿 図面16-4116。瀬戸美濃系のおろし皿である。

##### 3. 近世の土器類

近世初期の陶器類として、図面16-4117, 4118の2点図示した。

###### 越前

甕 国面16-4118。大甕の口縁部である。内外面に鉄塗りを施す。

###### 唐津

碗 国面16-4117。肥前陶器である。底部のみが残存するため、皿の可能性もある。

#### 2. 瓦

近世の瓦として、図面17~21で、32点図示した。

##### 1. 燻瓦

軒丸瓦 国面17-4201。軒丸瓦の瓦頭部片で、文様は中央に三つ巴と、周間に珠文が取り巻く。

丸瓦 国面17-4202。国面18-4203~4208。4202は、唯一ほぼ全体の形を止める。

平瓦 国面19-4209~4216。4209, 4211, 4212は、小口に押印がなされている。

##### 2. 精藁瓦

丸瓦 国面20~4217~4223。4217~4220は、丸瓦の狭端部で、4221~4223は、広端部の破片である。

平瓦 国面21-4224~4232。4228は、一部に精藁がかかるものである。

## IV 結 語

### 瑞龍寺

瑞龍寺の始まりは、慶長18年（1613年）に加賀前田藩2代藩主前田利長が富山から招いた広川惣陽押師を開山とする宝円寺（法円寺）と言われている。翌慶長19年（1614年）に前田利長が逝去した際に、瑞龍寺と改称したとされている。この宝円寺（法円寺）と現在の瑞龍寺との伽藍の位置関係は明確ではない。

現在の総門・山門・仏殿・法堂などからなる伽藍配置は、加賀前田藩3代藩主前田利常が先代前田利長の菩提寺として建立した際のものである。正保2年（1645年）に起工、明暦2年（1656年）までに主要な建物が完成し、寛文年間に完工したとされる。明治に入り、窶築置県後、前田藩の庇護が断たれ、寺地は荒廃し、大きく改変した。しかし、かつての寺地は11万m<sup>2</sup>余りで、幅3mの溝を一重に巡らし、内区に主要伽藍を置き、外区には4つの塔頭が建てられていた広大な規模であった。その後、昭和10年から13年にかけて総門・仏殿・法堂の修理工事がなされ、同時に調査がされている。昭和63年に境内の一部で行なわれた発掘調査では、瑞龍寺に水を供給していた木製の橋が出土し、初期瑞龍寺に間違すると思われる江戸時代初頭の溝が検出されている。

### 中世の遺構と遺物

中世の遺構としては溝SD01、井戸址SE01.02と土坑SK01がある。SD01の出土遺物は、平安時代の須恵器の他、12世紀～13世紀代の上飾器があるため、この時期としている。南西～北東方向へ延びると思われ、現瑞龍寺の伽藍配置とは直交しない。確認できた範囲が少ないため、全体の規模は不明であるが、深さ、幅共に、1mを越える大規模な溝である。井戸址としたものは、井戸と確定できる構造ではないが、一定以上の深さと規模を持つ遺構を井戸址とした。井戸址SE01.02とも、出土した上飾器から同様の時期の遺構と思われる。SE02を切っているSK01に出土遺物はないが、遺構埋土が類似しており時期に大きな差はないと考える。今回、これらの遺構が検出されたことで、調査地区を含む周辺に、近世瑞龍寺以前の遺構・遺物が存在することが確認できた。

### 近世の遺構と遺物

この時期の遺構としたものは、礎石建物址1棟（SB01）と瓦溜2箇所（SX01.02）である。礎石建物址は、中世のSD01等の廃絶後に、上部を整地・盛上して造られている。この据え方のすぐ上層には、焼瓦が伴出していることから、近世初頭に属するものと思われる。この礎石建物廃絶の後、瓦が廃棄されて瓦溜が形成されたと思われる。この瓦溜は、表土下50cm前後の深さで平均に出土し、相互に接合可能な点も認められるため、一時期に一括して廃棄されたものと考える。SX01.02の年代は、釉薬瓦が混在している点から18世紀代以降と思われる。しかし、下限を示す遺物が検出できなかったため、具体的な時期は不明である。

礎石建物址については、法堂の背後に隣接して建てられていた建物址として、瑞龍寺に間違する遺構である可能性が高い。具体的な比定は、全体の規模や時期的に不明確な点も多く、なお検討が必要である。

## 5. 試掘調査地区

## 試掘調査地区、目次

I	はじめに	43	V	その他の遺跡	52
II	石塚遺跡、室山地区	44	1.	H S—01遺跡、松木地区	52
1.	概観	44	2.	木津神社遺跡、福田地区	52
2.	遺物	45	3.	中保C遺跡、上野地区・浅谷地区	53
3.	小結	45	4.	西海老板遺跡、イカリ竣工地区	54
III	越中國府間連遺跡、林地区	46	5.	石塚江之介遺跡、石浦地区	54
1.	概観	46	6.	柴野遺跡、横山地区	55
2.	遺物	47			
3.	小結	47			
IV	H S—02遺跡、各地区	48			
1.	概観	48			
2.	おおぞら地区	48			
3.	宮西地区	48			
4.	田中地区	49			
5.	土星ホーム地区	49			
6.	東海ソフト地区	49			
7.	後井地区	50			
8.	川淵地区	50			
9.	富山テレビ地区	50			
10.	林地区	51			

## I はじめに

これは、緊急調査として、平成8年度に岡崎補助金の交付を得て実施した、市内各所の試掘調査についての報告である。

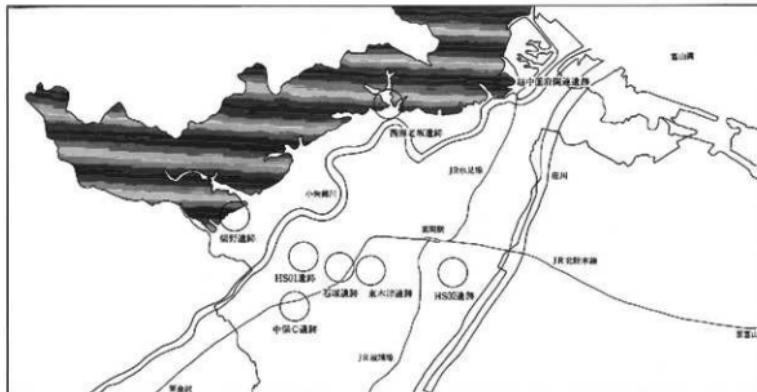
今年度に実施した高岡市内の試掘調査は、22件に及び、近年にない件数を数えた。調査対象の遺跡は10遺跡に及び、調査対象面積は23,512m<sup>2</sup>を数え、2,353m<sup>2</sup>の発掘を実施した。調査原因は、住宅建設、事業所建設、道路建設、駐車場建設など多岐に渡っている。

中でも、高岡駅の南に位置するH S-02遺跡では、近年、市街化が急速に進み開発行為が増加している。調査件数は、調査全体の内の9件を占め、発掘面積は966m<sup>2</sup>に及んでいる。

今回の調査のうち、石塚遺跡庭田地区では遺跡の南東隅側の広がりを確認し、越中国府関連遺跡林地区は粘土探査跡を検出し、奈良・平安時代から近世にかけての遺物が出土した。両遺跡は、市内でも著名な遺跡で出土遺物も多いため、遺構図を掲載し、概要を記載した。その他の調査については、遺構、遺物の出土がわずかなため概略の記述に止めた。

調査方法は、重機等により、幅約2mの試掘坑を設定し、遺構の範囲、遺物の出土状況を確認した。遺構遺物が検出された場合には、適宜試掘坑を拡張した。地山を含む土層の変化を見るため、随時、部分的に深掘りを行った。その後、写真や図面等の記録を作成し、埋戻しを行なった。

調査は、農閑期に集中的に行い、それでも対応できないため本調査と調整しながら実施せざるを得なかつた。



第20図 試掘調査関係遺跡位置図 (1/15万)

## II 石塚遺跡、窪田地区

### 1. 概観

#### 調査概要

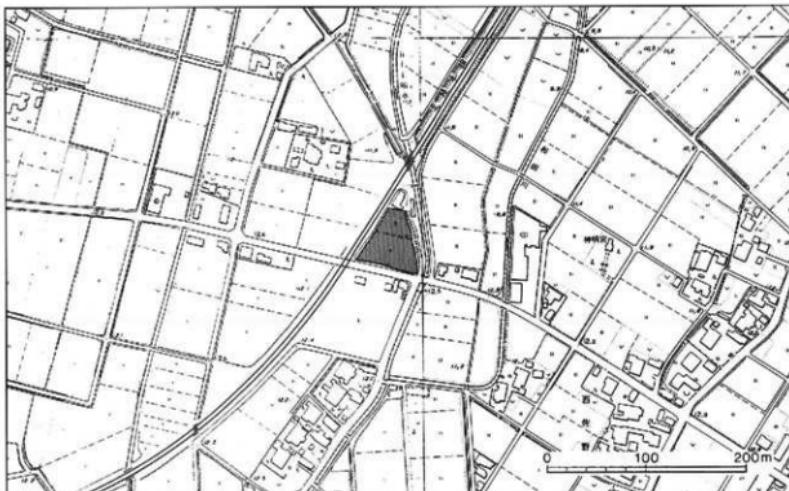
調査地区の西側にJR北陸本線が走る。調査地区南西隅にJR北陸本線石名瀬踏切がある。南側に石名瀬集落、東側に和田川、東隣りの五十玉用水に挟まれた箇所にある。当遺跡の南東隅部にあたる。当遺跡の立地する微高地と一段下りた所、和田川の氾濫原との境に位置する。標高は12mを計る。遺跡範囲は、南北600m×東西470mを計る。調査地区的所在地は、高岡市和田1169-1である。調査期間は、平成8年12月3日～12月4日で実働2日間である。調査対象面積は、1,000m<sup>2</sup>で、調査面積は319m<sup>2</sup>となった。

#### 基本層序

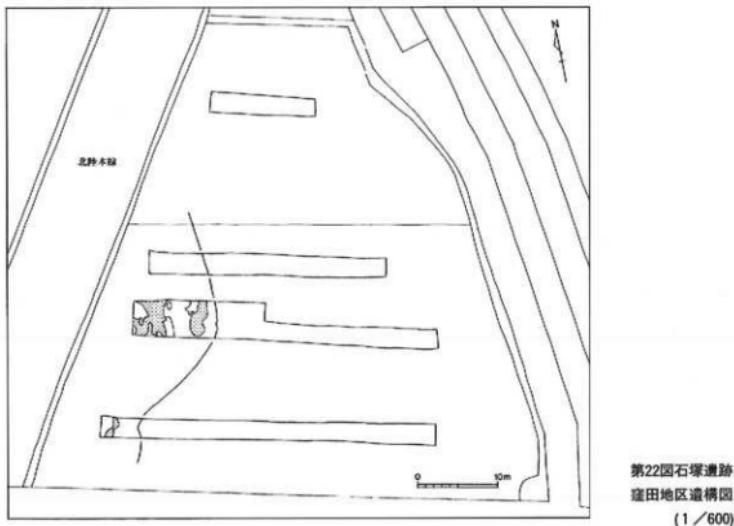
厚さ20～30cmの耕作土の下に、5～40cmの範囲で黄褐色砂礫と黒色土、礫との混土層の第2層がある。この第2層は東に向かって傾斜し、また、それとともに層の厚さも増していく。その下には部分的に見られる厚さ5～10cmの黒褐色土層（第3層）を確認した。地山は黄褐色砂礫と青灰色砂礫で形成され、和田川に向かって傾斜する。また、遺物包含層は第2層、第3層で、主に弥生土器が出土している。

#### 遺構

土坑；上部を削平されているため、小規模で浅いものが多く、多くが近年の擾乱で切られている。



第21図 石塚遺跡窪田地区位置図(1/5,000)



## 2. 遺物

土器・陶磁器類；弥生土器、土師器、須恵器、中世土師器、陶磁器。図22-5101～5108の8点を図示した。

### 1. 弥生土器

**壹口縁部** 図面22-5101。口縁部が外反して外上方に拡がる。口縁端部外面に列点文が付く。

**斐口縁部** 図面22-5102～5104。5103は口縁部が波状になる。5104は口端部外面に獣描文列点文が付く。

### 2. 須恵器

**杯A** 図面22-5105。高台の付かない杯身の底部である。

**杯蓋** 図面22-5106。杯蓋の天井部片である。

**甕** 図面22-5107～5108。甕の口縁部である。

## 3. 小結

調査地区内には、地山面を含む深さまで削られ、東の和田川方向に盛土されていた。調査地区西側には表土下20cm程度に地山層があり、浅く小規模な土坑が検出された。出土遺物は、弥生時代中期の土器や奈良・平安時代の土師器、須恵器を中心として調査地区全般で確認している。これらのことから、遺跡の範囲はJR北陸本線を越えて、東側にも一部広がっていることを確認した。

### III 越中国府関連遺跡、林地区

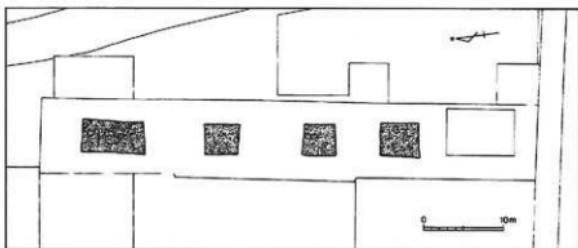
#### 1. 概観

##### 調査概要

当遺跡は、小矢部川左岸に位置する伏木台地上に位置し、越中国府跡推定地、越中国分寺跡などの遺跡を総称して、越中国府関連遺跡としている。当遺跡の発見の契機は、昭和11年（1936年）に上田三平、堀井三友氏により薬師寺堂近辺の調査がなされ、越中国分寺跡の存在が想定されたことが最初である。その後、昭和41年には富山県教育委員会・富山考古学会会員による調査団が結成され、国分寺跡や国府跡に発掘調査が行なわれた。その後、当市教育委員会によって、昭和60年から現在まで、開発行為に伴う調査が断続的に実施されている。その内、昭和61年～平成2年には越中国府関連遺跡発掘調査事業により、越中国府跡等の遺跡主要部分の確認がなされた。遺跡範囲は南北2.15km×東西1.75kmを計り、台地全域に広がる。調査地区的所在地は、高岡市伏木古府2丁目220で、勝興寺の南西隅に隣接する箇所に位置する。調査期間は、平成8年12月25日～12月26日で、実働2日間である。調査対象面積は145m<sup>2</sup>で、調査面積は20m<sup>2</sup>である。



第23図 越中国府関連遺跡林地区位置図 (1/5,000)



第24図 越中  
国府関連遺跡  
林地区遺構図  
(1/600)

### 基本層序

厚さ30cm前後の表土の下に、60cm前後で黒褐色土と赤褐色土（地山層）の混土層がある。この層より、遺物の大半が出土している。この下には、黄褐色粘質土か黄褐色砂質土が現れる。

### 遺構

近年の粘土探掘が地山面まで及んでおり、遺構は検出できなかった。

## 2. 遺物

土器・陶磁器；土師器、須恵器、中世土師器、陶磁器、瓦類である。図面22に6101～6106の6点図示した。

### 1. 須恵器

椀 図面22-6102。椀の口縁部。

杯A 図面22-6103。高台の付かない杯の底部片である。

杯蓋 図面22-6104。杯蓋の口縁部片である。

甕 図面22-6106。甕の口縁部片である。

瓶 図面22-6105。瓶の把手片である。

### 2. 土師器

柱状高台皿 図面22-6101。ロクロ整形の土師器である。

## 3. 小結

調査地区周辺では、これまで昭和62年度の勝興寺西側地区、平成3年度の高岡市下水道古府申岡技線地区の調査が行なわれている。平成3年度の調査では、柵址、土坑、溝が多数検出され、奈良・平安時代の土器群や御亭角廬寺や四分寺タイプに類する瓦が出土している。柵址については、律令期の国庁に関連するとされている。今回の調査では、近年の粘土探掘跡が、調査地区的全域で確認された。この探掘は地山の赤褐色土層の全てに及び、遺構は確認できなかった。遺物は、この擾乱の堆上中から奈良・平安時代の土師器、須恵器や中世土師器、陶磁器類、瓦類が多量に出土した。

## IV HS-02遺跡、各地区

### 1. 概観

#### 調査概要

HS-02遺跡は西に千保川、東に庄川が北東方向に流れ、2つの河川に挟まれた沖積低地にある。北側には高岡台地が位置する。南側には沖積低地が広がっている。当遺跡は弥生時代から近世にまたがる散布地である。周囲の遺跡には、北西側1.3km離れた所に瑞龍寺遺跡、北側に八丁道遺跡、北東側に前田墓所遺跡がある。遺跡の範囲は南北400m×東西1.3kmである。

#### 基本層序

各調査地区的層序は、多少の差異はあるが概ね下記の様相を示す。

表土15~20cmの下に、腐食物を多く含む厚さ20~40cmの黒色粘質土層があり、さらに腐食物を含む厚さ30~50cmの青灰色乃至、暗灰色の粘質土層が現れる。その下に黄褐色粘質土、青灰色砂礫の地山が現れる。

### 2. おおぞら地区

#### 概要

所在地	高岡市京田623
調査期間	平成8年4月18日（1日間）
対象面積	749m <sup>2</sup>
調査面積	22m <sup>2</sup>
調査の原因	事務所建設
原因者	老人保健施設おおぞら

#### 調査結果

遺構は検出されなかった。珠洲焼、陶磁器などが出土した。厚さ20cm前後の表土の下に、黄褐色土の地山が表れた。近年の擾乱が認められ、戦後の区画整理時に地山を含めた地形の変化がなされている。

### 3. 宮西地区

#### 概要

所在地	高岡市赤祖父748
調査期間	平成8年4月18日（1日間）
対象面積	2,281m <sup>2</sup>
調査面積	40m <sup>2</sup>
調査の原因	住宅建設

**原因者** 宮西義治

**調査結果**

遺構は検出されなかった。弥生土器、陶磁器などが出土した。表土の下は、厚さ1mにわたって腐食物を含む黒色土が堆積し、青灰色砂質土に至る。遺物は表土や黑色土層中に僅かに認められる。

#### 4. 田中地区

**概要**

**所在地** 高岡市京町368

**調査期間** 平成8年4月22日（1日間）

**対象面積** 2,757m<sup>2</sup>

**調査面積** 110m<sup>2</sup>

**調査の原因** 住宅建設

**原因者** 田中治市

**調査結果**

遺構は検出されなかったが、陶磁器などが出土した。

#### 5. 土屋ホーム地区

**概要**

**所在地** 高岡市京町631

**調査期間** 平成8年5月20日（1日間）

**対象面積** 720m<sup>2</sup>

**調査面積** 129m<sup>2</sup>

**調査の原因** 事務所建設

**原因者** 東日本ハウス（株）

**調査結果**

遺構、遺物は検出できなかった。

#### 6. 東海ソフト地区

**概要**

**所在地** 高岡市京町624-1

**調査期間** 平成8年9月24日（1日間）

**対象面積** 2,809m<sup>2</sup>

調査面積 214m<sup>2</sup>

調査の原因 事務所建設

原因者 田中 実他

#### 調査結果

土師器、須恵器、陶磁器が出土した。遺構は検出できなかった。

## 7. 筏井地区

#### 概要

所在地 高岡市下伏間江329

調査期間 平成8年10月14日（1日間）

対象面積 2,220m<sup>2</sup>

調査面積 78m<sup>2</sup>

調査の原因 駐車場建設

原因者 筏井調査

#### 調査結果

出土遺物や検出遺構は確認できなかった。

## 8. 川渕地区

#### 概要

所在地 高岡市下伏間江330

調査期間 平成8年10月14日（1日間）

対象面積 1,281m<sup>2</sup>

調査面積 44m<sup>2</sup>

調査の原因 住宅建設

原因者 川渕一郎

#### 調査結果

遺構、遺物ともに検出できなかった。

## 9. 富山テレビ地区

#### 概要

所在地 高岡市京田664-1

調査期間 平成8年12月9日（1日間）

対象面積 2,179m<sup>2</sup>  
調査面積 264m<sup>2</sup>  
調査の原因 事務所建設  
原因者 富山テレビ事業部

#### 調査結果

土師器、須恵器、陶磁器が出土した。近年の溝を検出した。

## 10. 林地区

#### 概要

所在地 高岡市赤祖父774  
調査期間 平成8年12月10日（1日間）  
対象面積 1,247m<sup>2</sup>  
調査面積 65m<sup>2</sup>  
調査の原因 住宅建設  
原因者 林 三郎

#### 調査結果

遺構は検出できなかった。出土遺物はない。



第25図 HS-02遺跡各調査地区位置図（1／1万）

## V その他の遺跡

### 1. HS-01遺跡、松木地区

#### 遺跡概観

HS-01遺跡は小矢部川左岸の氾濫原に位置する。当遺跡南西側の微高地上に池田集落が立地する。南側には国道8号線が東西に走る。北西方向には小矢部川が北流する。南東側には東五位小学校、内鳥集落がある。周辺には小矢部川を挟んで奈良～平安時代にかけての赤丸古村遺跡、祖父川の東側に绳文時代から中世の石塚江之戸遺跡がある。遺跡の範囲は南北200m×東西1.0kmである。

#### 基本層序

厚さ平均20cmの表土下に黄褐色粘質土の地山が現れる。遺物包含層は検出できなかった。

#### 概要

所在地	高岡市池田67-4
調査期間	平成8年4月23日（1日間）
対象面積	498m <sup>2</sup>
調査面積	129m <sup>2</sup>
調査の原因	道路建設
原因者	松木美千代

#### 調査結果

調査地区内からは川用水と思われる溝が検出されたに止まり、出土遺物も極めて少なかった。

### 2. 木津神社遺跡、福田地区

#### 遺跡概観

木津神社遺跡は西木津集落の南側台地上に立地している。遺跡の西側に和田川が北流し、JR北陸本線が走る。東側には千保川、新川が流れ、これらに挟まれた標高10～11mの自然堤防の台地状微高地となっている。周辺には、南側に隣接して弥生時代・奈良～中世にかけての東木津遺跡がある。北西側には中世から近世の西木津遺跡がある。東側には弥生時代から占墳時代の石名瀬B遺跡が位置する。

遺跡の範囲は東西280m×南北380mである。

#### 基本層序

表土20cm前後の下に黄褐色粘質土の地山がある。遺構覆土は黒褐色粘質土、暗灰色土に地山ブロック混在の2種類が見られた。

#### 調査概要

所在地	高岡市木津966-5、967-4
調査期間	平成8年4月24日（1日間）

対象面積	660m <sup>2</sup>
調査面積	232m <sup>2</sup>
調査の原因	事務所建設
原因者	福田 博

#### 調査結果

出土遺物は土師器、上層から近世陶器が出土した。また調査地区内全域で溝、土坑を検出した。全域清掃後、写撮、実測による記録の作成を行なった。

### 3. 中保C遺跡、上野地区・浅谷地区

#### 遺跡概要

中保C遺跡は標高10~12mの微高地にある。北側にはJR北陸本線が走り、西側に祖父川が流れ、隣接して北陸自動車学校がある。平成元年度の試掘調査では遺構が検出されず、古墳~奈良時代の土師器、須恵器が出土している。遺跡の範囲は東西75m×南北150mである。

#### 調査経過

調査地区は互いに隣接するため調査を同時に行なった。

#### 基本層序

厚さ20~30cm前後の表土の下に、厚さ35~60cmの暗灰色粘質土があり、その下に灰白色、黄褐色粘質土の地山がある。調査地区は西から北東に向かって傾斜し、北東側で1m近くの落ち込みを確認した。

#### 上野地区調査概要

所在地	高岡市中保48-7
調査期間	平成8年4月25日~4月26日（2日間）
対象面積	497m <sup>2</sup>
調査面積	144m <sup>2</sup>
調査の原因	住宅建設
原因者	上野一美

#### 浅谷地区調査概要

所在地	高岡市中保48-8
調査期間	平成8年4月25日~4月26日（2日間）
対象面積	497m <sup>2</sup>
調査面積	128m <sup>2</sup>
調査の原因	住宅建設
原因者	浅谷克昌

#### 調査結果

出土遺物は近世陶磁器が少量出土したに止まり、遺構も検出されなかった。

## 4. 西海老坂遺跡、イカリ建工地地区

### 調査概要

西海老坂遺跡は、西山丘陵を分断する海老坂断層が走る谷地形に位置する。南側には小矢部川が蛇行しながら宮山湾に注ぎ、東側には国道160号線が走る。北側には県立上工工業高校がある。北東方向の二上山に続く尾根上には東海老坂ダイラ古墳群や中世から近世の守山城が位置する。西側の丘陵上には、西海老坂小田谷地古墳群がある。近世には高岡と氷見をつなぐ氷見往来が通り、交通の要地として位置していた。遺跡の範囲は、東西125m×南北150mを計る。

### 調査経過

調査地区は遺跡西側に位置する。

### 基本層序

厚さ20~30cmの耕作土の下に、15cm前後の厚さで黒褐色粘質土があり、暗灰色粘質土の地山が現れる。

### 調査概要

所在地	高岡市東海老坂字大坪612
調査期間	平成8年6月20日（1日間）
対象面積	455m <sup>2</sup>
調査面積	38m <sup>2</sup>
調査の原因	住宅建設
原因者	イカリ建工（株）代表取締役 山下善吉

### 調査結果

東側から西側へ緩やかに傾斜している地山を検出したが、遺構は確認できなかった。遺物は土師器、須恵器等の小片が出土している。

## 5. 石塚江之戸遺跡、石浦地区

### 調査概要

石塚江之戸遺跡は、上北島と石塚の集落の中間に、標高11mを計る台地上に位置する。遺跡の西側を祖父川が流れ、北側を国道8号線が東西に走る。北側に隣接して都山計画道路下伏間一福田線が走る。平成6年度に発掘調査を行い、古墳時代、中世の溝を検出している。遺跡の範囲は東西150m×南北125mである。

### 基本層序

厚さ10~20cmの表土の下に、厚さ平均10cmの黄褐色土があり、この土層は東へ行くと消滅する。平均30cmの黒褐色粘質土がある。これらは区画整理の際の盛土層と思われる。この下に5~10cmの黒色粘質土があり、遺物を含んでいるが、削平され土が動いている箇所もある。地山は黄褐色粘質土である。

### 調査概要

所在地	高岡市上北島212-1、238-1
調査期間	平成8年9月19日（1日間）

対象面積 1.392m<sup>2</sup>

調査面積 186m<sup>2</sup>

調査の原因 資材置場

原因者 石浦正雄

#### 調査経過

今回の調査地区は隣接する2箇所を同時に調査した。

#### 調査結果

調査地区中央部に、谷地形が認められる。他の場所は40cm～50cmの深さで地山に達する。遺構、遺物は調査面積に比べ少なく、検出遺構は中世の溝1条があり、出土遺物は土師器、須恵器、陶磁器で、部分的に残存する黒褐色粘質上の遺物包含層より出土した。

## 6. 柴野遺跡、横山地区

#### 遺跡概観

柴野遺跡は柴野集落の南側、麻生谷集落の北側、標高18m丘陵据部に位置する。東側に小矢部川が流れ、西側に西山丘陵が広がる。平成2年に同遺跡西光寺地区で試掘調査がなされている。同遺跡には古墳～中世の遺跡が散布している。周囲の遺跡には、東側の丘陵上に柴野口割I～IV古墳群、中世山城の柴野城ヶ平遺跡、南北側に古墳～中世の麻生谷遺跡がある。北京間に奈良～中世の八戸遺跡がある。遺跡の範囲は、南北550m×東西600mである。

#### 調査概要

所在地 高岡市柴野577-3、578

調査期間 平成8年10月15日（1日間）

対象面積 1,281m<sup>2</sup>

調査面積 202m<sup>2</sup>

調査の原因 住宅建設

原因者 横山周一

#### 調査結果

調査地区は遺跡の北西側、西山丘陵の麓に位置する。

#### 基本層序

厚さ20cm前後の表土の下に黄褐色粘質土の地山がある。また、東側に傾斜する地山上に厚さ20～30cmの黒褐色土と地山土との混土層が見られる。西側から車輪により削平された土砂が押し出されて盛られたと思われる。

#### 調査結果

調査地区全体で重機のキャタピラ跡が検出されており、西側の山裾から東へ向けて地山面まで削平を受けたと見られる。検出遺構は極めて浅いものである。遺物は、盛土層から破片が出土壤している。

## 参考文献

- 高岡市役所 1909 「高岡史料」
- 藤島亥治郎・村上義雄 1938 「国宝瑞龍寺総門仏殿法堂修理工事報告」
- 国宝瑞龍寺総門仏殿法堂修理事務所
- 田辺昭三 1966 「陶邑古窯址群」 平安学園考古学クラブ
- 和田一郎（高岡市史編纂委員会） 1959～1969 「高岡市史」 青林院新社
- 増山 仁・南 久和 1986 「金沢市新保本町チカモリ遺跡—第4次発掘調査兼土器編一」  
金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財調査委員会・金沢市新保本町第一土地区  
画整理委員会
- 四ツ谷道昭（瑞龍寺国宝保存会・高岡市立博物館・富山新聞社） 1981 「高岡山瑞龍寺」 瑞龍寺刊行会
- 西野秀和・岡本岱一 1989 「金沢市米泉遺跡」 石川県埋蔵文化財センター
- 古岡英明他 1991 「たかおか—歴史との出会いー」 高岡市創100年記念誌編集委員会
- 岡本淳一郎・伊佐智法 1993 「富山県婦中町友坂遺跡発掘調査報告Ⅱ」 婦中町教育委員会
- 吉岡康暢 1991 「日本海域の土器・陶磁[古代編]」 六興出版

## 調査参加者名簿

### 発掘

麻生正三、伊東宏至、池守凡子、上田工、大田欣和、尾山久美子、垣地慶子、小林央、佐野寛、  
新谷晴紀子、杉本広政、岡本剛志、高岡修子、田中明、源原望、寺井久子、土合良子、中尾賀要子、  
中村恭子、庄沢隆太郎、前田節子、前田武周、前田浩美、三國世理子、水外一郎、宮下奈津子、  
明法寺健一、室崎宗之、矢田美千尋、山城一夫

### 整理

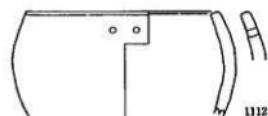
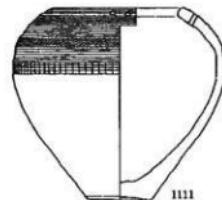
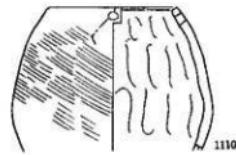
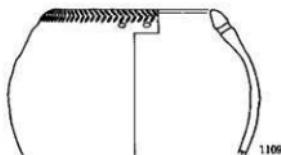
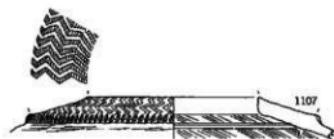
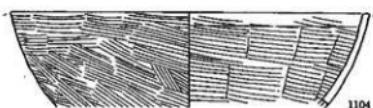
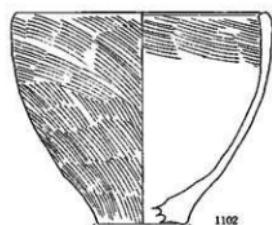
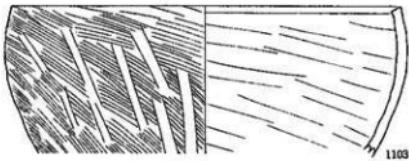
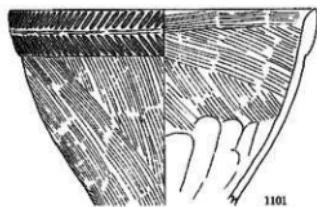
池守凡子、大塙麻起子、大田欣和、小形理香、小竹由紀子、尾山久美子、垣地慶子、加治勘子、  
小橋真砂美、小林央、新谷晴紀子、高田えみ子、竹瀬優子、田辺幸代、寺井久子、土合良子、道谷美奈子、  
中村恭子、苗田朋江、橋曳理子、幡薫、三國世理子

図面・図版

圖面一  
遺物大測図

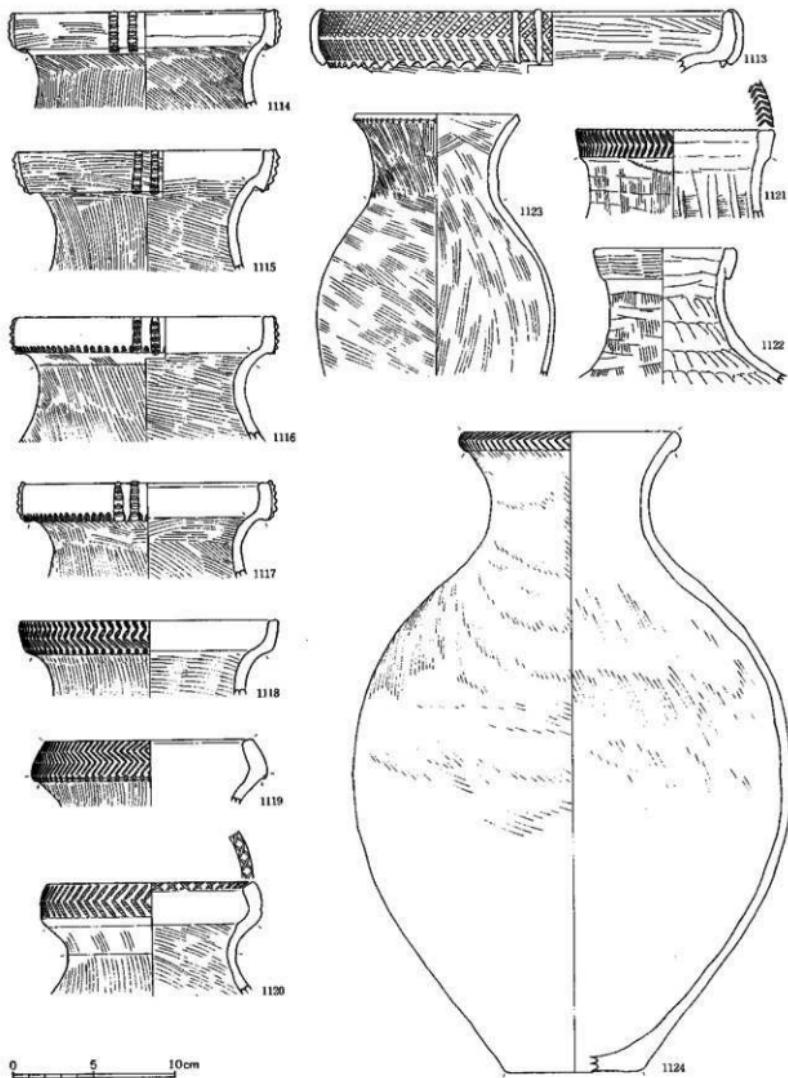
石塚遺跡宮崎地区

土器類



0 5 10cm

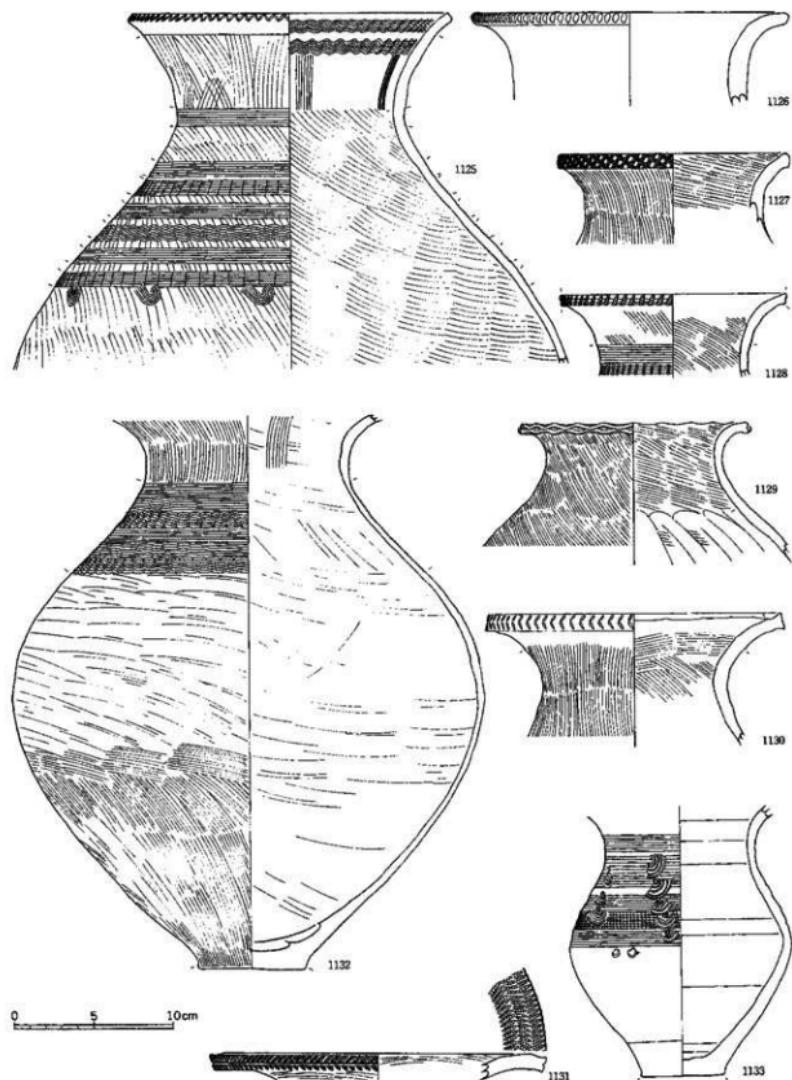
圖二 遺物実測図  
石塚遺跡宮崎地区  
土器類



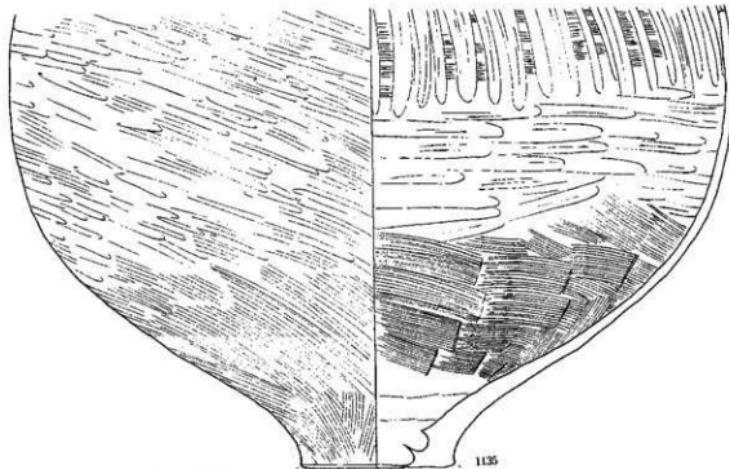
弥生土器

縮尺 1 / 3

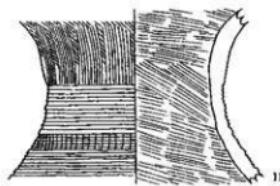
図面三 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類



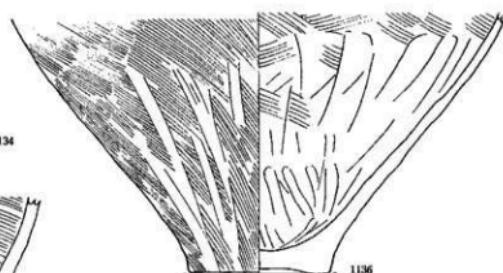
圖面四 遺物実測図  
石塚遺跡宮崎地区  
土器類



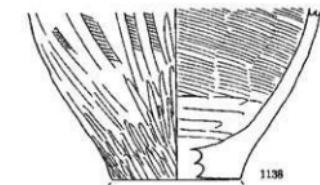
1135



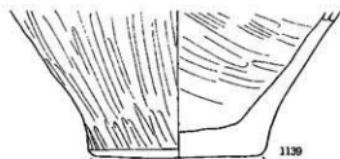
1134



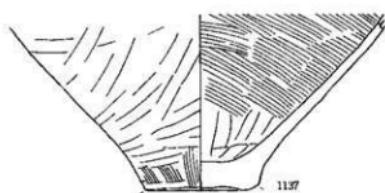
1136



1138



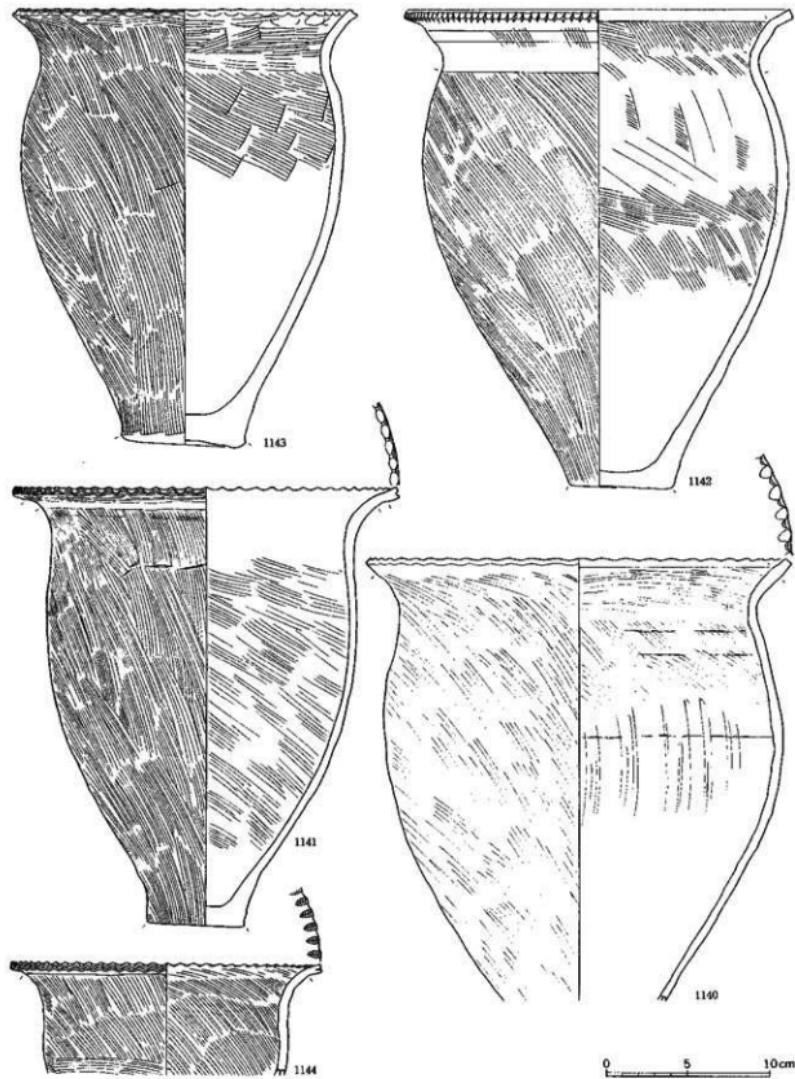
1139



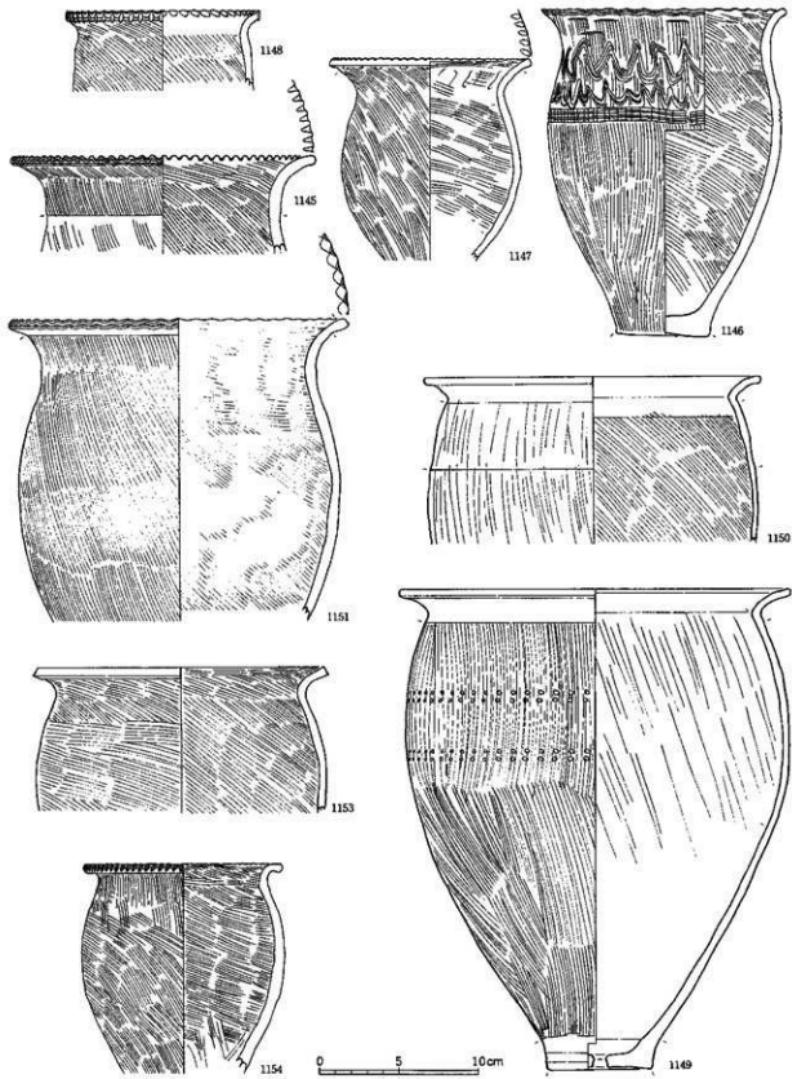
1137

0 5 10cm

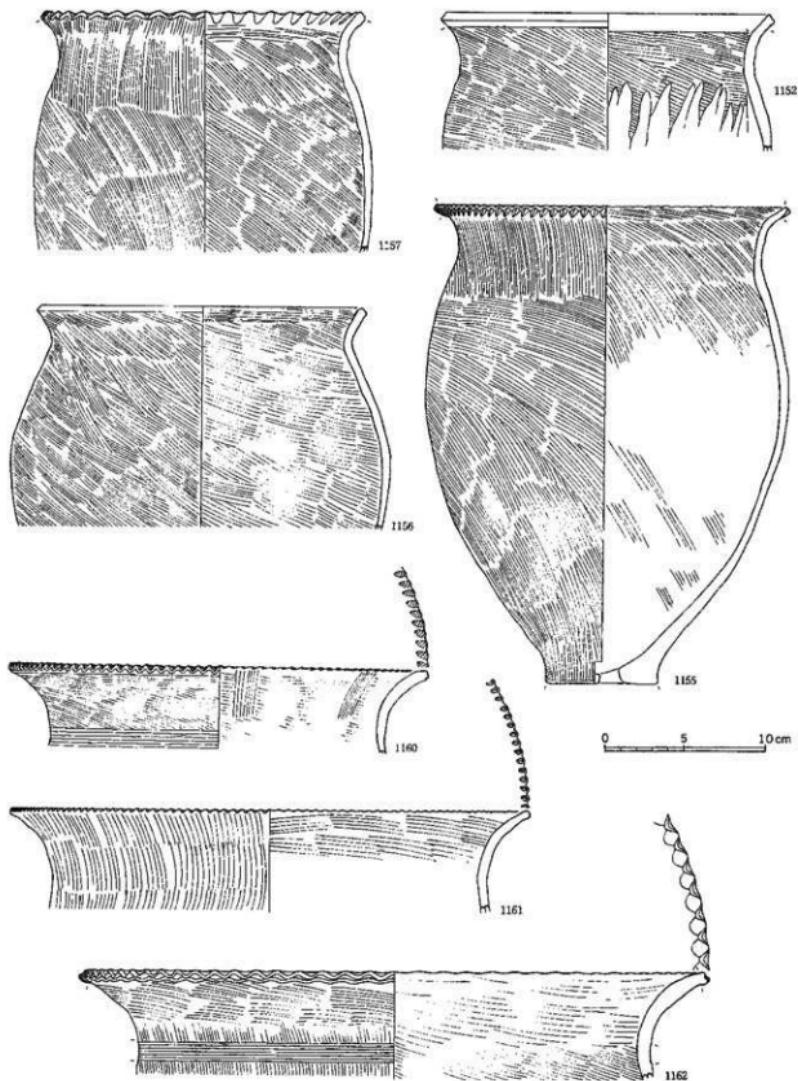
図面五 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類

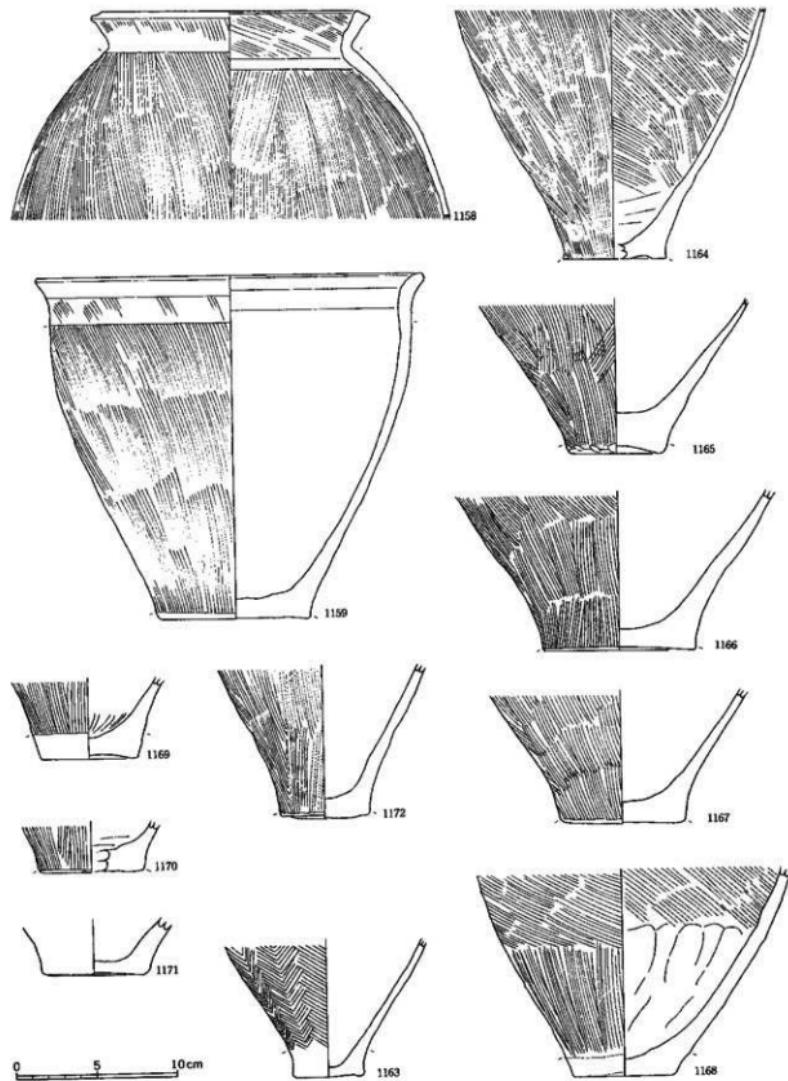


圖六 遺物実測図  
石塚遺跡宮崎地区  
土器類



図面七 遺物実測図 石塚遺跡宮崎地区 土器類



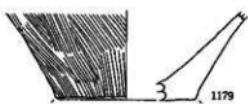
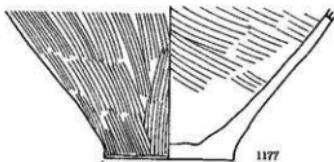
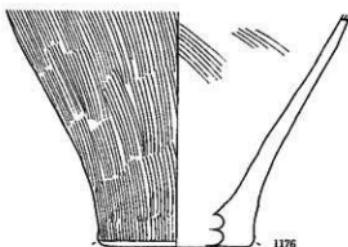
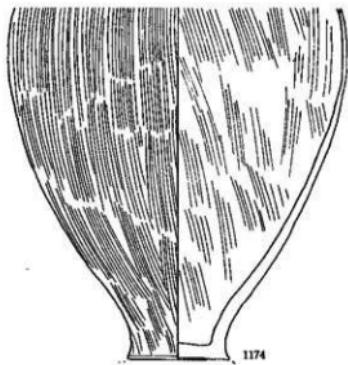
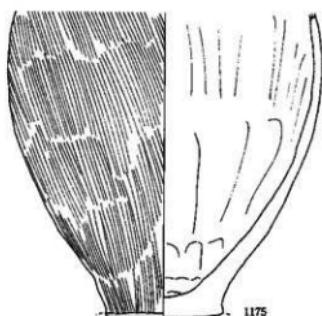
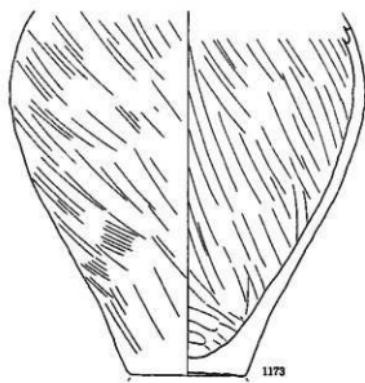


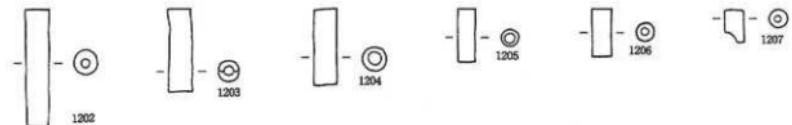
図面九

遺物実測図

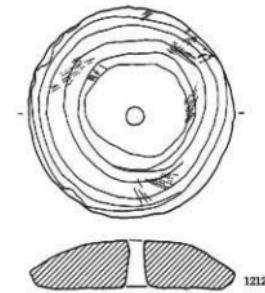
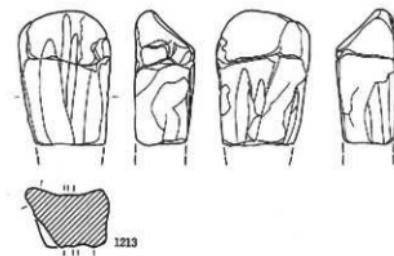
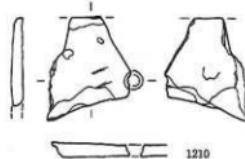
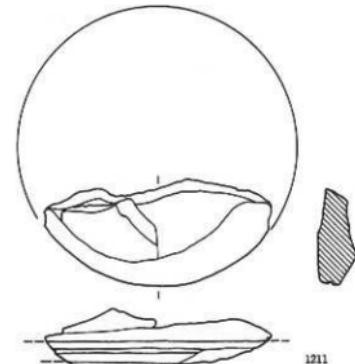
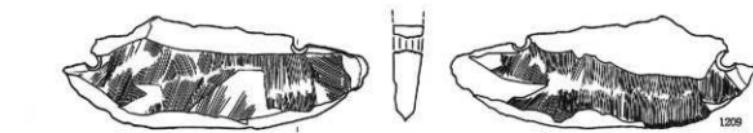
石塚遺跡宮崎地区

土器類





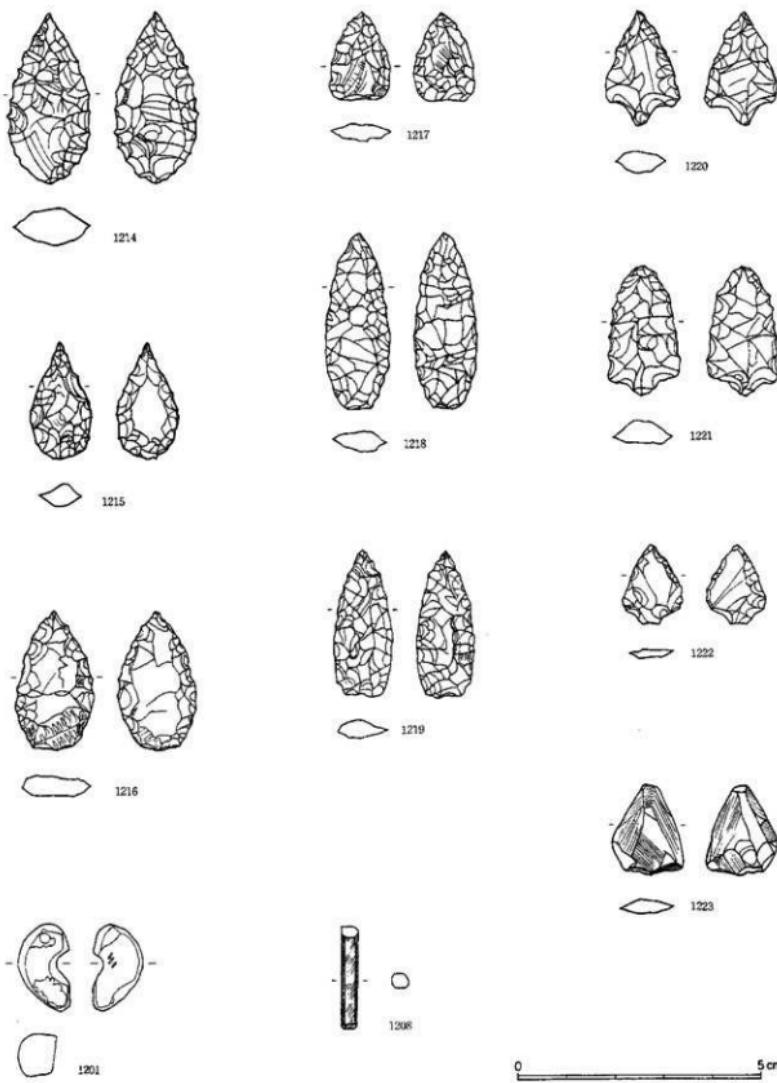
0 1cm



0 5 10cm

圖面一 遺物大測圖

石塚遺跡宮崎地區 石製品



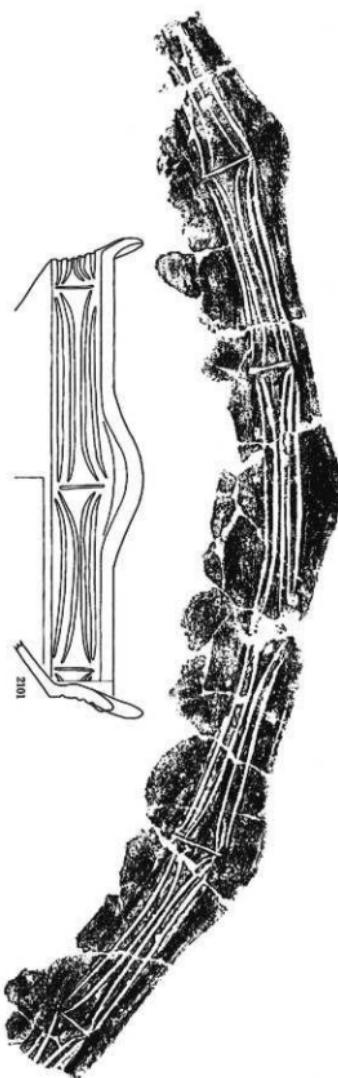
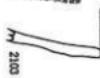
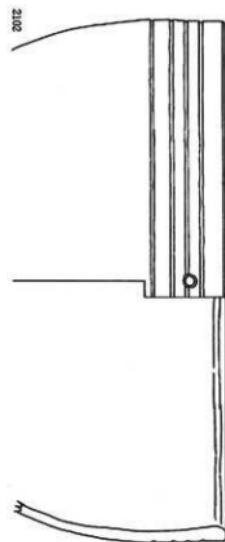
勾玉；1201，石錐；1208，石鏃；1214~1223

真人

図面一二 遺物実測図

石塚遺跡安川2地区

土器類

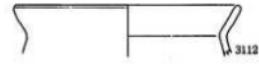
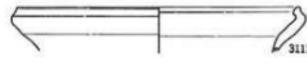
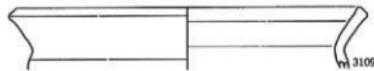
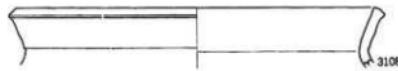
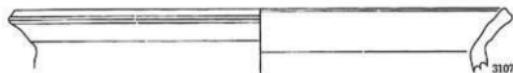
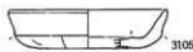
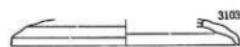
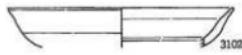
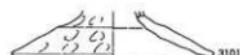


図面一三 遺物実測図  
石塚遺跡安川2地区  
土器類



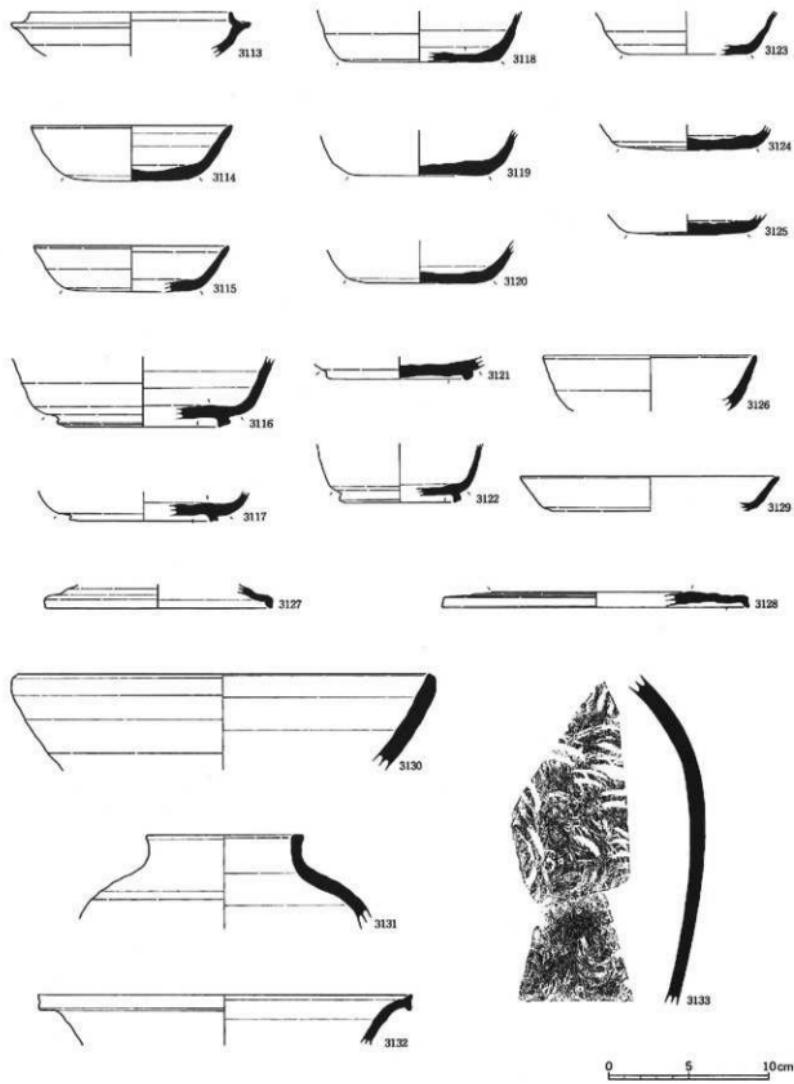
縄文土器；2104~2110，弥生土器；2111~2115

縮尺 1/3



0 5 10cm

図面一五 遺物実測図  
須田藤の木遺跡  
十器類

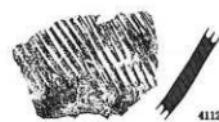
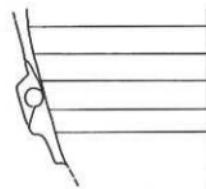
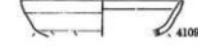
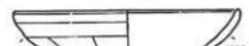
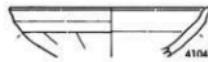


圖面一六

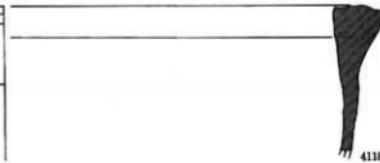
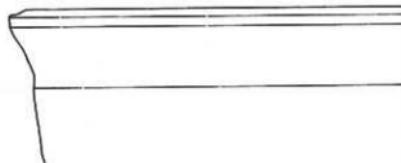
遺物実測図

瑞龍寺遺跡

土器器類

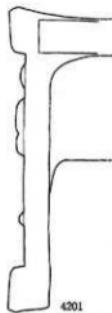
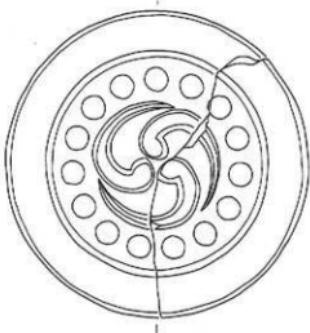


0 5 10cm

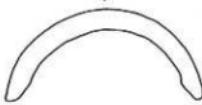
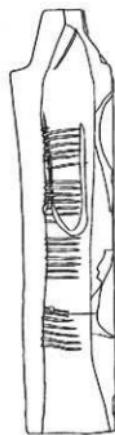
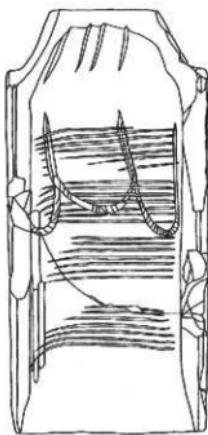


土器器；4101~4109，須恵器；4110~4111，珠洲；4112~4115，瀬戸；4116，唐津；4117，越前；4118

圖面一七 遺物実測図  
瑞龍寺遺跡 瓦



0 5 10cm

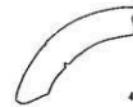
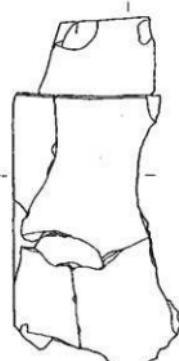


0 5 10cm

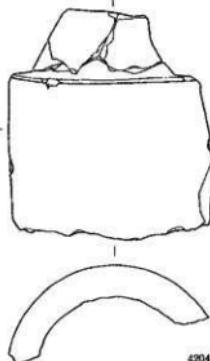
焼し瓦一軒丸瓦；4201, 焼し瓦一丸瓦；4202

縮尺1/3, 1/4

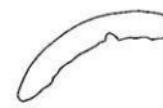
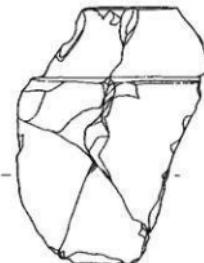
図面一八 遺物実測図 瑞龍寺遺跡 瓦



4203



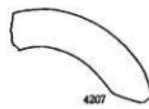
4204



4205



4206



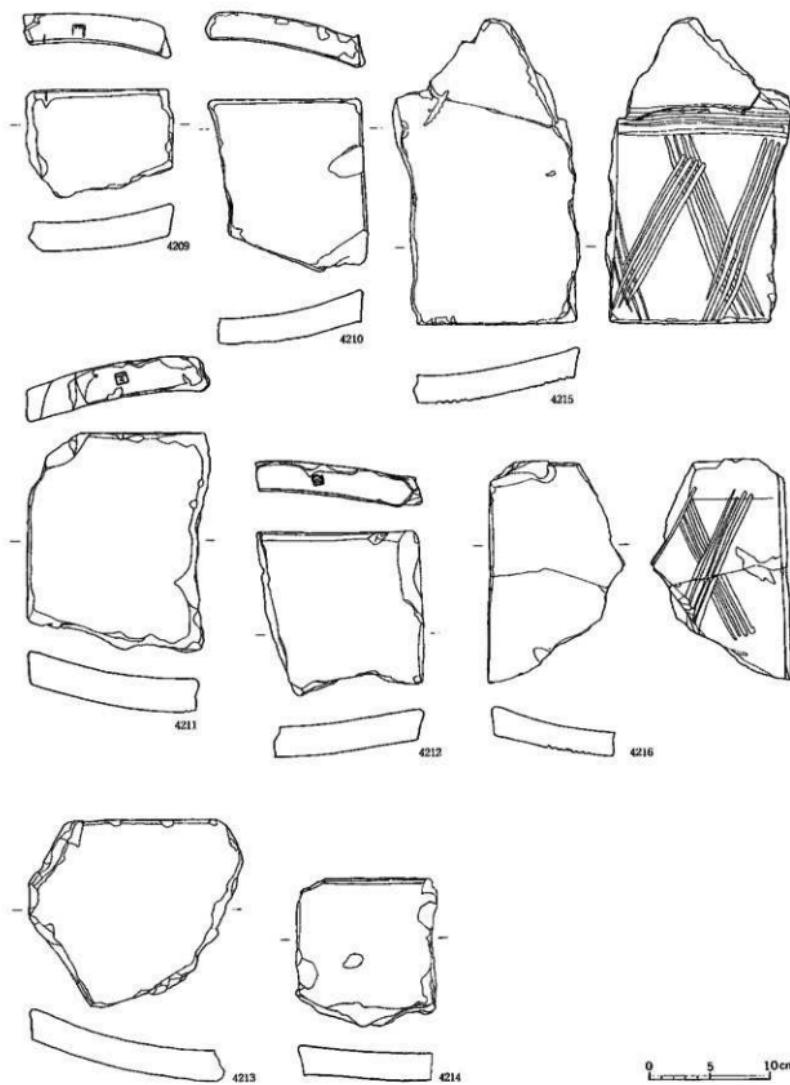
4207



4208



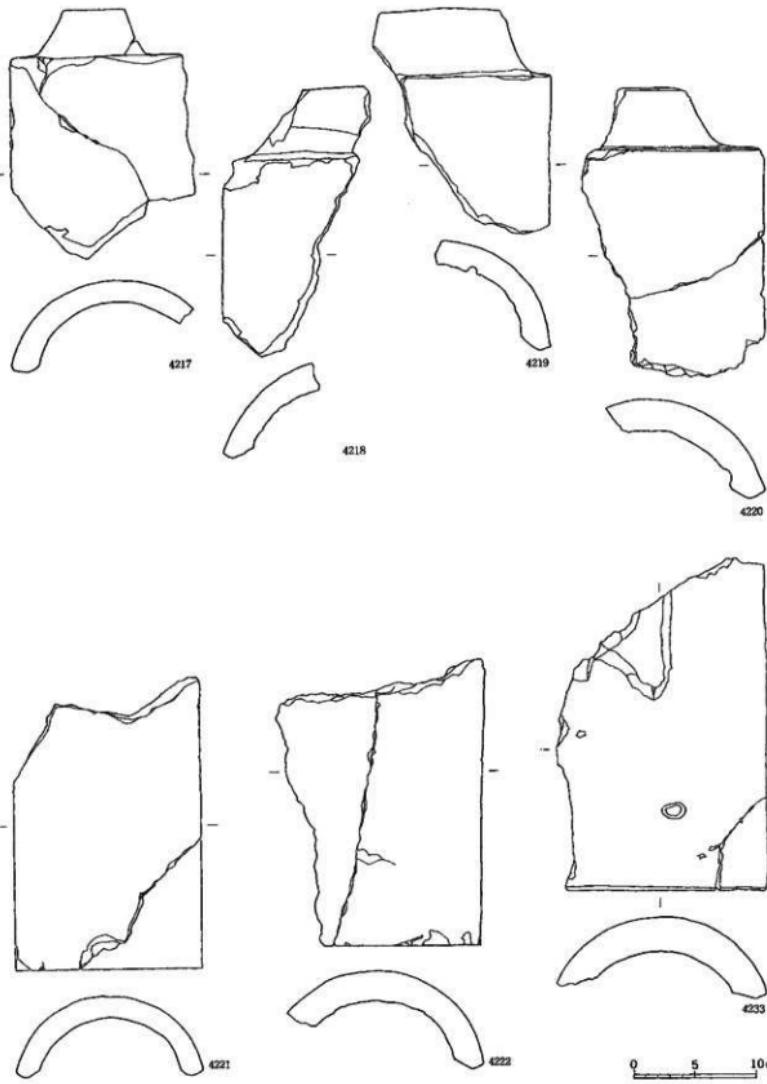
図面一九 遺物実測図 瑞龍寺遺跡 瓦



焼瓦一平瓦

縮尺 1 / 4

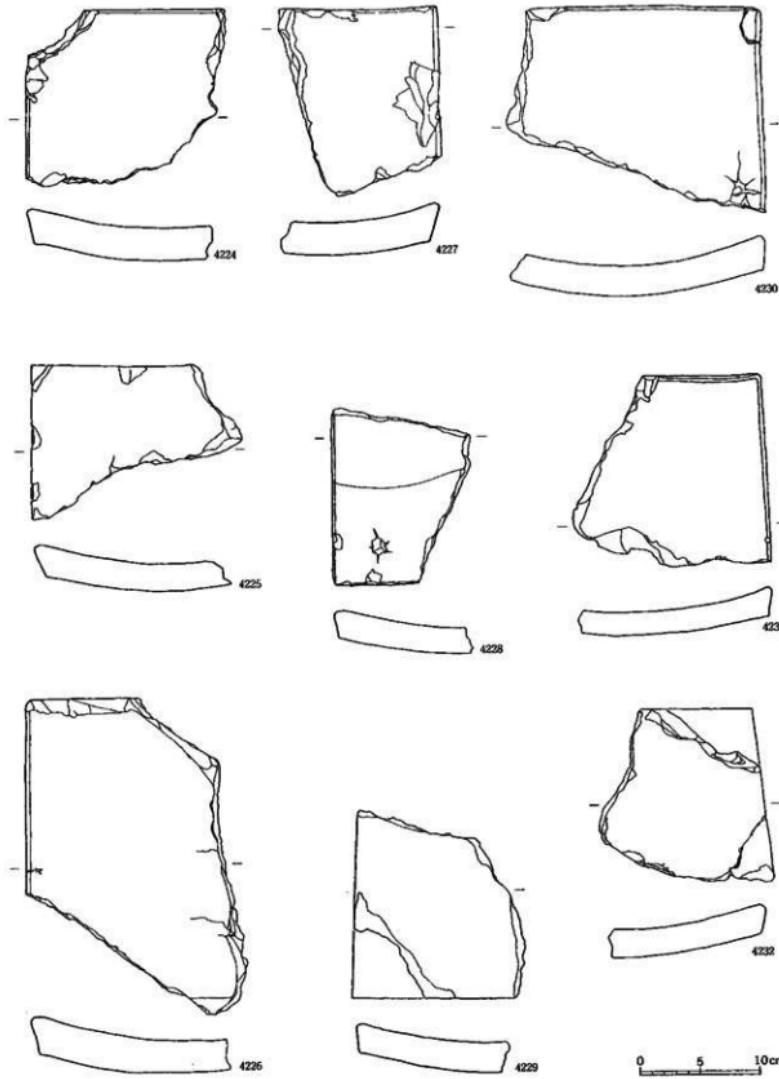
圖二〇 遺物実測図  
瑞龍寺遺跡 瓦



釉薬瓦一丸瓦

縮尺 1/4

図二一 遺物実測図  
瑞龍寺遺跡 瓦



釉陶瓦—平瓦

縮尺 1 / 4

圖二二

遺物実測図

石塚遺跡

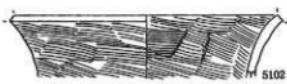
越中國府閔連遺跡



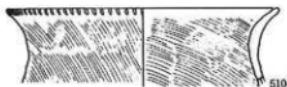
5101



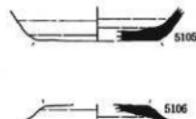
5103



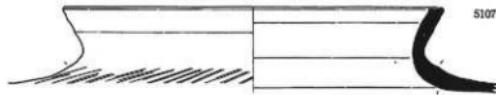
5102



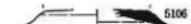
5104



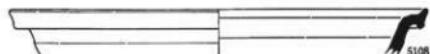
5105



5107



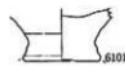
5106



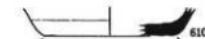
5108



6102



6101



6103



6105



6104



6106



上段 = 石塚遺跡窪田地区 弥生土器 ; 5101~5104 , 須恵器 ; 5105~5108

下段 = 越中國府閔連遺跡林地区 土師器 ; 6101 , 須恵器 ; 6102~6106

縮尺 1 / 3



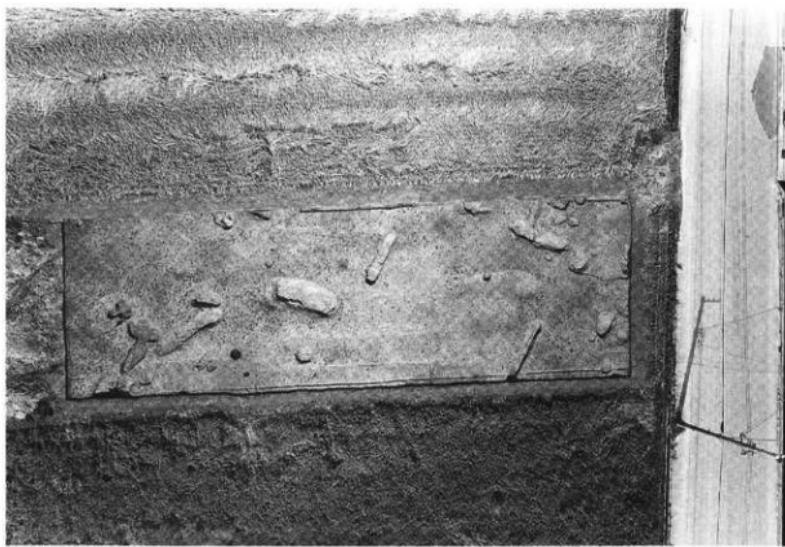
1. 調査地区遠景（南西）



2. 調査地区全景（南）



1. 調査地区全景（北西）

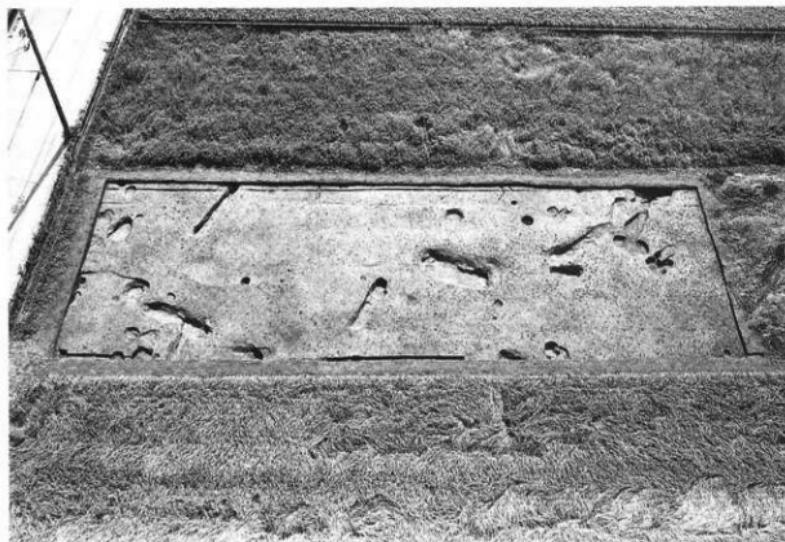


2. 調査地区全景（上方）

圖版三 遺構 石塚遺跡宮崎地區

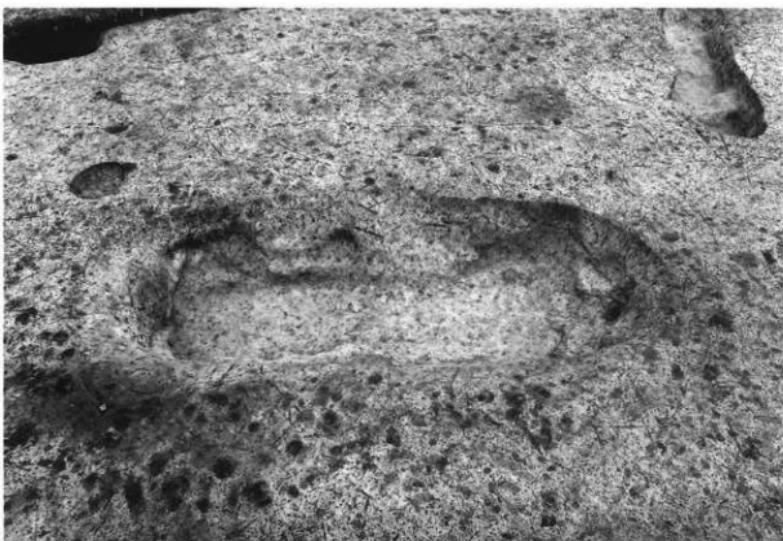


1. 調査地区全景（南東）



2. 調査地区全景（北東）

圖版四  
遺構  
石塚遺跡宮崎地區



1. 土坑SK131全景（南西）



2. 土坑SK133全景（南東）

圖版五  
遺構 石塚遺跡宮崎地區



1. 土坑SK134全景（南西）



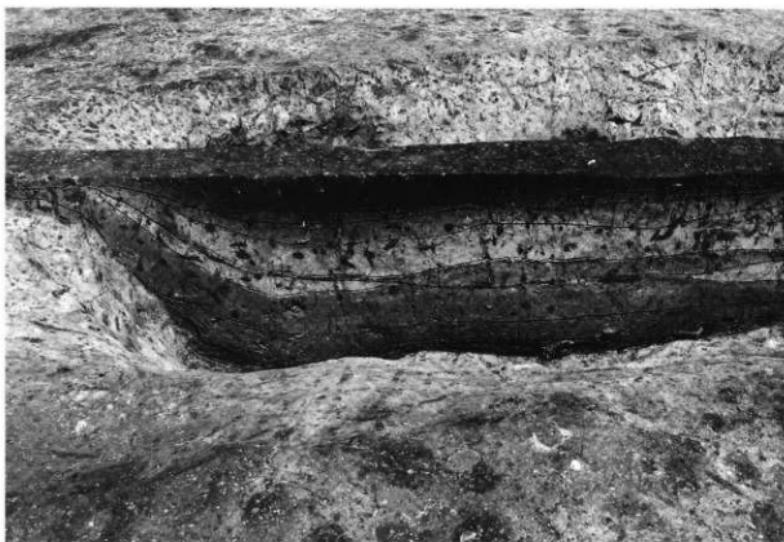
2. 土坑SK135全景（南東）



1. 土坑SK140全景（南東）



2. 土坑SK141全景（北東）

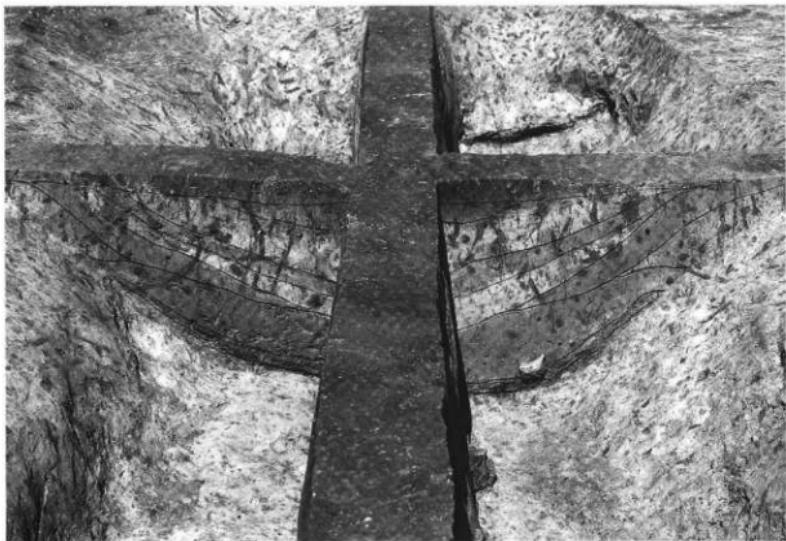


1. 土塚S K131断面南側（南西）



2. 土塚S K131断面南側（南西）

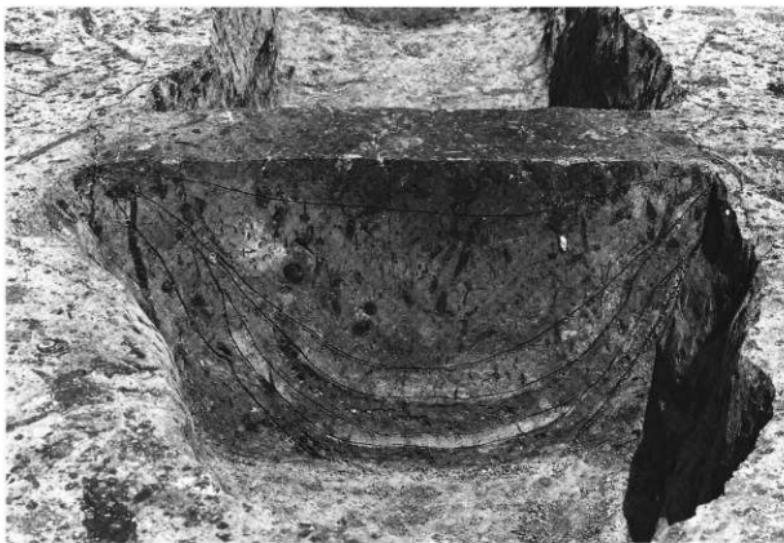
圖版八  
遺構  
石塚遺跡宮崎地區



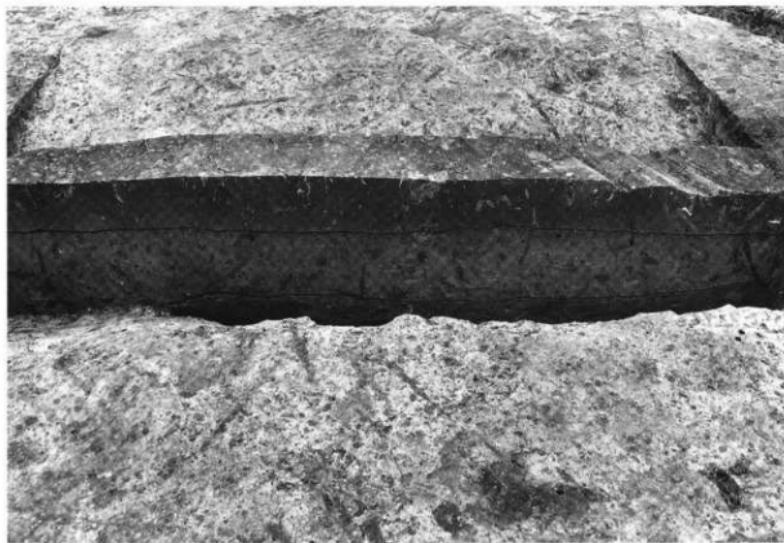
1. 土坑SK131断面東側（南東）



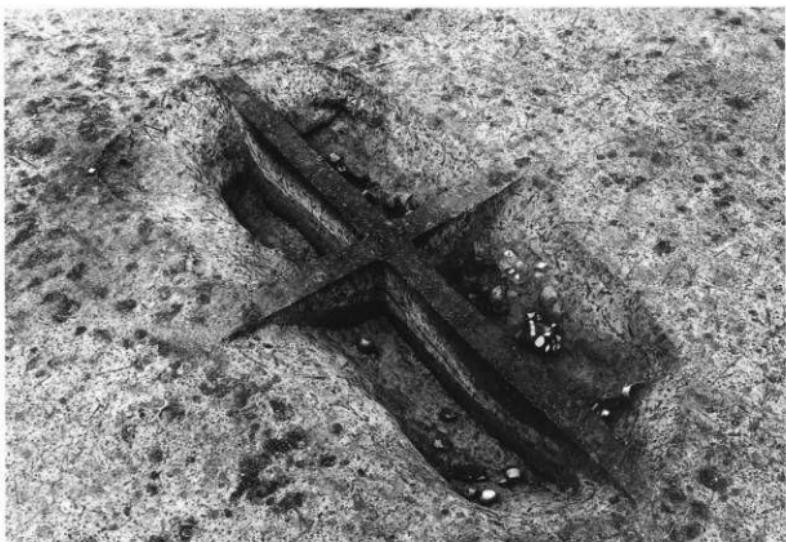
2. 土坑SK133断面北東部南側（南西）



1. 土坑S K133断面南西部南側（南西）



2. 土坑S K135断面中央部西侧（北西）



1. 土坑SK131弥生土器出土狀況（南）



2. 上坑SK133弥生土器出土狀況（東）

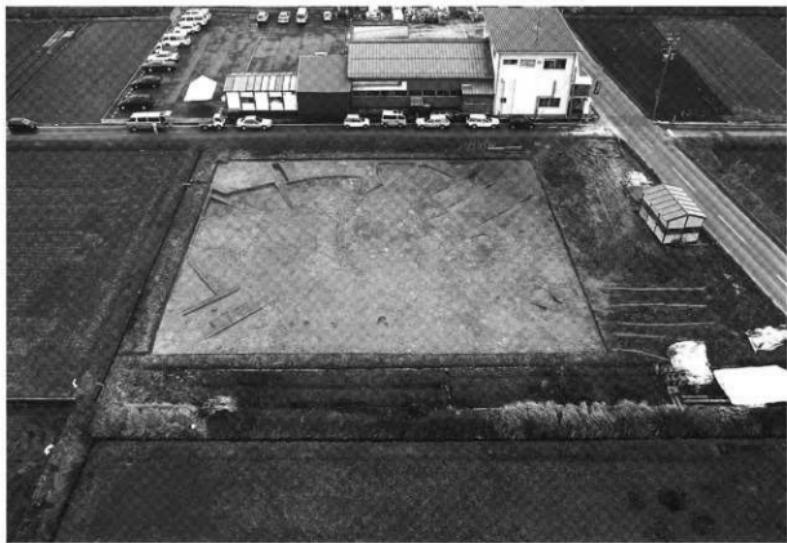


1. 調査地区遠景（南）

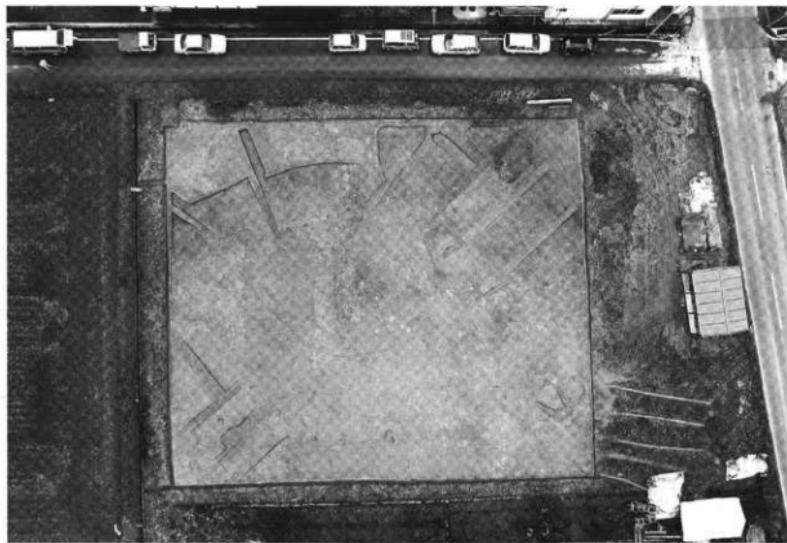


2. 調査地区全景（北）

図版一二 遺構 石塚遺跡安川2地区



1. 調査地区全景（北西）



2. 調査地区全景（上方）

図版一三  
遺構 石塚遺跡安川2地区

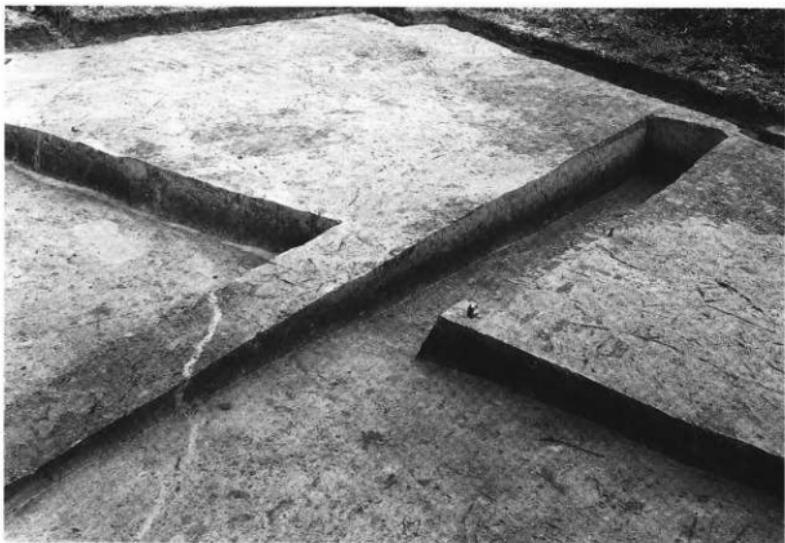


1. 凹地SX56トレンチ全景（南西）



2. 凹地SX56北側トレンチ全景（南）

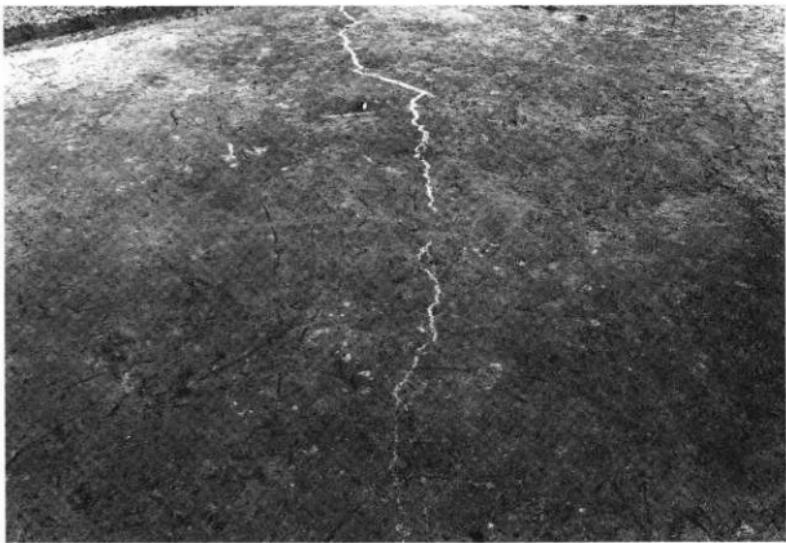
図版一四  
遺構 石塚遺跡安川2地区



1. 四地SX56南側トレンチ全景（南西）



1. 四地SX56南側トレンチ全景（南東）



1. 噴砂址SX59全景（南西）



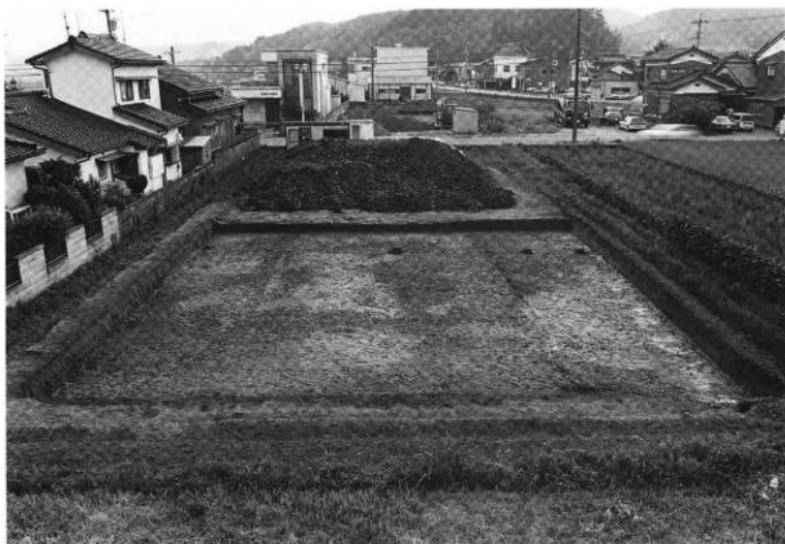
2. 噴砂址SX61全景（南東）



1. 純文土器出土狀況（北西）



2. 純文土器出土狀況（北西）



1. 調査地区全景（東）



2. 調査地区全景（西）



1. 遺物出土状況（南西）



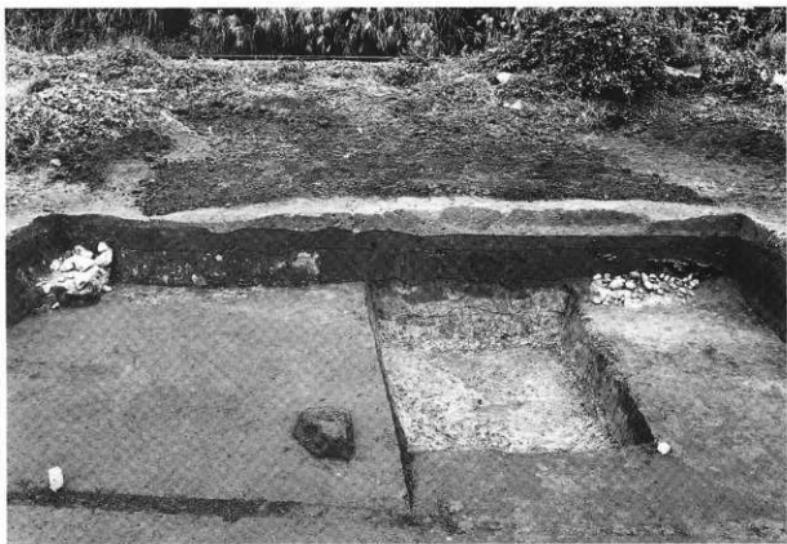
2. 遺物出土状況（南）



1. 調査地区遠景（西）



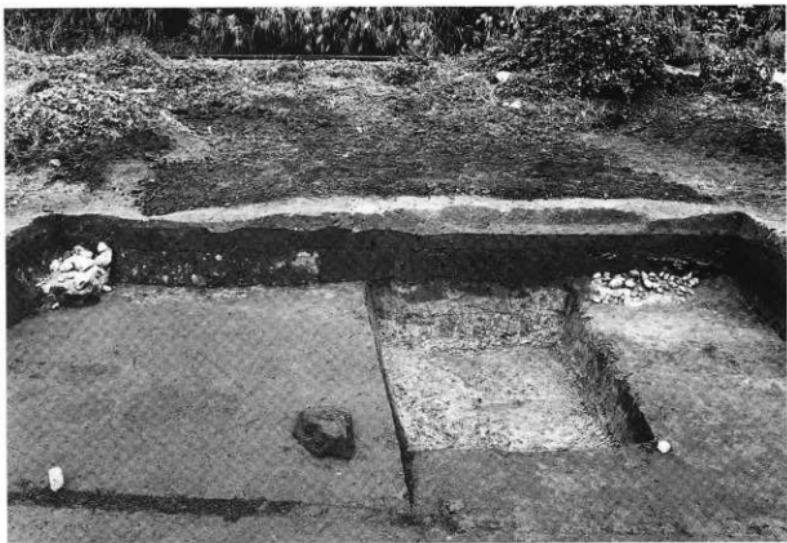
2. 調査地区全景（東）



1. 環石建物址SB01全景（西）



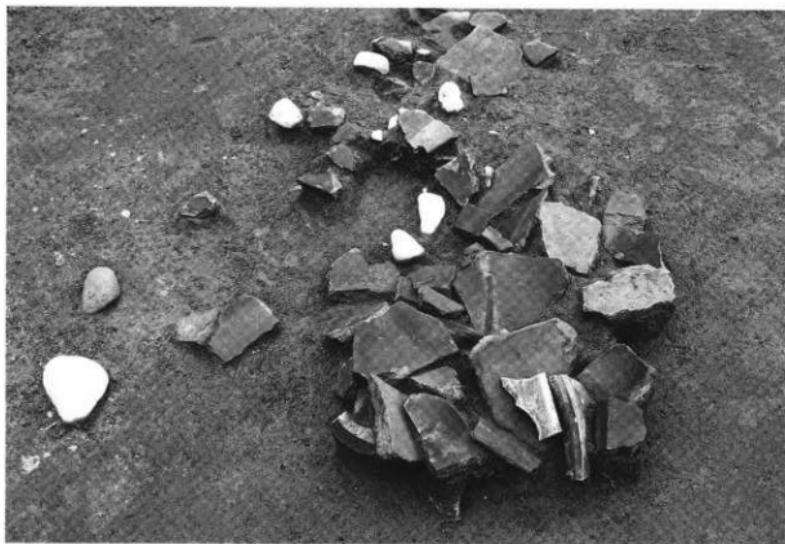
2. 環石建物址SB01据え方近景（南西）



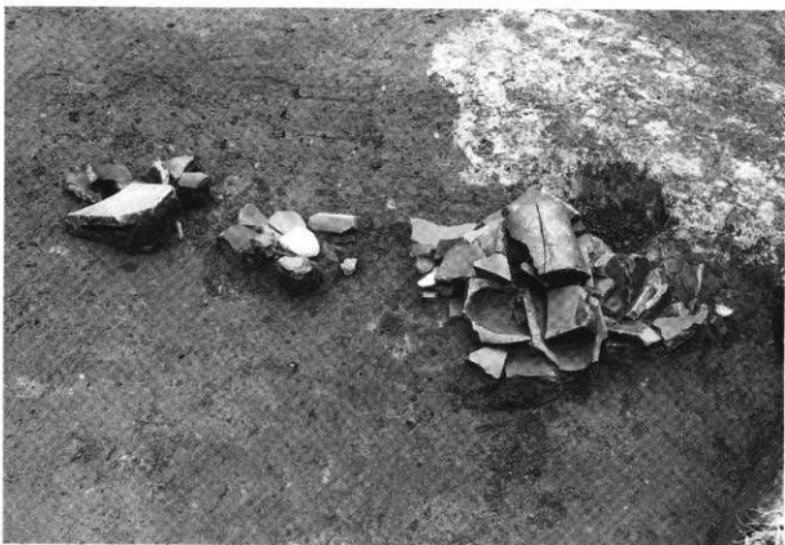
1. 溝SD01全景（南）



2. 溝SD01上層斷面（南西）



1. 瓦瀬SX01近景（北東）



2. 瓦瀬SX02全景（東）

圖版二三 遺構 石塚遺跡築田地区



1. 調査地区全景（南東）



2. 調査地区全景（南西）

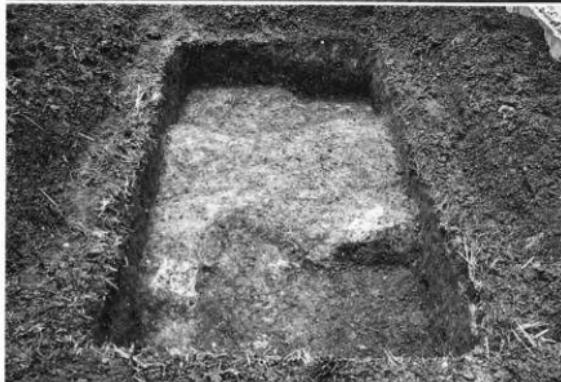


3. 調査風景

圖版二四  
遺構  
越中國府閏連遺跡



1. 調査地区遠景（南西）



2. 試掘坑全景（南）



3. 調査風景



1102



1106



1111



1112



1123



1140



1149

圖版二六 遺物  
石塚遺跡宮崎地區



1116



1122



1127



1134



1141



1142

圖版二七 遺物 石塚遺跡宮崎地區



1146



1143



1151

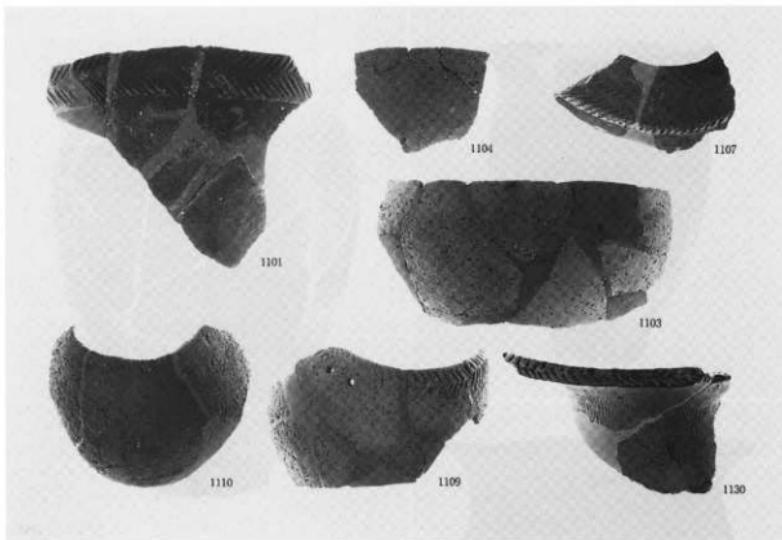


1163

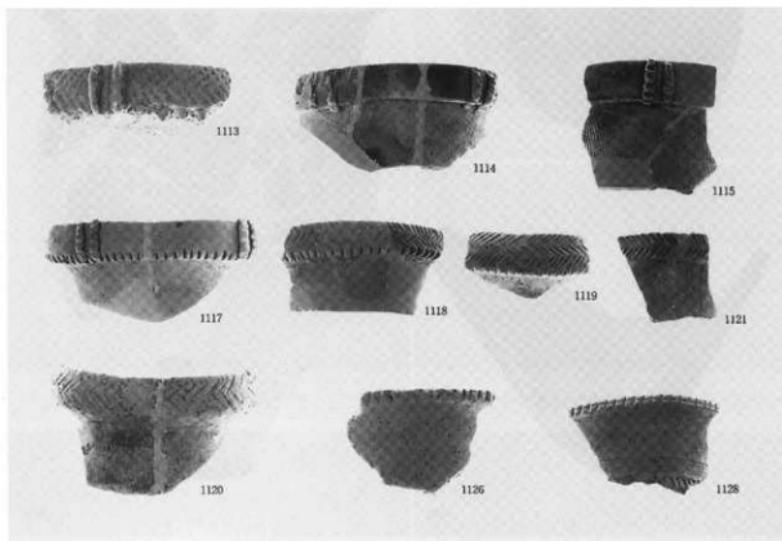


1155

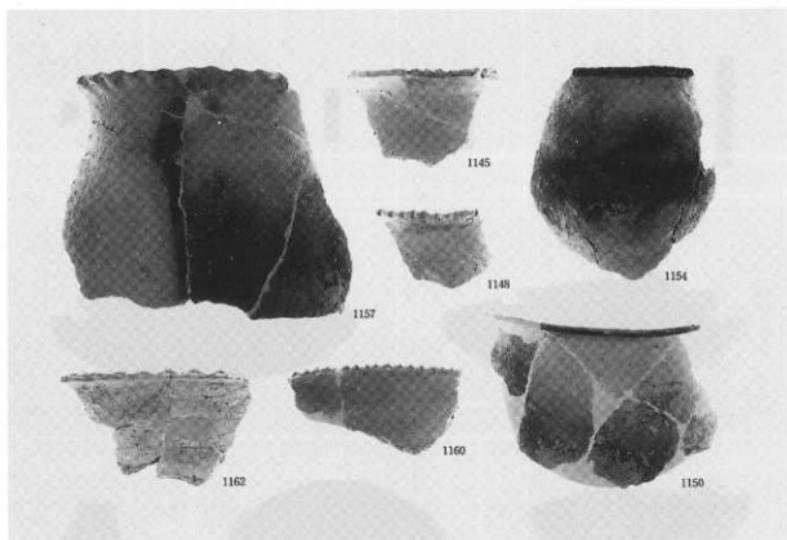
圖版二八 遺物 石塚遺跡宮崎地區



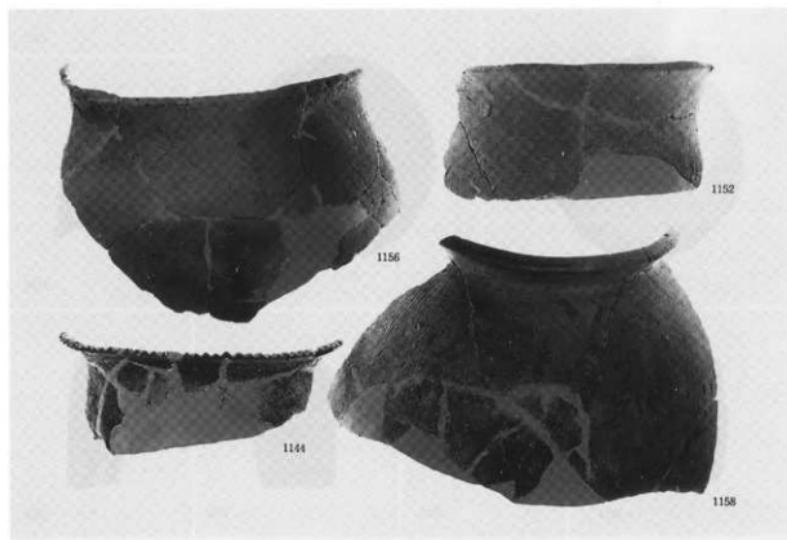
1. 弥生土器



2. 弥生土器

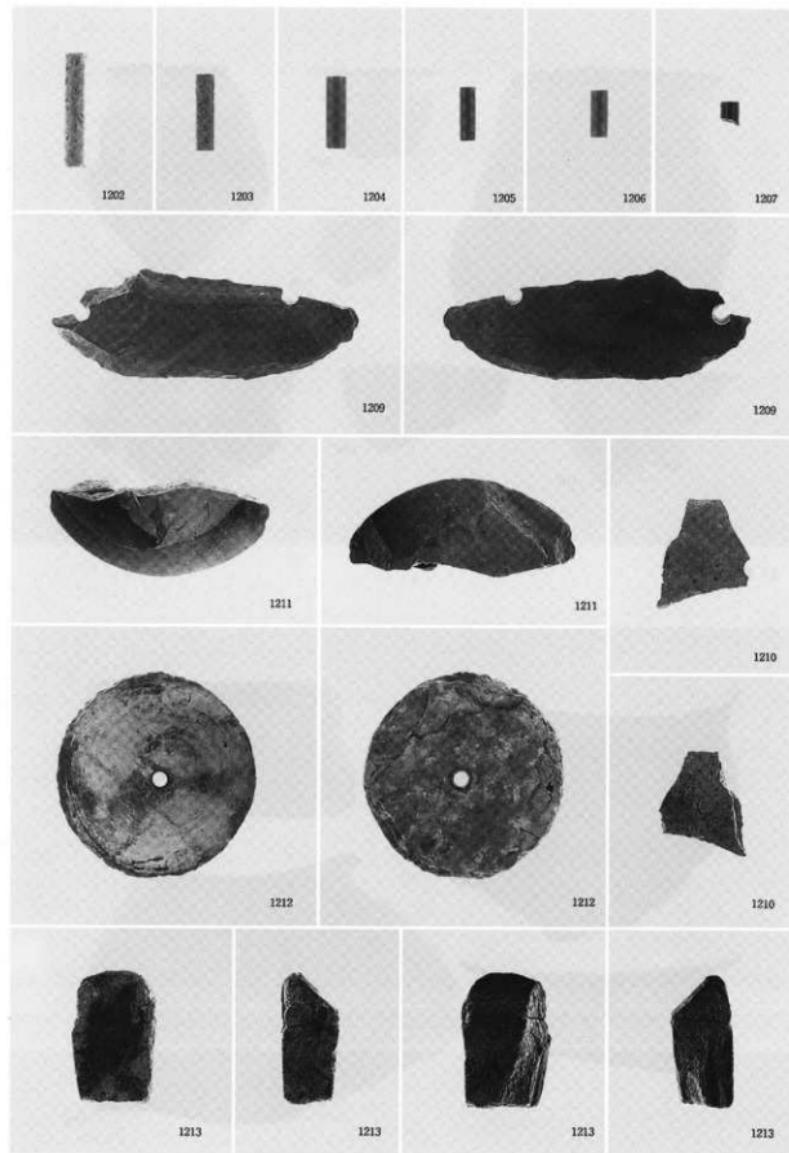


1. 弥生土器

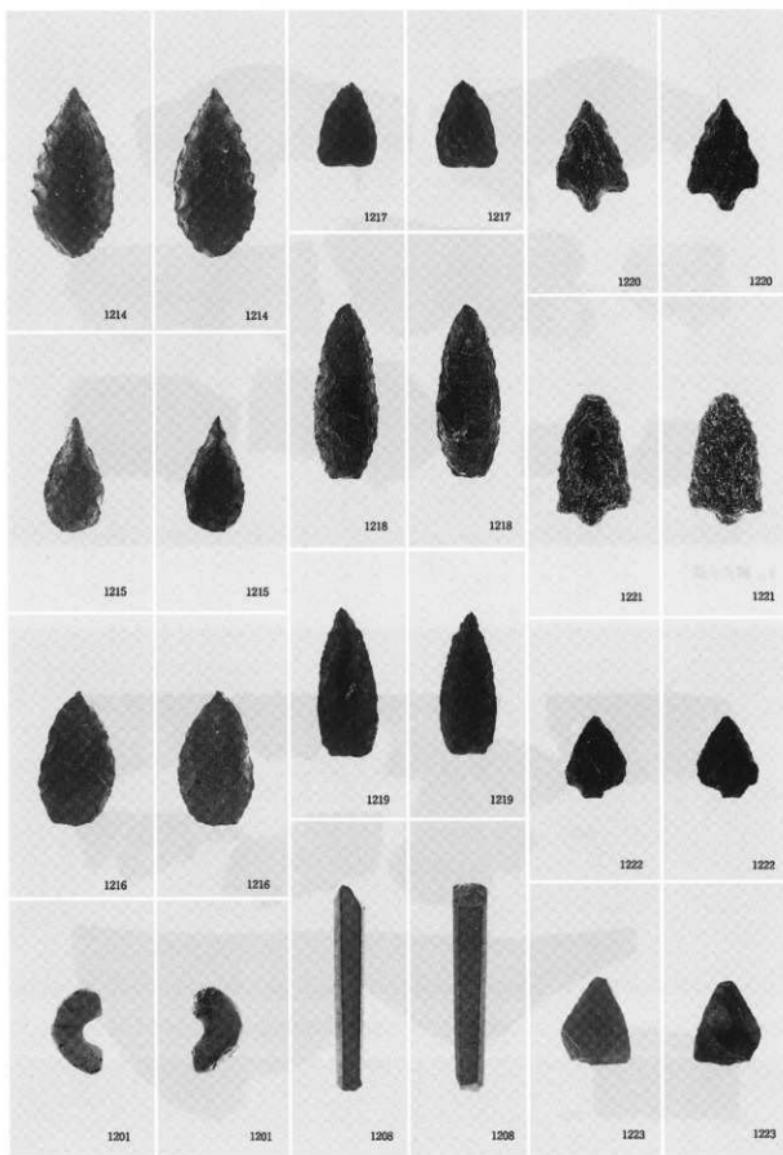


2. 弥生土器

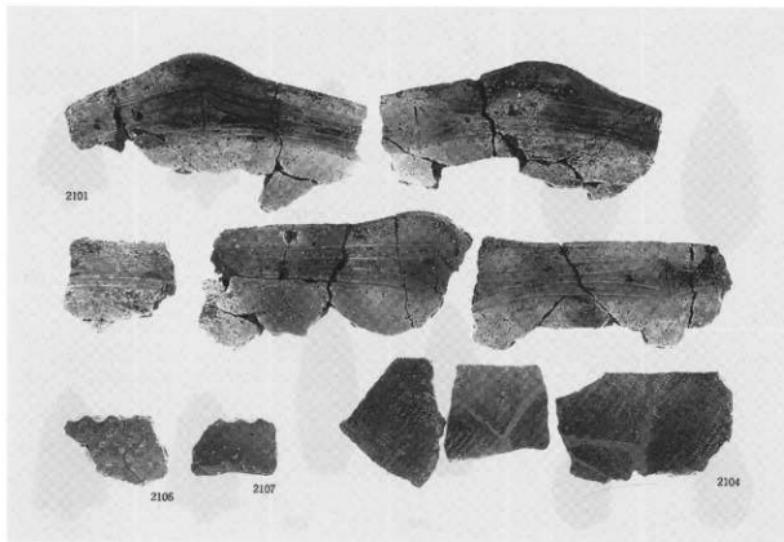
圖版三〇  
遺物  
石塚遺跡宮崎地區



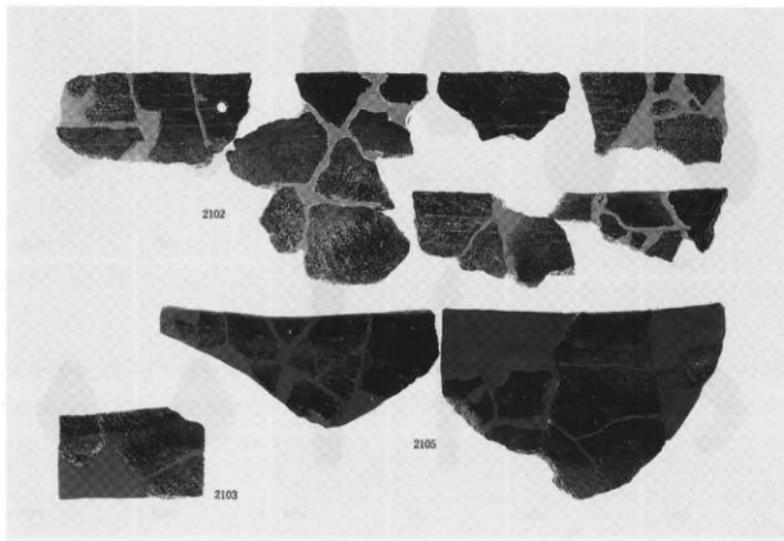
石製品



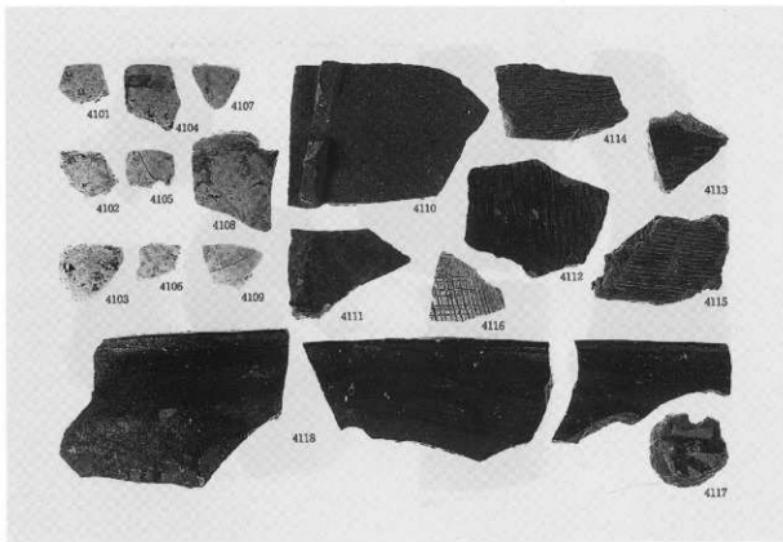
石製品



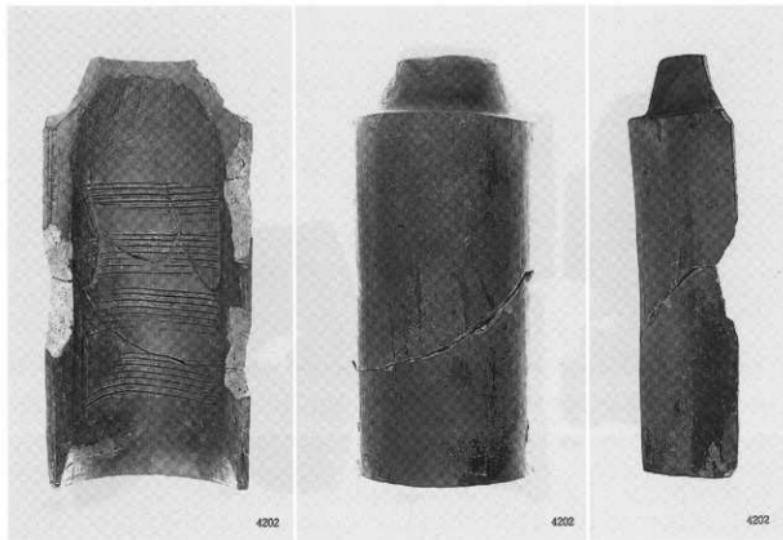
1. 線文土器



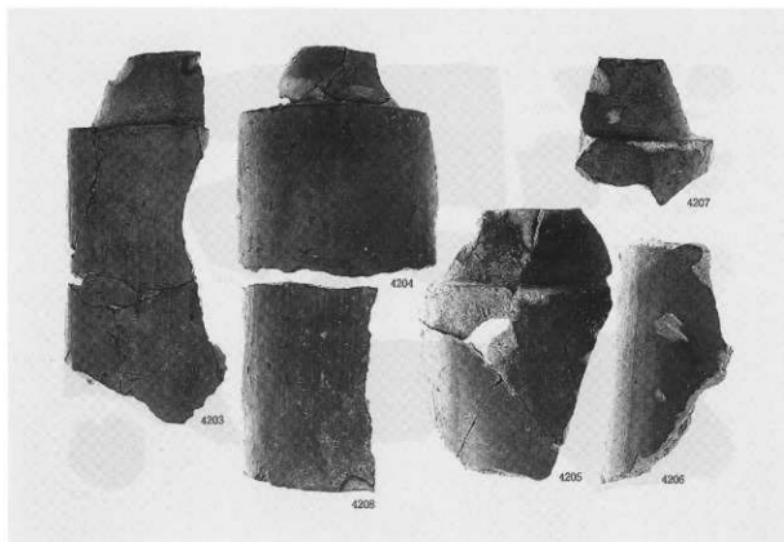
2. 線文土器



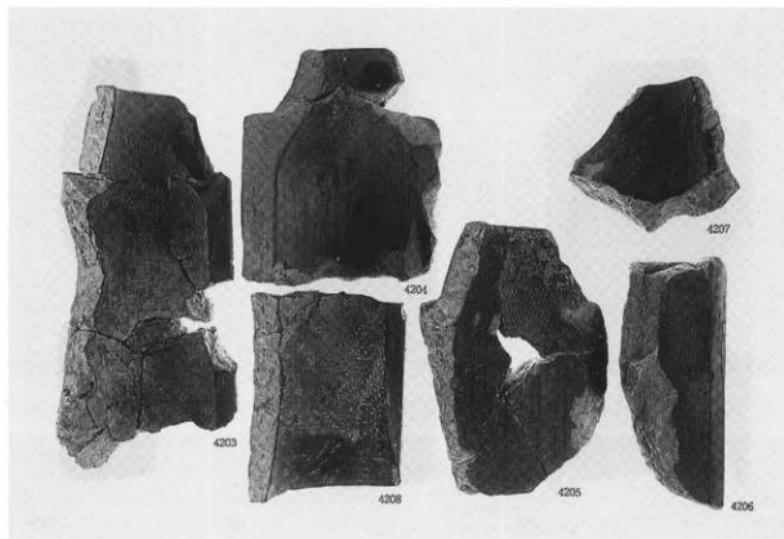
1. 土器類



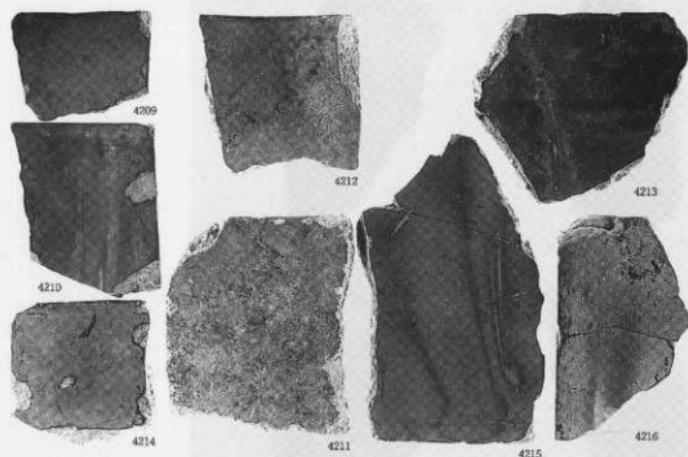
2. 燻し瓦、丸瓦



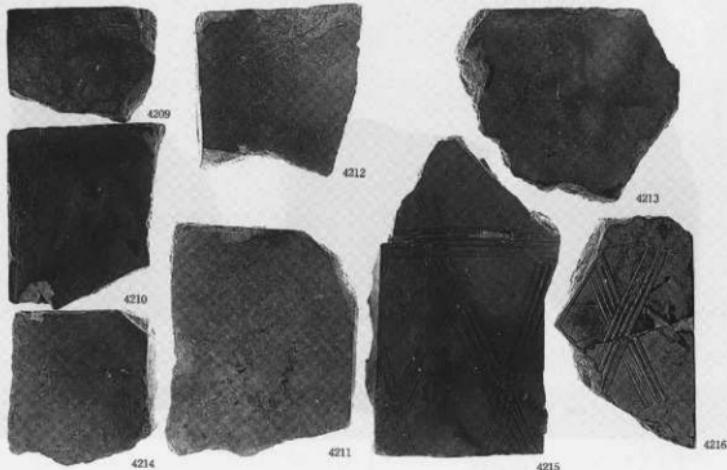
1. 燒し瓦、丸瓦凸面



2. 燒し瓦、丸瓦凹面

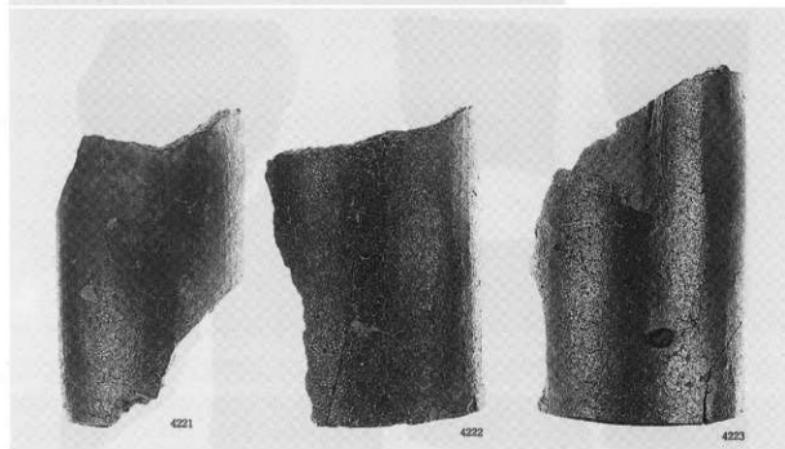
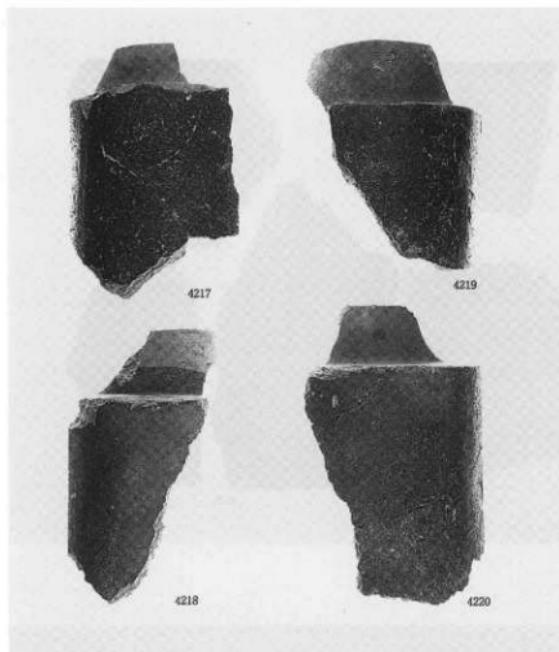


1. 燒し瓦、平瓦凸面



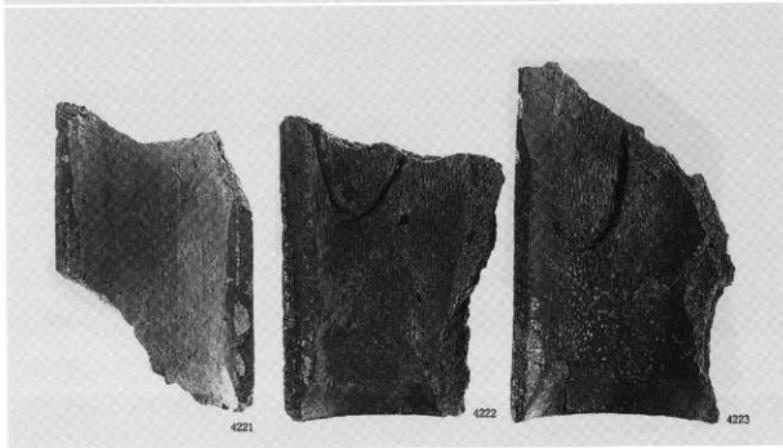
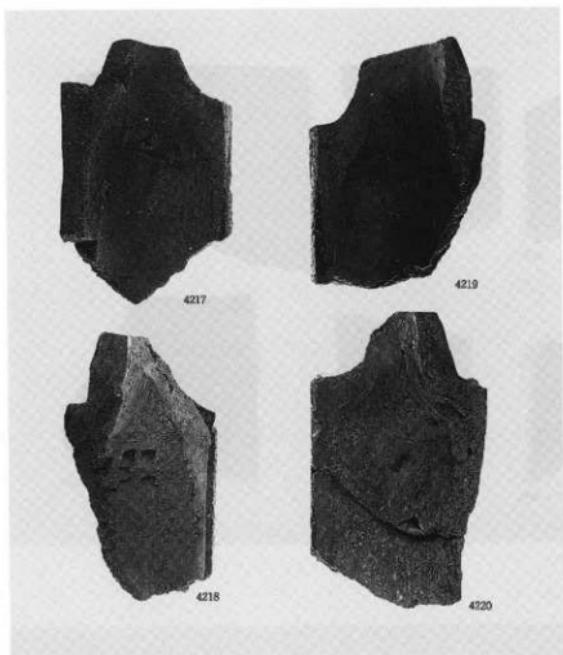
2. 燒し瓦、平瓦凹面

圖版三六 遺物 瑞龍寺遺跡



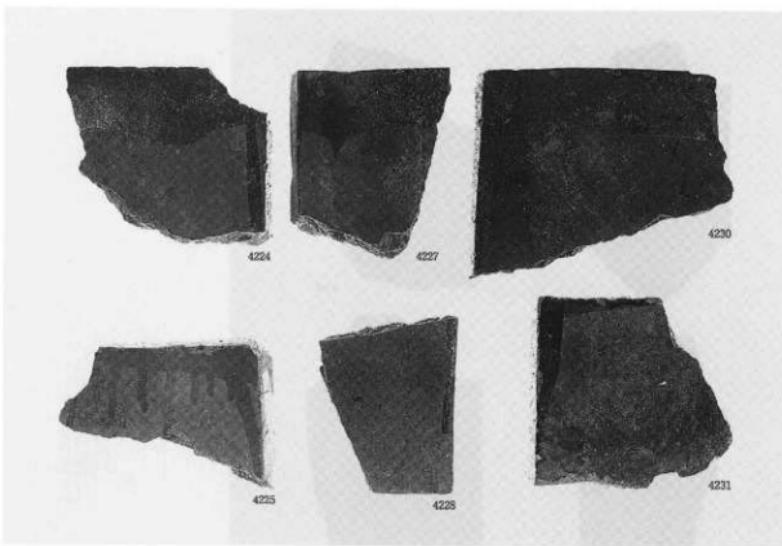
施葉瓦、丸瓦凸面

圖版三七  
遺物  
瑞龍寺遺跡

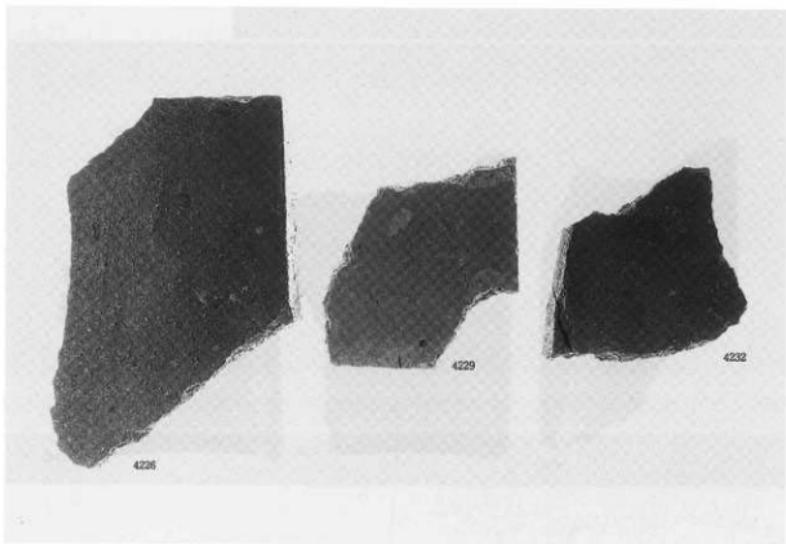


釉瓦、瓦凹面

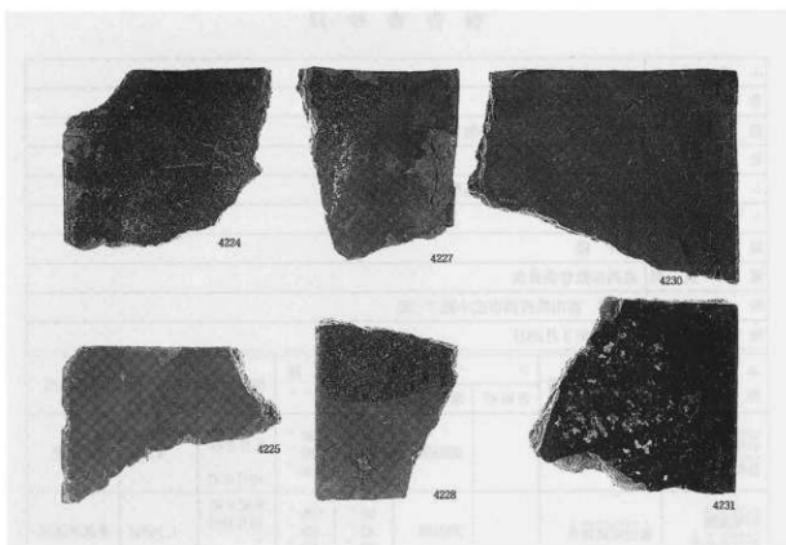
圖版三八  
遺物  
瑞龍寺遺跡



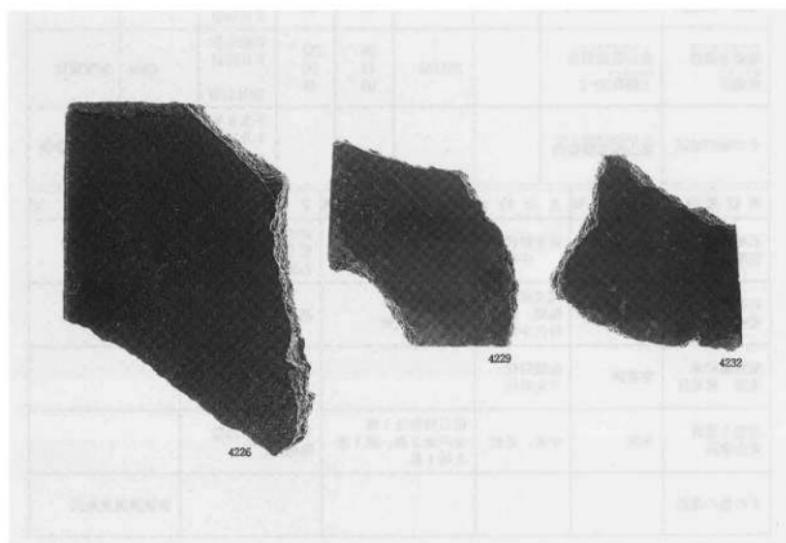
1. 黑釉瓦、平瓦凸面



2. 黑釉瓦、平瓦凸面



1. 紬瓦、平瓦凹面



2. 紱瓦、平瓦凹面

報告書抄録

ふりがな	しのいき かねのり
書名	市内遺跡調査概報
副書名	平成8年度、石塚遺跡他の調査
巻次	VI
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報
シリーズ番号	第36冊
編著者名	荒井 雅
編集機関	高岡市教育委員会
所在地	〒933 富山県高岡市広小路7-50
発行年月日	平成9年3月28日

ふりがな 所収遺跡	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
			°	'			
石塚遺跡 宮崎地区	富山県高岡市	202158	36° 43° 53°	136° 59° 09°	平成8年 5月9日 ~ 10月8日	419m <sup>2</sup>	住宅建設
石塚遺跡 安川2地区	富山県高岡市	202158	36° 43° 50°	136° 59° 09°	平成8年 10月18日 ~ 12月27日	1,165m <sup>2</sup>	事務所建設
須田藤の木 遺跡 林地区	富山県高岡市 五十里2021-1	202083	36° 46° 16°	136° 59° 41°	平成8年 7月15日 ~ 8月14日	282m <sup>2</sup>	住宅建設
瑞龍寺遺跡 林地区	富山県高岡市 上岡町30-2	202145	36° 44° 03°	137° 00° 48°	平成8年 9月25日 ~ 10月11日	68m <sup>2</sup>	倉庫建設
その他の地区	富山県高岡市内				平成8年 4月18日 ~ 12月26日	2,353m <sup>2</sup>	住宅建設他

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石塚遺跡 宮崎地区	集落跡	弥生時代 中期	土坑21基、凹地1基	弥生土器、勾玉、管玉、石礫、砾石、石鏡、石製紡錘車	
石塚遺跡 安川2地区	集落跡	縄文後期~ 晩期、弥生 時代中期	凹地9基 地廻塙3箇所	縄文土器	
須田藤の木 遺跡 林地区	集落跡	古墳時代 平安時代		土師器、須恵器	
瑞龍寺遺跡 齊山地区	寺院	中世、近世	礎石建物址1棟 井戸2基、溝1条 土坑1基	須恵器、土師器 陶磁器、瓦	
その他の遺跡					※試掘調査地区

---

高岡市埋蔵文化財調査概報第36冊

市内遺跡調査概報VI

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7番50号

1997年3月31日

印刷所 小間印刷株式会社

富山県高岡市利屋町3

---

2020-2021